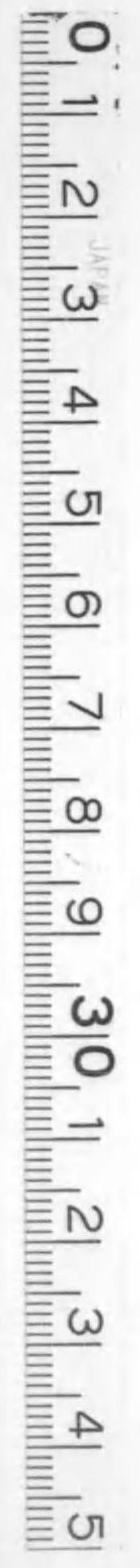


342  
466



始



342  
466

新 最

梨樹栽培書

農學士 芳賀 五郎 著  
多田 喜造 著



東京華房發行

342-466

# 最新梨樹栽培書

農學士芳賀鋏五郎  
多田喜造著

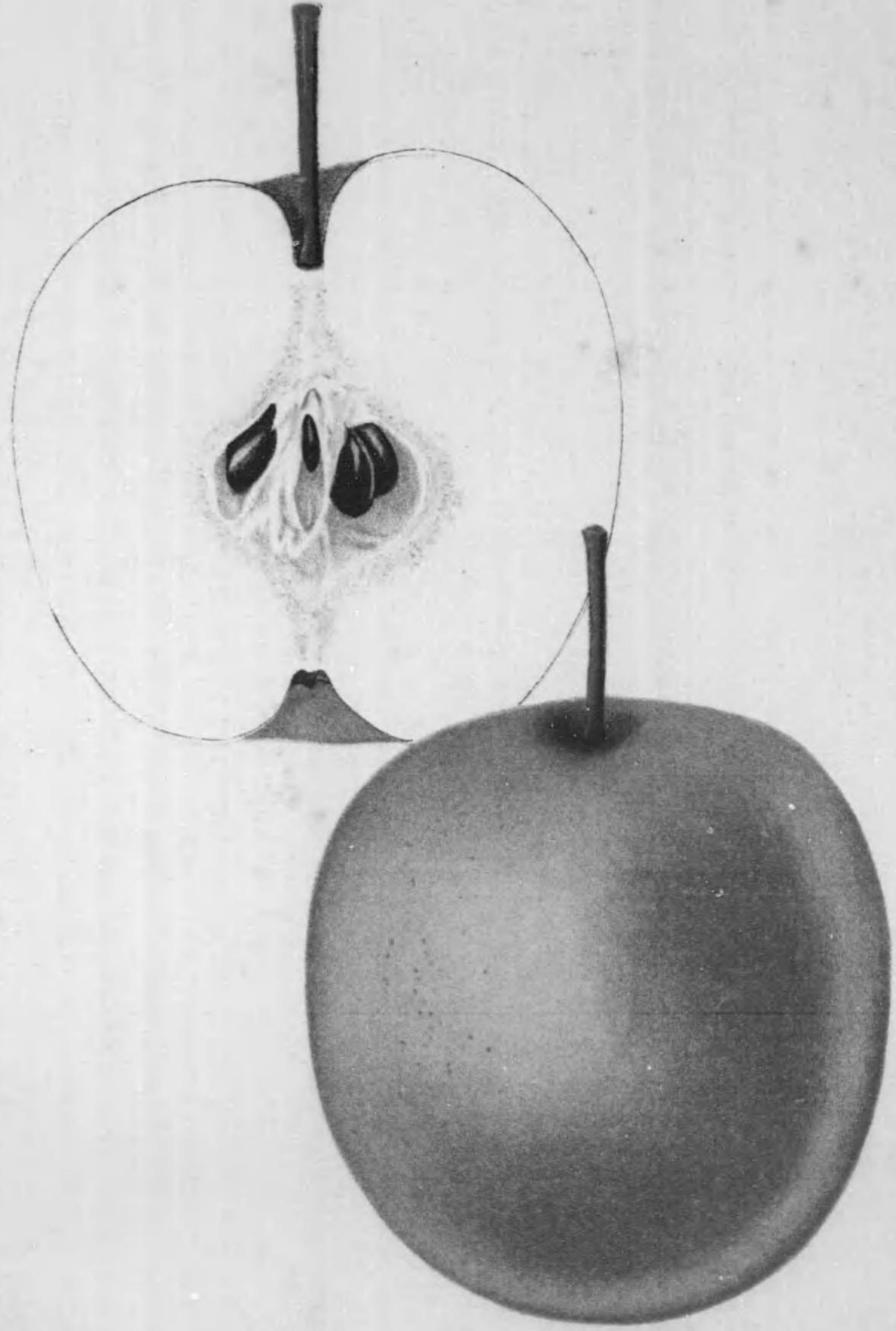
大正  
3. 4. 23  
内交

東京 裳華房發行

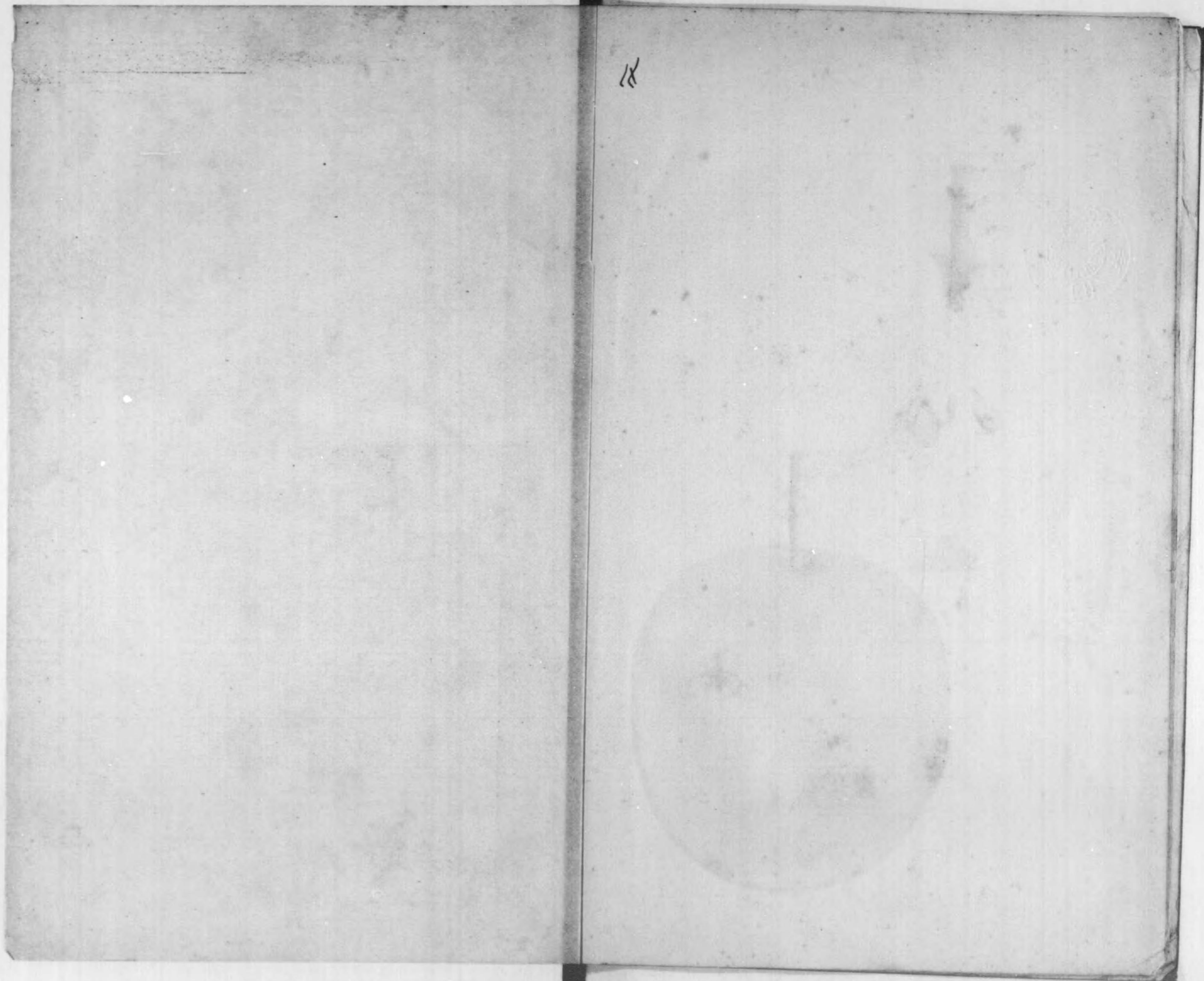
恩田農學士に高  
恩を謝して本書  
を捧ぐ

著者

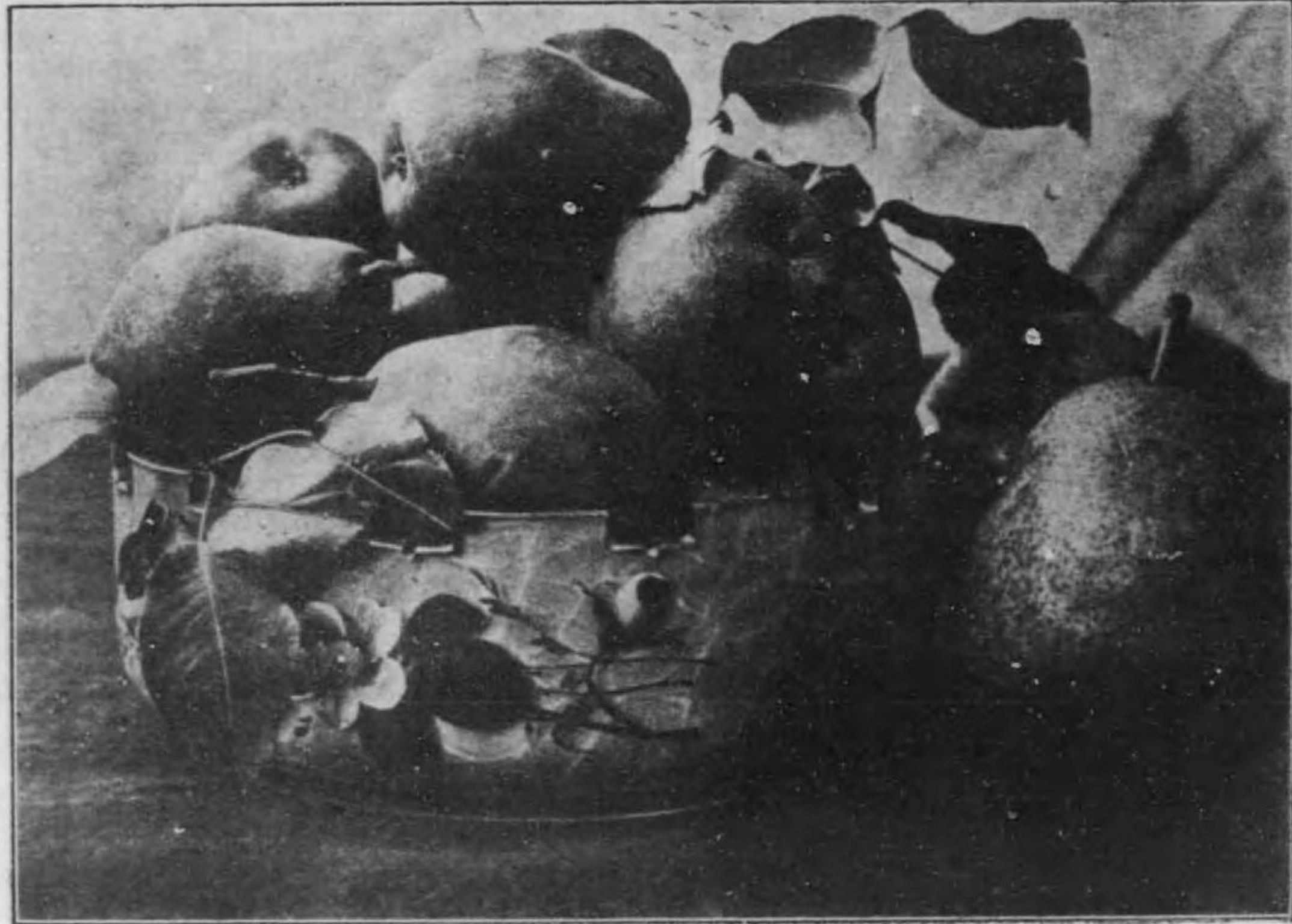
種郎十長 品優最の梨本日



恩田農學士に高  
恩を謝して本  
を贈る

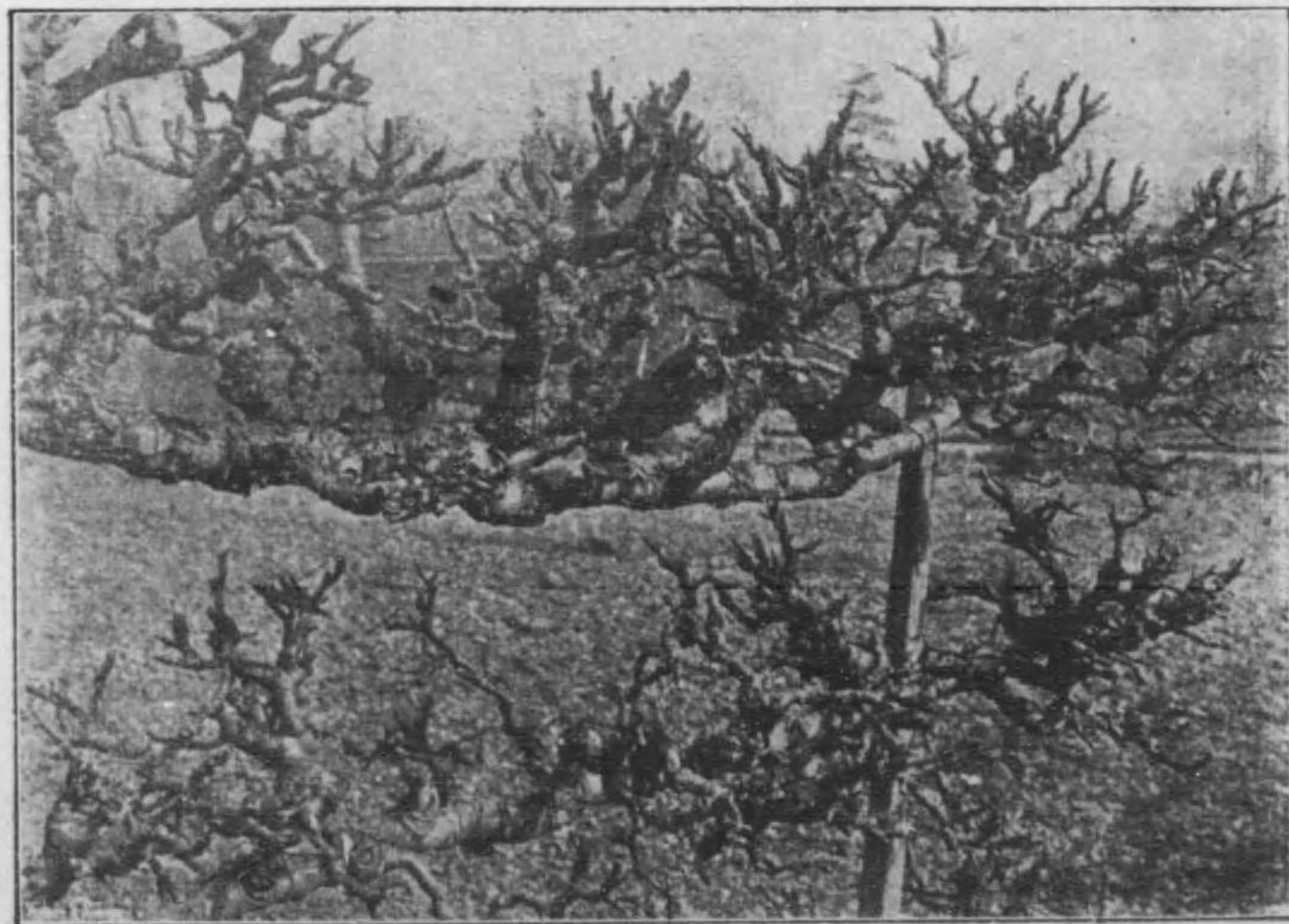


18



品 優 最 の 中 梨 洋

(上机)ムーレグンダ、スセツェデと(中皿)シルェジデ、ンーボイル



枝 果 成 老 の 梨 る け 於 に り 作 根 垣

る 採 に 藝 園 樹 果 の 氏 兩 ス マ ー ト、ド ー ヤ ン バ

凡例

一 本書は果樹栽培に従事する實業家、並に斯道研究者の伴侶たらしめんが爲めに、先年來農商務省(興津)園藝試驗場と、臺灣總督府園藝試驗場とに於て得たる、學理と實驗を以て著述したるものなり。

一 本書は専ら實用的の方面に重きを置き、學理的の論究を避け、栽培の大要を記せり。然りと雖も著者の淺學不才なるに加へて實驗尙ほ淺きが爲め、或は誤謬なきを保せず。幸ひ識者の教示を俟つて他日の完成を期せん。

一 著者文辭に嫻はず、字句の穩當を缺くもの多からん。讀者幸ひに之れを諒せよ。

一 本書の發行に際し臺灣總督府園藝試驗場主任芳賀農學士は



# 最新梨樹栽培書目次

第一章	緒論	一
第二章	來歴	六
第三章	氣候	九
第四章	土質及地勢	一二
第五章	種類の撰擇	一八
第六章	種類の解説	二三
第一	本邦種	二二
第二	外國種	四二
第七章	繁殖法	七五
第一	實播法	七六
第二	挿木法	七七

凡例

周到なる校閲の勞を取られたり。是著者の最も多とするところにして茲に謹んで謝意を表す。

二

大正三年四月三日

著者識

第三	接木法	七八
一	砧木の撰擇	七八
二	接穂の撰擇	八五
三	接木の種類及方法	八五
四	接臘	九六
第八章	栽植法	九七
第九章	肥料	一〇二
一	窒素質肥料	一〇八
二	磷酸質肥料	一一三
三	加里質肥料	一一五
第十章	耕耘及除草	一二三
第一	耕耘	一二三
第二	除草	一二三

第十一章	性態	一二五
第一	不實枝	一二五
第二	結果枝	一二八
第十二章	花と受胎作用	一三二
第十三章	剪定	一四三
第一	冬季剪定法	一四五
第二	夏季剪定法	一五一
第三	根部剪定	一五四
第十四章	整枝	一五六
一	ピラミッド	一五六
二	ヒュイゾー	一六二
三	盃形状	一六四
四	カンデラーザル	一六六

五	コルドン	一六九
六	バルメットホリゾンタール	一七五
七	棚作	一七五
第十五章	摘蕾及摘果	一七九
第十六章	梨果の保護	一八一
第十七章	收穫及貯藏	一八三
第十八章	荷作及販賣	一八七
第十九章	梨果の加工	一八九
第一	梨酒製造法	一八九
第二	梨果の罐詰製造法	一九一
第三	梨果の密漬法	一九二
第四	梨果の甘露煮法	一九三
第二十章	間作	一九三

第廿一章 病蟲害

第一	病害	一九五
一	梨の腐爛病	一九五
二	赤星病	一九八
三	黒星病	一九九
四	葉腫病	二〇一
五	根腐病	二〇二
六	硬化病	二〇二
第二	蟲害	二〇三
一	果蠹蟲	二〇三
二	葉虱	二〇六
三	蚜蟲	二〇七
四	サンホーゼ介殼蟲	二〇九
五	黒星介殼蟲	二一一

目次

六	アケビの木の葉蛾	六
七	コガタの木の葉蛾	二二三
八	葉卷蟲	二二三
九	椿象	二二四
一〇	舟形蛭蝻	二二五
附録	本邦に於ける梨の主産地	二二六

最新梨樹栽培書目次 終

最新梨樹栽培書

農學士 芳賀 鉄五郎 閱  
多田 喜造 著

第一章 緒論

梨は現時我國に於ける重要果樹の一つにして、遠き昔より栽培せらる。其花の純白にして清艶清姿、花時の梨園は宛然満園に白雪の香を籠めたるの觀あり、古來梨花が詩人文士の資料となる、亦宜なりと云ふべし。其果は品種によりて多少の差ありと雖ども、概ね蒸熱厭ふべきの候に熟し、甘酸適宜、果液滴々として以つて避暑的好需品たるべく、且つ滋養成分に富み、消化し易きに至りては正に是れ衛生的好需品たるべし。洋の東西、國の歐亞を問はず、梨果を珍愛嗜好すること、他果を凌ぐの觀あるのみならず、世人の一層之れが繁殖を圖り、栽培に力を致

す所以のもの、蓋し偶然にあらざるなり。然して今や國運の隆盛は國民の生活程度をして上進せしめ、世の文運は國民思想の向上を促し、茲に娛樂の進歩嗜好の變遷となり、世人の需用は俄かに其精を撰び、其美を需むるの趨勢と進み昔は村醪を以つて甘んぜし者、今はビールや果酒を呼び、食は以つて肉を欲し果物を求む、社會のあらゆる階級、沓々として皆此類なり。

斯して近來に於ける肉食の流行や、上下を通じて盛んなるは實に争ふべからざる事實にして、之れが爲め淡泊にして美味なる果物殊に梨果等の需用著しく増加したるも、亦事實なり。此秋に當り吾人が匪勉努力、精耕妙技以つて優良なる梨果の産出をなさんか、確かに需用者の歡迎を博し、是等梨果の需用大に増加すべきは、理の當然にして、常識ある者の斷じて疑はざるところなり。然りと雖ども、前述の事情を辨へず、慢然梨樹の栽培を行ひ、依然として舊套を化脱せざるに於ては、梨果の需用愈々増大ならんとする今日、甚だ憂へざるを得ず。既に業を梨樹栽培に置くものは、無論のこと今後新に開園せんとするものは、宜しく此點に向つて着眼し、第一着に適當なる品種の撰擇を行ひ、植うるに好適せる風土を

## 最新梨樹栽培書

以つてすべく、剪定の術、整枝の法は、是を梨樹其者の習性に鑑み、施肥及中耕の如きは、何れも、之を學理と實地とに俟ち、極力栽培法の改善發達を期し、産額の増加と品質の上進を圖ると同時に、亦一面に販路の擴張と販賣の方略を講ぜざるべからず。

## 最新梨樹栽培書

現今梨樹栽培の將來を論ずるもの動もすれば、單に一部地方に於ける市場の梨果集散を見て、直に生産過剰を口にし、之れが栽培の利益を懸念するもの往々あるが如し。是徒らに論者識見の淺薄なるを自白するに似て、寧ろ滑稽事と云はざるを得ず。請ふ論者少しく活眼を開きて内地梨果需給の實狀を見、更に視線を海外輸出の上に及ぼさば、直に梨果供給の不足なるを知るべし。現に石川新潟地方より近時浦鹽方面に輸出を試みるもの頗る多し、前途益々有望なるを知るべきにあらずや。

思ふに浦鹽方面の地や廣大にして、無限の購買力を有す。而かも我を相去る、眉目も管ならざるに於ては、實に天與の賜と謂つべきなり。されば今後梨樹の栽培に一大改良を行ひ、品質の上進を圖らんか、尙現時に二倍三倍の産額を見ると

雖ども却つて收支相償はざるが如き悲境を踏むこと、斷じて之れなかるべく、當業者たるもの宜しく其暗に安んじて益々改良進歩の方策を講ずべきなり。

次に余は更に進んで洋梨と我在來種とに關し、少しく比較論究せんに、洋梨の多くが成熟するも尙綠色を帯び、果形甚だ異様なるを以つて、常に在來梨果にのみ接したる邦人には一見外觀の美を缺き嫌厭するに似たりと雖ども貯藏庫より出して一度之を口にする時は、肉質柔軟多汁舌頭に溶解して毫も渣滓を残すことなし、加ふるに其の一種言ふべからざる佳香と甘味とは思はず快感を呼び鳴呼洋梨なるかなと、嘆ぜしむるに至るべし。されど洋梨が本邦梨の如く採收後直ちに食し能はざると、比較的腐敗し易きことは、共に洋梨の缺點とするところにして、宜しく相當の注意を拂はざるべからず。本邦在來の梨果は之等の缺點はなしと雖も、香味共に少なく、且つ果肉硬質にして食して舌頭に渣滓を残し、さながら砂を咀むが如き感あらしむ。西人は本邦梨を評してサンドペリアと云ふ、遺憾ながら此評亦適中せるにあらずや。斯く兩者品質の優劣を論じ、來れば後者は前者に及ばざること遙として遠く、所詮日を同ふして語るべからざるな

り。洋梨の品質や、夫れ如斯優良也。然るに之れが栽培微々として振はざりしは何ぞや。曰く世人の洋梨栽培の經驗に乏しかりしと、時勢洋梨を要求せざりしに歸着するや明なり。今や沓々たる世の文運は是等の面白からぬ事情を打破し、本邦に於ける洋梨の消費額は俄然増大するに至り、洋梨の供給は到底今日ある需要の十分の一をも充たすこと能はず、只辛うじて上流社會の一部分に應ずるのみ。然かも一般の趨勢は多大なる洋梨の供給を欲す。思ふて茲に至らば洋梨栽培の將來も亦頗る有望ならずとせんや。

然るに社會通ならざる世の栽培家の中には、洋梨の果形異様なるが爲め、之を侮つて瓢單形と呼び、或は邦人に不向なるべしとの杞憂を懷くやうなり、畢竟彼等は十五六年前の夢を今尙繰返しつゝあるものにして、苟も今日に於ける吾人果樹栽培家の採る能はざるところなり。

之を要するに洋梨は其品質優良なるの點に於ては、超然として本邦在來種に勝れり。加之從來誤信せられし洋梨の不結果は、既に園藝學理の發達及幾多實驗の結果として、立派に之れが解決を遂げ、茲に洋梨の結果并に利益の確實を見る

に至れるを以つて盛んに洋梨の栽培を試むるも亦好望の事業なりと謂ふべし。而して本邦梨は或一二の良種を除くの外洋梨に比して更に顔色なきは、前述したるが如し、然りと雖ども之を栽培するに日新の學理を應用し、之れに多年の實驗を加味し、種々に改良怠るところなくんば、縱令品質は彼を凌ぎ能はざるとすも、尙一層品質佳良なるものを産し、著大なる利益を得るに至るや必然たり。且つ梨の性たる和洋兩種何れも能く本邦の風土に好適し、栽培管理の法概して容易、經費亦比較的少なし、農家たるもの宜しく梨樹の栽培を圖りて、農家百年の大計を期するところあれ。

## 第二章 來歴

梨は英名を Pear と稱し、植物學上薔薇科に屬するも、本邦梨と洋梨とは其種を異にし、洋梨は羅甸名を *Pyrus Communis* と云ひ、本邦梨は之を *Pyrus Senensis* と云ふ。

西史の記載するところによれば、洋梨はもてベルシア・コーカサス地方の原産なるが如く、其栽培起原は詳ならざるも、遠く羅馬時代の昔にあるが如し。翻つて本邦梨の原産及來歴を究めんに、至つて曖昧の裡に存し、何等確證するに足るべき記録あるを知らず、西説は和梨をモンゴリア地方の原産なりと認め、是れが栽培地は主として本邦及支那なりと云へり、されど本邦にも梨樹の自生種あるを以つて見れば、或は大古の時代吾人の遠祖が本邦自生種を漸次改良して得たるものならんか、而して其栽培起原にありては何れの時代なるや明かならざるも、田中芳男氏著日本物産年表に於ける左の記載は亦以つて、栽培起原の如何に古きかを推知するを得べし。

光孝天皇ノ仁和三年(距今約千二十年)信濃ノ國貢獻ノ期ヲ定メ例貢ノ梨ハ毎年十月別貢ノ梨ハ十一月トス

想ふに信濃は仁和の時代、既に梨果を以つて重要國産の一つたりしや明かなり、爾來幾星霜を閲するの間、幾多の變遷と改良の結果、遂に今日ある盛況を見るに至りたるが如し。洋梨の始めて本邦に輸入せし年代は甚だ確かならずと雖と

も思ふに明治四五年の頃、苹果と共に舊開拓使青山官園に移したるが、抑々の創  
めなるが如し。而して之を培養繁殖して、苗を各地に配付し、試植せしめたるは、  
實に明治六年頃なりと知るべし。續いて明治七年内務省の勸業寮を設くるや、  
盛んに外國果樹の苗木を購入繁殖して、切りに之等果樹の栽培を民間に奨勵し  
たるは、一般世人の記憶せるところならん。又前田正名氏の佛國に航して、彼の  
地に於ける洋梨の良種を齎せしは、明治八年頃にして、勸農局用地なるものを三  
田四國町に設け、洋梨其他外國果樹の試験繁殖をなし、諸國に向つて苗木の配付  
を行ひ、之れが栽培の普及に努めたるは、實に明治十年松方正義氏の勸農局長た  
りし時代なり。

斯くて明治七年、時の勸業寮は西洋果樹目録なるものを編し、各府縣に配付せり  
と聞けるも不幸にして余は未だ之を見ざるが故に、此時如何なる種類が如何に  
多く輸入せるやを知らざるは頗る遺憾なり。更に降つて明治十五年の發行に  
かゝる、農務局の舶來果樹目録は既に百二十有餘種の洋梨を載せ、現今有望の洋  
梨は何れも此時代輸入せしものなるが如し。而して當時は世人洋梨の栽培に

無經驗なりしが爲め、概ね失敗に終り、茲に洋梨不結果の説を唱導し、當業者をし  
て一時路頭に迷はしむるに至れりと雖も、其後星移り時の代はるに従ひ、洋梨の  
栽培に多くの經驗を重ねるもの多く、就中恩田農學士、目下農商務省園藝試験場  
長の如き、専ら洋梨の研究に腐心せられたるを以つて、久しく疑問に附せられし、  
洋梨の問題は遂に解決を見るに至り。今や洋梨栽培の利益確實となり、各地に  
成績の見るべきもの實に多大なるに至れるなり。

### 第三章 氣 候

凡そ梨樹が氣候を撰擇することの嚴ならざるは、内外に於ける幾多實驗家の説  
皆能く一致するところなり。然りと雖も、氣候に自ら適否ありて、栽培の利益に  
關係すること著大なるを以て、氣候の事や決して等閑に附すべからず。况んや  
氣候は土壤と少しく其趣きを異にし、人力を以て是を左右するの範圍極めて狭



小なるに於てや。然して梨樹栽培上好適の氣候如何は、梨園の地勢及種類品の異なるに従ひ、多少相違なき能はざるが故に、一概に論ずるの到底難事たるを免れずと雖ども、而かも一般より是が觀察を下さば、大體に於て苹果樹と同じく夏間雲量及雨量多き溫暖濕潤の地よりは、寧ろ乾燥寒冷の地に適するものゝ如し。されど寒氣激甚なる地方にありては、冬季霜雪の爲め不則の損失を招く事蓋し尠なからざるを以て、開園に先だち其地方に於ける降霜降雨の具合寒溫の模様を、土地の古老先覺者に質すは實に緊要なる事なりとす。

梨樹の寒氣に抵抗する程度は種類によりて差あり。洋梨の中には攝氏零下四度の低溫に耐ゆるものありと雖ども、普通梨樹の耐寒溫度は零下二度なりと知るべく、概して洋梨は日本梨に比すれば寒氣に耐ゆる力強きものゝ如し。如斯梨は比較的寒氣に耐ゆる力強大なるを以て、此範圍を脱せざる限り、寒地に栽培するを得べし。

梨の氣候として乾燥寒冷なる時は自然に樹枝の徒長を防ぎ、花芽の生成發達を促し結果良好なりと雖ども、之れに反し溫暖濕潤なる時は獨り枝幹の成長旺盛

に過ぎ、却つて結果作用をして不良ならしむるは一般識者の是認するところに於て、是れやがて梨が西海南海の暖地より寧ろ北越東北の如き寒地に名果ある所以なり。されど亦思へ九州の北端筑後の柳ヶ瀬に優品を産し、徳島香川愛媛等の諸縣に新開梨園續々として多きを加へ、其成績の悔るべからざるものあるを。依是觀之南方の暖地とて強ち栽培の見込なしと言ふべからず。要は只良果を生産するの稍困難なりと言ふにあるのみ。

聞くところに依れば朝鮮に於ける洋梨は表層丈餘にも及ばん深き肥沃の地に栽植し、別に剪定整枝に意を用ふるにあらざるも、成績頗る佳良にして實に前途有望の果樹なりと言ふ。蓋し朝鮮の如き乾燥寒冷なる大陸的の氣候が洋梨の栽培に適當せるの故ならんか。

之を要するに梨は洋梨と和梨とを論せず、一般に乾燥せる氣候を要すると雖ども、六七月の候専ら梨果の發育生長する時に當りては、寧ろ少しく濕潤を要すべく、既に花芽の分化せられんとする八九月以後に至らば宜しく乾燥するを要す。

## 第四章 土質及地勢

## 第一 土質

土質は亦氣候の關係と相俟つて、梨果の收量及品質に大影響を與ふるは、實に争ふべからざる事實なり。吾人の經驗に依るに、梨樹は其性强健なるの故か大概の土質には生育結果するに似たり。然りと雖ども低濕堅實に過ぐる重粘土、輕鬆軟なる火山灰土、及有機物質に富む腐植質土(黒ぼく)等は是れが適地たらざるが如く、第四紀新層より成る排水佳良表層餘り深からざる肥沃の砂質壤土に最も豊産且つ優品を産す。之れに次ぎて成績良好なるは乾燥し易き埴質壤土(粘質壤土)等にして其他第三紀花崗岩質の土質、及秩父古世層より成る礫質壤土の如き理學的性質良好なる土壤は更に妙なりと云ふべく、洋梨の如きは寧ろ是

等の土質を撰ぶに利あるものゝ如し。斯の如く梨の適地は過度なる重粘土を除き、寧ろ堅實重粘の土壤たるべきなり。

若し夫れ梨樹を栽培するに當り、前述せるが如き輕鬆膨軟なる火山灰土乃至腐植質土を撰定せんか、樹は所謂肥過の弊に陥りて樹枝の生長獨り旺盛を極め、花芽及果枝の生成をして不完全ならしむ。故に假令開花するとも結果意の如くならざるが常なり、されど止むを得ずかゝる輕鬆肥沃の地を利用してせんと欲せば、宜しく經濟事情の許す限り其處に粘土、若くは砂礫の如きものを運びて客土法を行ひ、以て土壤の理學的性質を改善すると、共に亦一方にありては剪根法を施して、専ら枝幹の發育を適宜に抑制せざるべからず。

從來本邦在來の梨は地下水高き濕地に栽培して成績の見るべきもの多し。見よ京都府奈良縣の如きは水田中に盛土して是れを栽培せり。山形地方の梨亦如斯く、其他神奈川靜岡乃至は新潟石川の如き、何れも水田利用にあらずんば是れに接近したる低濕の地ならざるはなし。只僅かに廣島岡山香川等に高燥なる傾斜地を利用するものあるのみ。従つて世人の多くは梨の適地を濕潤地な

りと思慮するの觀あり、之れ皮想の見解も亦甚だしからずや。  
 元來梨樹の性たる水を好むの植物にあらざるは、少しく梨樹栽培に經驗あるもの、熟知するところにして、殊更茲に論ずるの價値なし。然りとせば梨樹栽培上強いて水濕停滯の土質を撰擇するの必要なきにあらずや。たゞ梨樹は之を苹果樹に比すれば、濕地に抵抗する力稍強大なるが如し、勿論本邦梨は氣候及位置等の關係によりて然るならんか、濕地に優良の果實を産出するの實例之れなきにあらずと雖ども、そは異數にして之れを以て一般を律し難し。今余は乾濕兩地に於ける栽培の結果を左に比較表示せん。

乾燥地	樹齡	結 果	熟期	果液	風 味	貯 藏	品質	病蟲
乾燥地	長し	結果期に達すること遅し	早し	少し	甘味に富みて香氣高し	貯藏に耐ゆ	上	少し
濕潤地	短し	結果期に達すること早し	遅し	多し	甘味少なく香氣乏し	貯藏に耐へず	下	多し

此表に依つて觀れば、濕地を撰擇するの不利にして乾燥地の有利なるや、一目瞭然たりと雖ども、亦乾燥著しき土地は常に之れが適地ならざるを記慮せざるべ

からず。

以上述べ來りたるところに依つて考ふる時は乾燥其度を得たる肥瘠中位の土壤にして、輕鬆に過ぎんよりは寧ろ堅實緻密の土壤是れが梨の適地たりと云ふを得べし。然りと雖ども梨の適地は品種及砧木の如何によりて異なれり。知らずや、洋梨の砧木として殆んど吾人の理想に一致する椗梓が却つて濕潤輕鬆の土地を好み、排水佳良なる高燥地を嫌ふの傾向あることを。

神奈川県	橘樹郡大師ヶ原村附近	砂質壤土—粘質壤土
静岡県	富士郡田子ノ浦附近	砂質壤土
千葉縣	東葛飾郡八幡附近	砂質壤土
新潟縣	東、西、中、南蒲原ノ諸郡	壤土—砂質壤土
石川縣	金澤市附近	粘質壤土—礫質壤土
岐阜縣	安八郡大垣町附近	粘質壤土—砂質壤土
京都府	綴喜郡八幡南山附近	粘質壤土—砂質壤土

奈良縣 生駒郡安堵村附近  
 岡山縣 赤磐郡可真村附近  
 香川縣 香川郡鬼梨村附近  
 愛媛縣 温泉郡道後村附近

壤土  
 砂質壤土—礫質壤土  
 砂質壤土—礫質壤土  
 粘質壤土—砂質土

## 第二 地 勢

梨樹園の地勢如何は直接受光量の多少となり、温度の高低となりて、植生上多大の關係を有す。されど其適當なる地勢にありては、古來より衆説區々にして、或は北面傾斜を擇び、或は南面、又は西南面を可とし、其是否曲直は地方的、土地の状況に關係するを以て、今俄かに決定するは所詮不可能の事に屬するも、夏季雨量多く且つ高温なる地方以外にありては、必ずや北面傾斜を避けて南面又は東南面傾斜の地を擇ぶべし、是れ蓋し北面傾斜の土地は陽熱を受くること少なきが爲め、果實の豊大美味期すべからざるに反し、南面又は東南面の地は陽光の透過自在なるを得て、果實の色澤艶麗香味優良のものを生産するの利あればなり。

元來梨樹は其習性として發芽に先立ち、催蕾開花するものなるが故に寒地にありては、往々晩霜の害を蒙り、爲めに花梗は凍傷し、花蓋枯死して結果不良に終るは其實例に乏しからず。現に米國ニューヨーク附近并にニューヨーク地方に於ける、西曆千八百六十三年五月二日の霜害の如きは、實に花の十九分の一を破るゝに至れりと云ふ。されば霜害に罹り易き地方にありては、特に南面若しくは東南面傾斜の場所を求めざるべからず。而して傾斜角度の大小は傾斜の方向と共に考慮すべきことにして、其角度は可及的小なるを貴ぶ。是れ傾斜角度の愈大なるに従ひ、益々作業上に多くの不便と困難とを感ずるのみならず、土地の乾燥と瘠薄とは次第に其度を超過し、生産するところの果實は果液少なく、風味概して劣變するを常とす。茲に於てか傾斜は宜しく緩傾斜たるべく、普通十五度を以て是れが極限と知るべきなり。

斯く論じ來れば、遂に梨樹の栽培は傾斜地以外に全然望みなきが如しと雖も、事實は即ち然らずして、日光空氣の流通佳良なる平坦地亦梨樹の栽培に適す。是を本邦各地の梨産地に就いて觀察するも、概ね河川の沿岸に位する平坦なる地

勢なるにあらずや。更に亦米國加州の實況に之れを徴するも、如斯平坦地を利用するもの少なからずと云ふ。

梨園の地勢撰定上風向の如何に注意するは是れ亦洩すべからざる重要事項の一つたりとす。若し夫れ然らずんば切角懇篤なる肥培の効を奏して、大果枝上に累累たるも何時無情なる暴風の犠牲となるや、神ならぬ吾人の豫め期すべからざるにあらずや。故に暴風の慮りあるところは宜しく防風林を設け、強風の襲來に備ふるの策なかるべからざるなり。

### 第五章 種類の選擇

梨は其栽培起源極めて古く、且つ世人の嗜好に適し、最も需要多大なりしが爲め、其種類頗る多く、單に洋梨のみを以てするも優に二千種の多きを數ふるに至るべく、又本邦梨のみを以てするも實に數百種の算尙足らざるに至るべし。勿

論かゝる多數の中には同名異種異名同種のものも尠なからず、加之梨樹は種類其ものゝ特性によりて樹勢の強弱病蟲害の多少あり。梨果に熟期の早晚あり、品質の良否貯藏の難易あり、更に之を用途の上より見れば、生食用種として佳なるものも煮食用として不可なるあり、又鑑詰用としての良種は同時に醸造用の適種たらざるが如く、夫々種類によりて用途を異にし、栽培に又難易あり、而して栽培の難易は直接栽培の利益に關するを以て、當業者たるもの須く之等の諸點に着眼し、更に之を地方的土地の狀況に鑑みて種類の選擇を行ひ、他日臍噬の悔なからしむるを要す。

思ふに從來の當業者は梨樹の有利なるを聞くや、利に是れ迷ひ、敢て品種の選擇を顧みるなく、慢然之れが栽植を圖りたるもの如し。故に斯るものは現今概ね失敗の悲境にあり、偶々成功したるものありとするも、それは破格の例たるに過ぎざるなり。夫れ前者の覆へるは後車の戒、今後梨樹園を開くもの大に注意し、以て先轍を踏むの愚を學ぶ勿れ。

今左に種類選擇の標準とすべき主なる注意事項を示せば次の如し。

- 一、自家用栽培に適する種類選擇の標準
  - A 樹勢強健にして病蟲の被害少なき事
  - B 果實美大にして品質最優等なる事
  - C 結果は寧ろ豊産なる事
- 二、市場用(販賣用)栽培に適する種類選擇の標準
  - A 樹勢強健にして病蟲の憂少なく且つ栽培に容易なる事
  - B 結果は最豊産にして熟期は寧ろ早き事
  - C 果實美大にして品質上等なる事
  - D 貯藏に耐ゆる力大なる事
- 三、娛樂用栽培に適する種類選擇の標準
  - A 樹勢強健にして病蟲の被害少なき事
  - B 樹枝の整正容易にして且つ栽培容易なる事
  - C 果形美大にして果色最も艶麗なる事
- 四、生食用に適する果實の特に具備すべき要件

- A 果實は余り大形ならざる事
  - B 果皮の美麗なる事
  - C 最も甘味に富み多汁にして且つ微酸なる事
  - D 肉質細微にして溶解性なる事
- 五、煮食用に適する果實の特に具備すべき要件
- A 果實の大形なる事
  - B 果心の小なる事
  - C 剝皮後酸化し易からざる事
  - D 肉質堅く煮沸するも形の崩れざる事
- 六、醸造用に適する果實の特に具備すべき要件
- A 果實は大形又は最大なること
  - B 甘味に富み且つ芳香高き事
  - C 果液の最も多量なる事

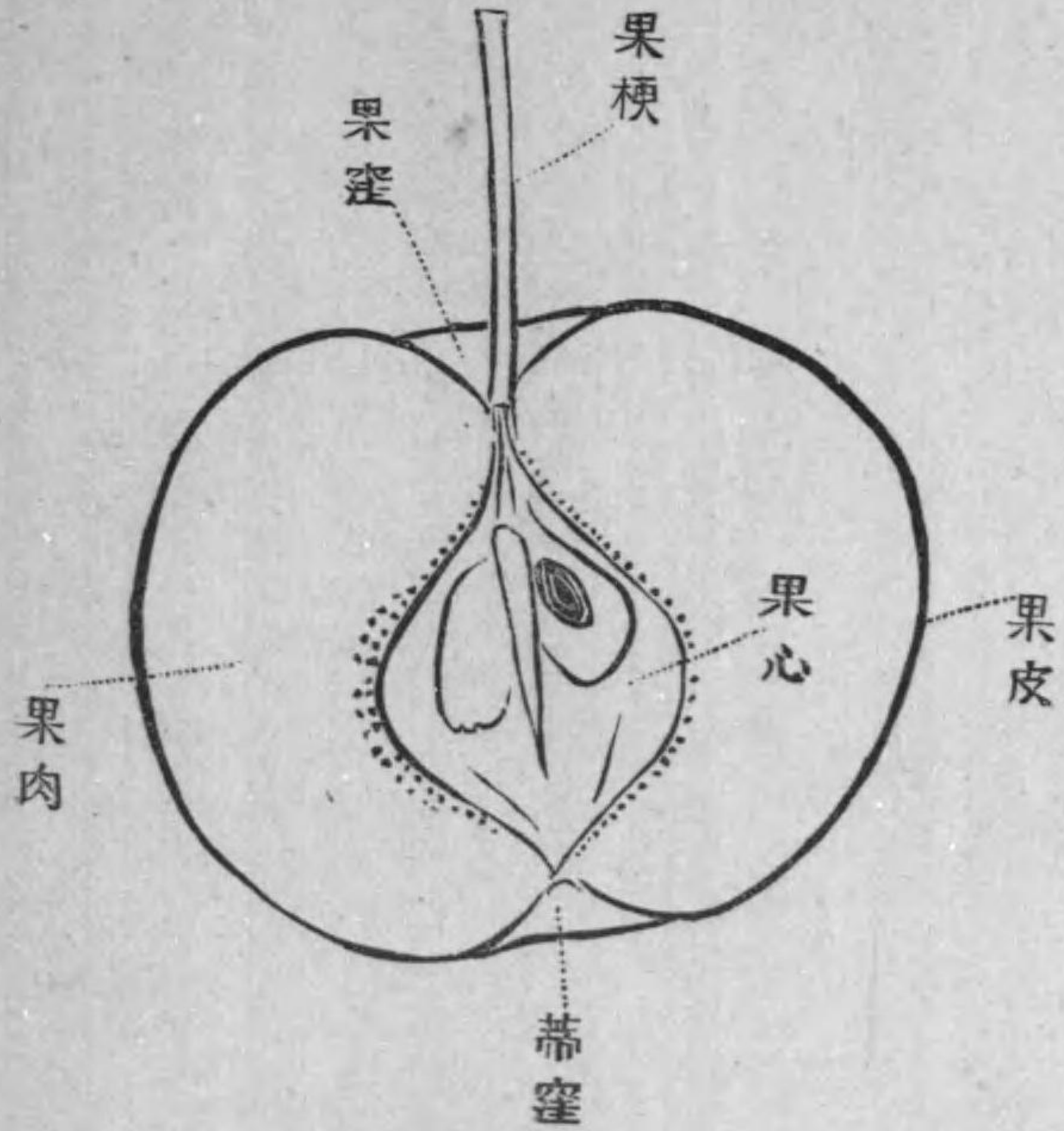
### 第六章 種類の解説

#### 第一 本邦種

##### 真中 (真鍮、新忠、巾着)

今より凡そ三十年前即ち明治四五年の頃、神奈川縣の人石渡新七氏の發見したるものにして、樹性强健、枝條の節間比較的短く、葉淡綠、狹長にして芽は瘠小、枝上に密着せり。果實は中寧ろ小にして、平均重量四十匁内外、形狀扁

第一圖 真中



圓、果皮は所謂真鍮色を呈す、肉質粗造、果心稍大なりと雖とも、多漿にして甘味に富む。熟期は八月上中旬、豐産なる無蒂良種なり。

##### 土用梨 (早生きんこ、土用きんこ、江戸梨)

岐阜縣及京都府地方に産する早生種にして、枝條稍細小なるの傾向あるも、性强健なり。

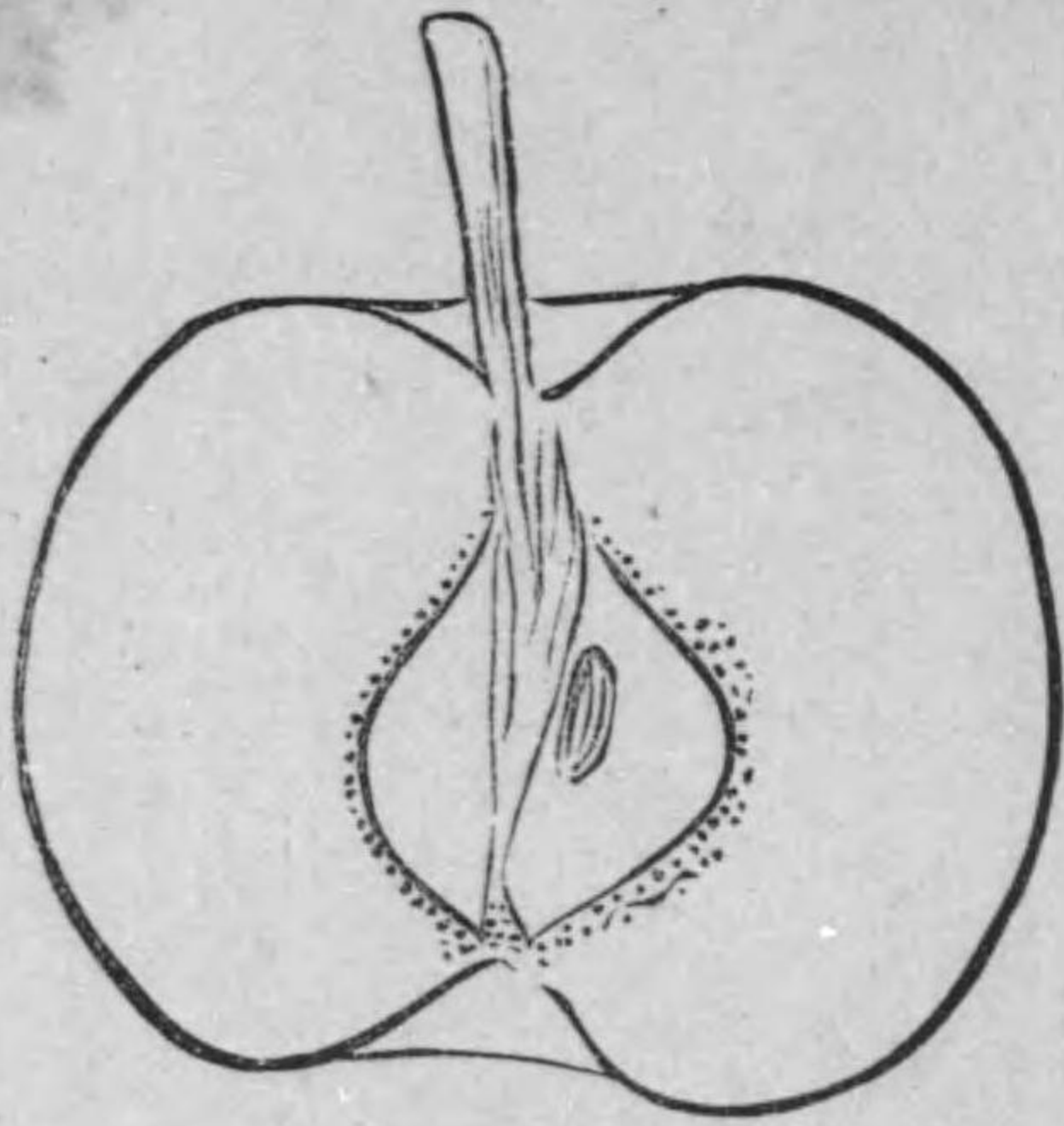
果は小にして、橢圓形を呈し、果皮黃褐色を帶ぶ。果肉は白色にして、甘味少酸良品なり。

##### 獨逸 (ドイツ)

樹性生長共に中位にして、枝は赤色を帶び、褐色小圓形の斑點を有す、芽は圓形にして短大先端少しく灣曲せり。

果實は中等大にして、稍扁圓をなし、果梗短かく、梗窪廣くして、且つ淺し、果肉は白

第二圖 獨逸



色粗造なるも比較的甘味に富む。元來此種は早害を蒙り易く貯藏に適せざるも早く熟し、永く樹上に放置して品質を害するの憂なき特點を有す。されば將來早熟種としては有望なる良種なりと云ふべく、熟期は八月中旬乃至下旬頃なり。

早生長十郎

樹枝赤色を呈するの状は獨逸種に能く類似するも、樹性强健生長良好なり。樹皮滑かにして節間は普通一寸三四分あり、斑點は小圓形淡褐色を帯ぶるも其數至つて少なし。

果實の大き中等にして重量概ね五六十匁あり。果の形狀色澤は能く長十郎種に酷似するも、果梗部の方に稍膨大せり、果梗一寸内外梗窪稍廣くして深く、蒂窪は之れに反して狭小なり。果肉は白色粗造なりと雖ども八月中旬乃至下旬に熟し、甘味多漿早熟種中の優品なり。

晚六 (奥六)

千葉神奈川及新潟縣地方に多く栽培せられ樹性生長共に良好なり。果は中又

は大にして圓形をなし熟すれば果皮黄赤色を呈し果肉白色緻密にして甘味多漿の良種なり。

今村夏

樹性强壯にして生長良好なり枝は赤色を帯び、葉及芽は大形をなす。果は尖圓形又は橢圓形をなし、一個の重量能く百匁以上に及ぶ。熟すれば果皮黄褐色を呈し、果面には稍大なる斑點を存す。果梗の長さ中位梗窪及蒂窪は何れも淺く、肉質白くして甘味多漿、有蒂種に屬する良種にして八月下旬頃に成熟す。

島田

山城國綴喜郡附近に多く栽培せらる。果は寧ろ大にして橢圓形を呈し、外皮淡黄色を帯び微小なる白點を顯す。果肉は甘味にして多汁剝皮するも、直ちに酸化變色することなきを以て料理用に適す。熟期は八月下旬なり。

衣通姫

樹性强剛にして枝は青色に赤味を帯び、灰白の小斑點少なし、葉の大きさ中にして缺刻深く、芽は稍大にして枝と大なる角度を以て附着せり。



果は中等大にて重量普通四十匁、果形圓又は扁圓をなし、外皮粗造にして黄赤色を帯び、小なる白點を有す。果梗長くして梗窪淺く、蒂窪亦淺くして有蒂種に屬し、果肉白色緻密にして甘味に富み、九月上中旬に熟して豊産なり。

感能

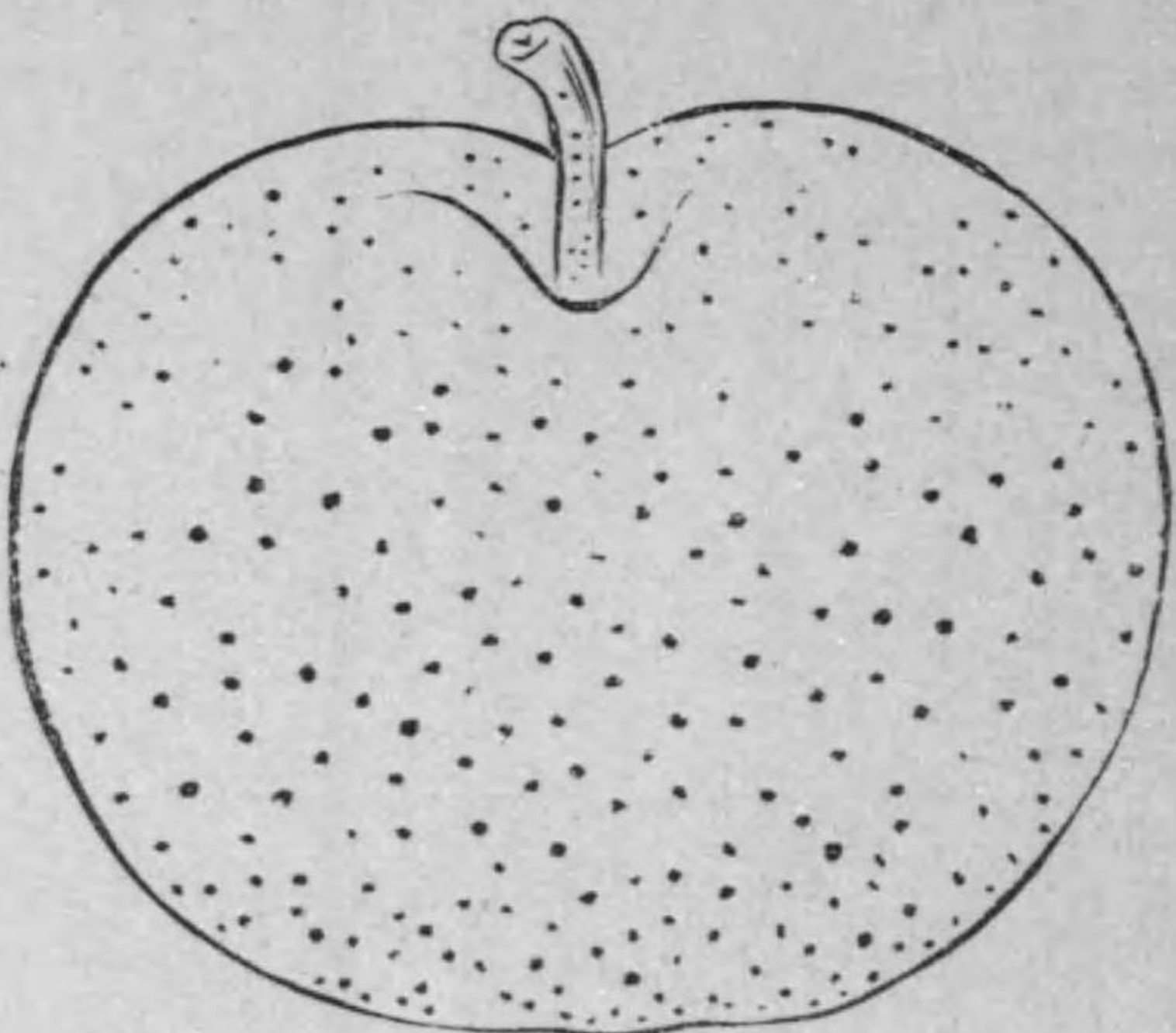
石川縣の産にして果は小圓形其狀さながら苹果の如し。果皮茶褐色を帯び、肉質粗造の感あるも概して品質宜しく、樹性强健豊産の良種なり。

大谷

滋賀縣下に産する早生種にして、枝は青色を呈し、生長盛んなり。果實は小にして外皮淡黄色を帯び、果肉白色にして剝皮後變色することなく、甘味多漿品質中等なり。

太平 (泰平、花魁、隊長、傾城)

距今六十年前神奈川縣の人、小島六郎右衛門氏の實生より得たるものにして、現今長十郎種と共に各地に栽培せられ、静岡縣下、田子ノ浦附近の如きは特に此種を賞賛栽培せり。

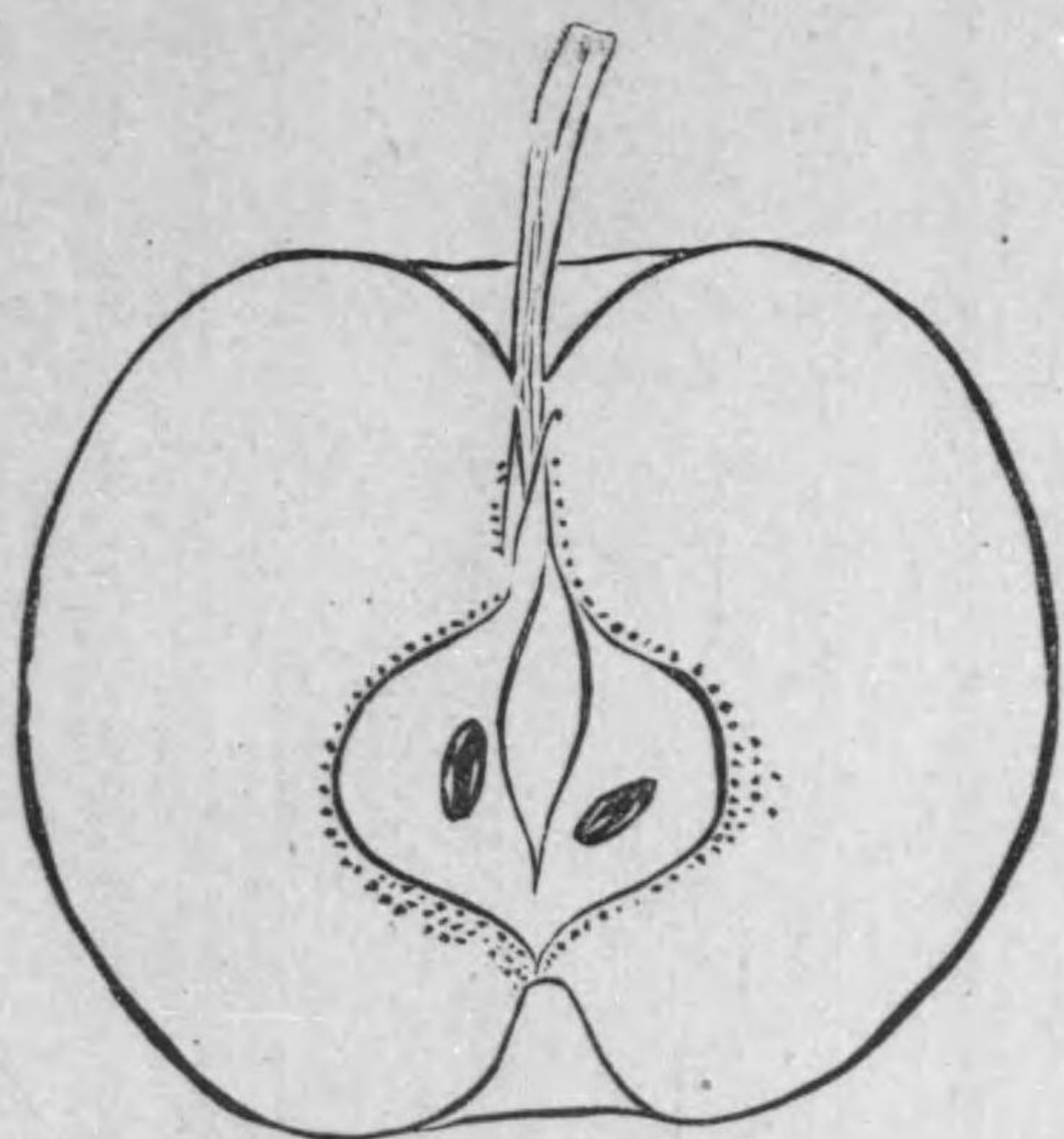


長十郎 (滿月、出長)

神奈川縣大師ヶ原村宇出來野の當麻長十郎氏により、實生より發見せられたるを以て此名あり。

樹性一般に良好なるも黒星病に罹り易く、枝梢は黄綠色にして樹斑は灰褐圓形を呈し、葉は圓大綠色をなす。果實は大にして扁圓をなし、一個の重量五六十匁位なり、果皮稍粗造にして熟すれば黄赤色を帯び、果面には稍大なる灰白の斑點を有す。果梗短大梗窪は稍廣くして深く、蒂窪は廣大なるも淺し、果肉は白色粗造なるの感あれども、甘味にして多汁極めて豊産なる中熟良種なり。八月下旬乃至九月上旬頃に熟す。

第 四 圖 長 十 郎



樹性强健生長佳良にして枝梢は黄緑色を帯び淡灰色の小斑點を有す。果は大にして形長圓に近く果皮厚さも完熟すれば黄褐色となり果面に小斑點を散布するも鮮明ならず。果梗の太さ及長さ中位にして、梗窪及蒂窪の非常に狭くして深きは蓋し此種の特長ならんか。肉は白色にして其質柔軟多汁甘味に富み品質優等にして而かも豊産なり。熟期は九月上旬頃にして收穫後一週

間内外は貯藏することを得べし。實に本邦種中の最優品たり。

旭龍 (出物)

新潟縣地方に多く栽培せられ樹性强健なり。

果實の大きさ中等にして果形稍楕圓外皮黄赤色を呈して美觀たり。果梗は長大にして梗窪は狭小なるも蒂窪は稍廣くして深し果肉白色を帯び果心稍大なるの嫌ありと雖ども甘味に富みて漿多く中熟種に屬する無蒂良種なり。

力彌

千葉縣八幡の産にして樹性强健生長速かなり。

果實は中若しくは大にして圓形又は扁圓形をなし熟すれば緑色の地に黄赤色を呈す。果肉は白色に微赤を帯び甘味少なきも漿多く且つ佳香あり概ね九月上中旬に熟す。

淡雪 (泡雪)

此種は神奈川縣川崎地方にありて八十年前より栽培せられたるものにして樹性强健葉は中等の大きさを保ち生長盛んなり。

果實は中の大に位して形扁圓をなし果皮薄くして青黄色を帯び肌細かにして滑澤あり。果梗長く果肉は稍緻密にして其色僅かに赤色を呈し多汁なりと雖ども甘味少なく品質餘り良しからざるのみならず豊凶の差著しきが故に現今

此種を栽培するもの少なきに至れり。

巾着敲 (金着)

新潟縣下の原産にして元來洋種なりと云ふ。果して真か、樹性强健にして能く病蟲害に耐ゆ。果は中等大にして圓又は楕圓形をなし、果皮赭黄色を呈して美麗なり。果肉緻密にして甘味に富み、漿多し九月上旬頃に熟する良種なり。

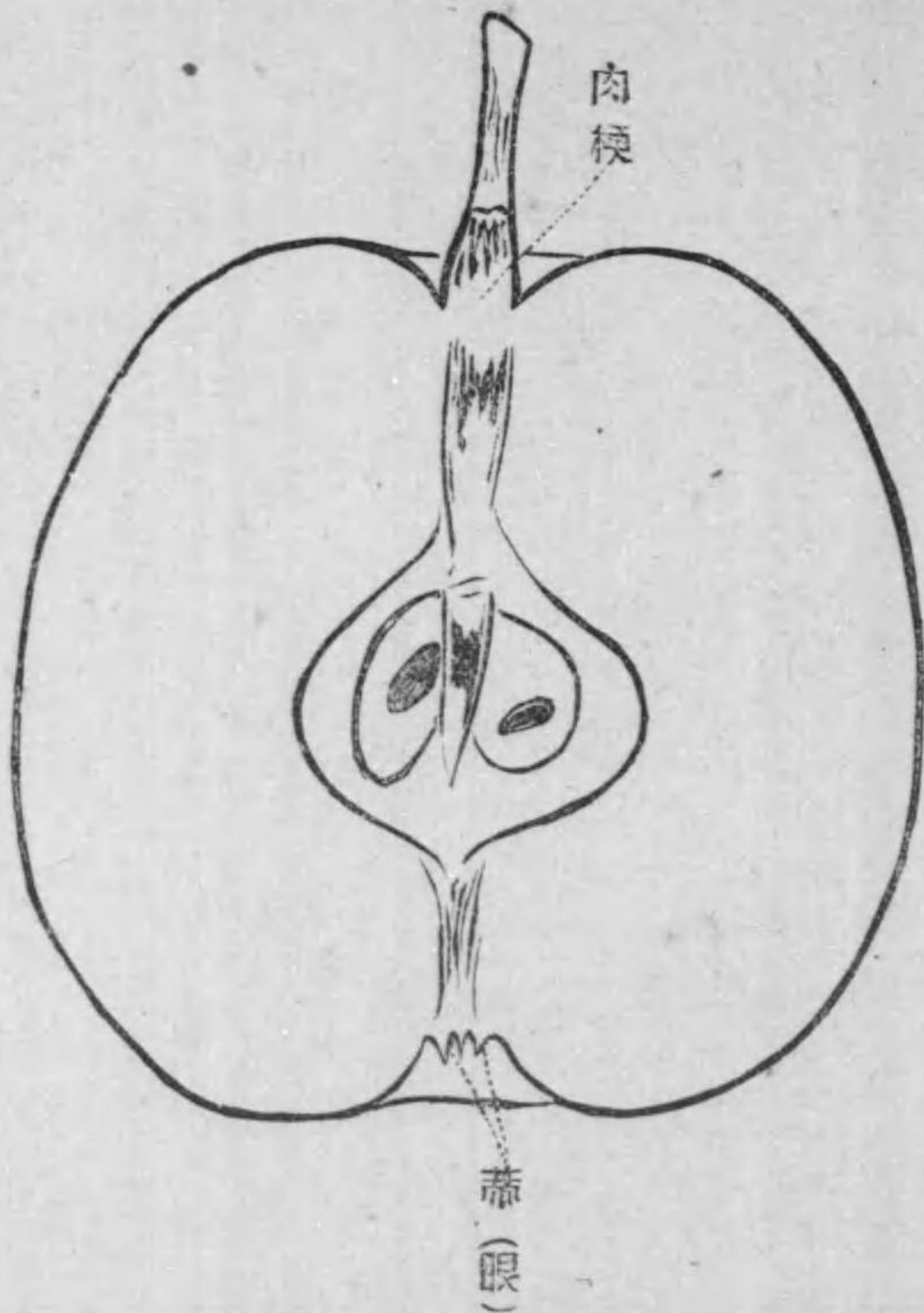
幸藏 (孝藏)

神奈川縣の原産にして、橘樹郡の倉形幸藏氏によりて、培養發見せられたるが故に此名あり。

樹性强健、生長頗る盛んにして枝は綠色に淡紫紅色を帯び、長圓形の褐斑を有す。節間の屈曲比較的多く、芽は圓くして肥大せり。果實の大きさにして扁圓形外皮淡紫色を呈し、果肉白色にして堅密甘味多漿、九月上旬に成熟す。

平子 (平四)

樹性强健、生長速かなり、果實は中若しては大にして一個の重量百匁に達することあり。果形扁圓にして外皮黄赤色、果肉は白色に微赤を帯び、稍砂粒あるも柔

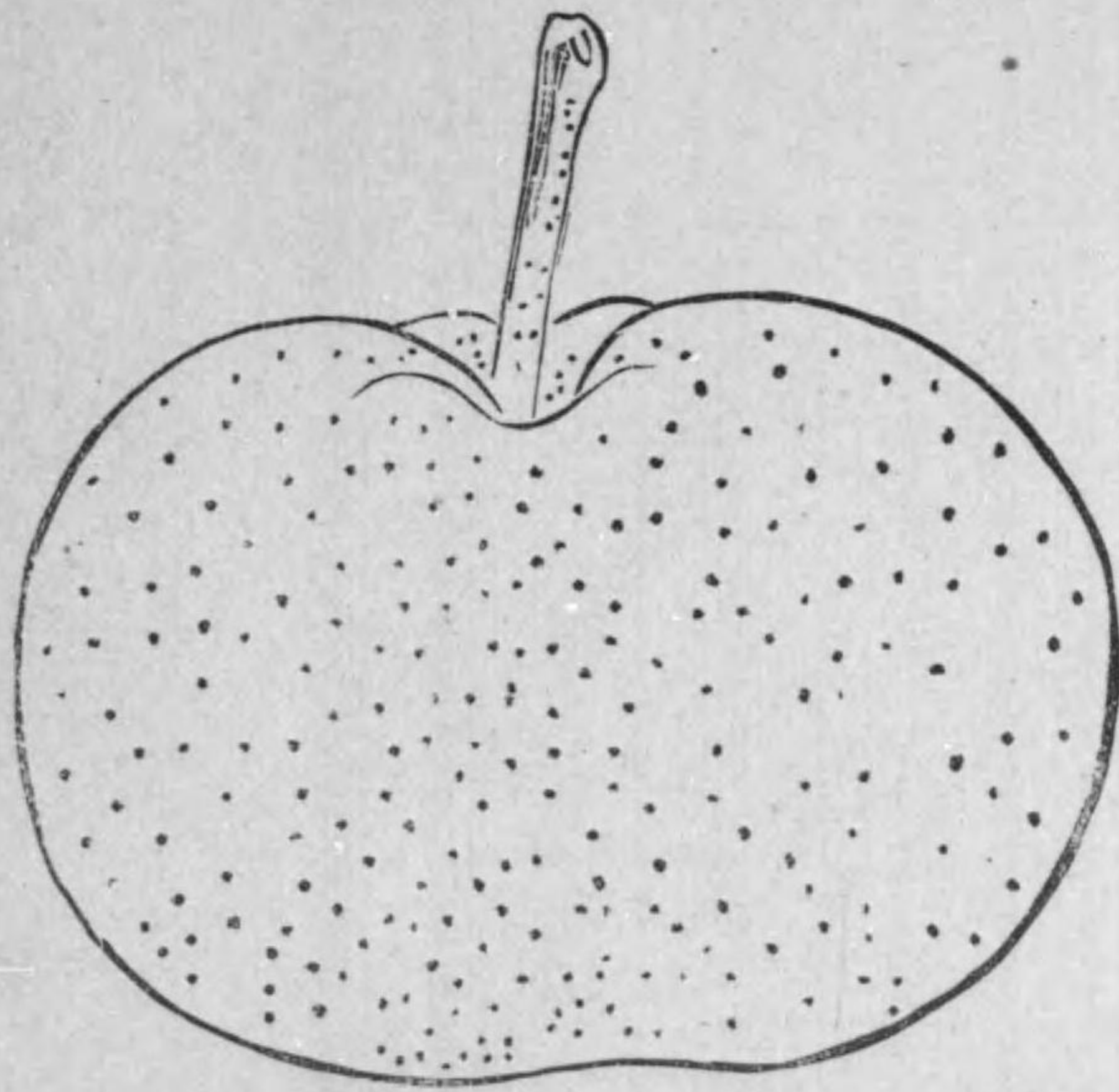


軟にして多漿甘味、太平種と相前後して熟す。

明月 (福壽)

石川縣の原産にして樹性弱く黒星病に罹り易し、樹皮は滑澤にして黄綠色を帯

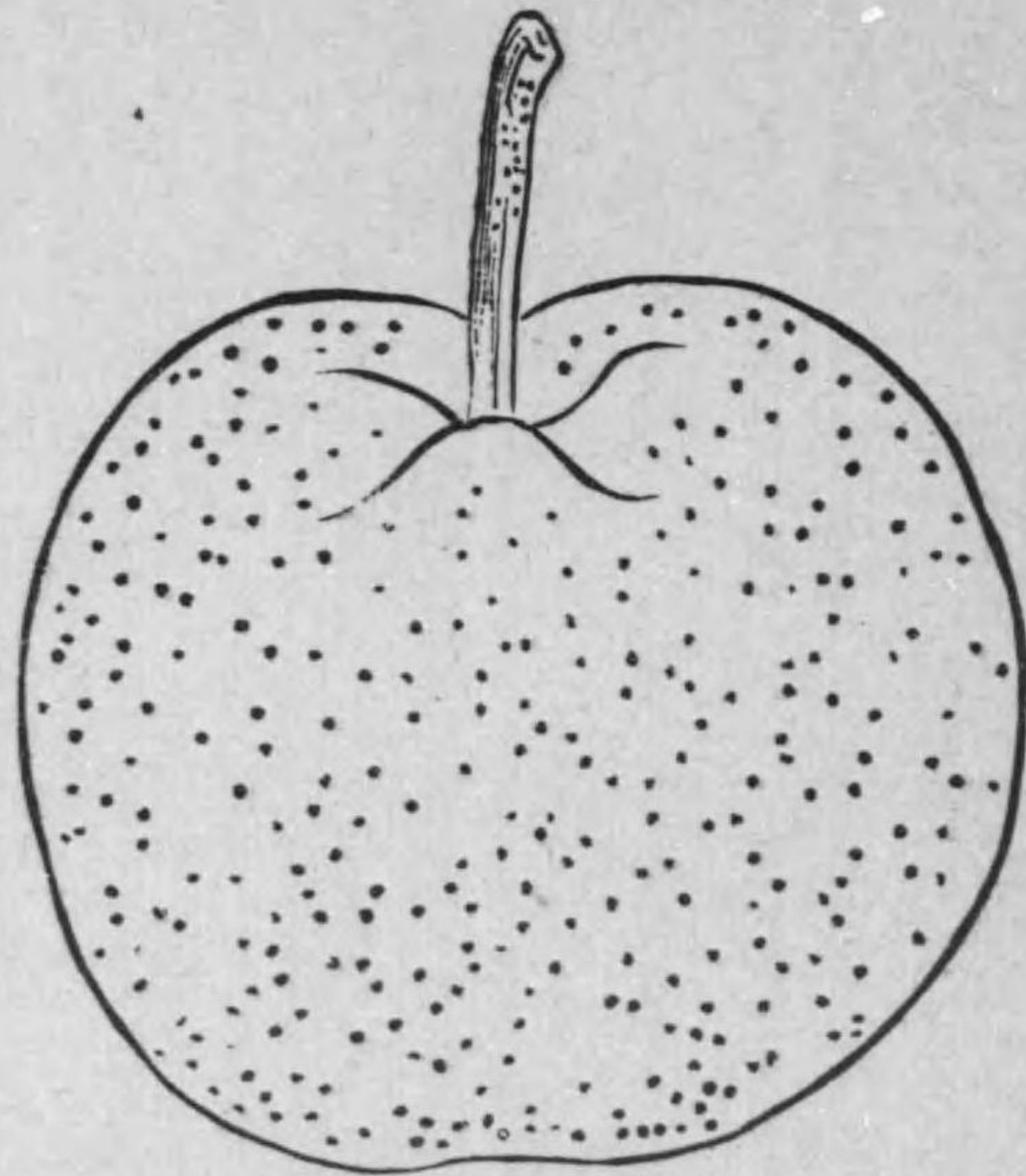
び、圓形又は長圓形の灰褐の斑點を有す。果實は中又は大にして一個の重量普通七八十匁なるも、培養懇切なるに於ては百二三十匁位の大果を得ること容易なり。果形長圓にして



外皮黄褐色を呈し、果梗は長さ中位にして肉梗なり、梗窪狭くして浅く、蒂窪浅くして眼(蒂)を有す。肉色純白、外皮を去るも容音に變色せざるの特性あるのみならず、其質緻密にして柔軟、食して舌頭に渣滓を残すことなく、甘味にして多漿、其品質の佳良なる、恐らく本邦産中此種の右に出づるものなかるべし。熟期は九月中旬とす。

世界一

新潟及京都府地方に多く栽培せられ、樹性良好、生長亦盛んなり。枝は暗緑の地に黄色を呈し、灰色を帯ひたる圓大の斑点あり、芽は長大



して枝より僅かに開き、葉は大綠色を帯ぶ。果實は大扁圓形をなし、一個の重量往々上八十匁以上に達す。果皮稍粗造にして黄緑の地に褐色、又は褐赤色を呈し、果面には中心に黒點を有する大なる白斑ありて美麗なり。果梗長大、梗窪及蒂窪は何れも稍廣くして深く、果肉は白色柔軟、食して砂粒なく、多汁、甘味にして品質優良なり。九月中旬乃至下旬に熟し、貯藏に耐ゆる性あるを以つて將來有望の良種なり。

赤種

樹性强健にして生長良好なり。果は中等大にし、一個の重量五十匁内外、果皮淡綠色の地に黄色を帯ぶるも、陽光面は赤味を呈す。果梗中位、梗窪甚だ狭くして深く、窪中より五條の溝を射出

せり。蒂窪は廣くして淺く、果肉白色柔軟にして甘味に富み、品質上等なるも餘り豊産ならざるの缺點あり。熟期は九月中旬神奈川縣の産なり。

今村秋(重次郎、土佐條、土佐城、土佐龍)

石川新潟及仙臺地方に多く産す。樹性良好なるも黒星病に弱く、枝梢は赤色を帯びて殆んど直角に分岐する性を有し。芽は圓大、新芽は甚だ赤色を帯ぶるを以て、遠望するも能く他種と區別するを得べし。

果實は大にして尖圓、又は楕圓の不正形をなし、果皮は今村夏より粗造にして其色黄褐を帯び、稍大なる灰斑を有す。果梗比較的短くして且つ細く、多少肉梗なり。梗窪は狭くして淺く、時に有蒂なるものあるも概して無蒂とす。果肉白色甘味にして多漿、九月中旬乃至下旬に成熟し、貯藏に耐ゆる豊産なる良種なり。

早生赤

宮城縣石の巻に多く栽培せらる。元來早生赤なる名稱は赤龍種より熟期を改良したるが故に、斯くは名づけたるものなりと云ふ。

樹性强剛、生長頗る速かにして、枝は青綠色に少しく淡紫を帯び、灰褐小圓の斑點

を散布す、節間長くして約一寸八九分、芽は細長にして枝上に附着せり。果實の大きさ中にして、一個の重量六七十匁を普通とし、形狀圓形若しくは長圓をなす。果皮は粗造なるも成熟すれば綠色の地に褐色を帯び、陽光面は更に赤色を呈して美觀たり、果面には灰白色の小斑點を有し、果梗長く、梗窪狭くして稍深く、稍窪至つて淺し、果肉は白色に微赤を帯び、其質粗造なるも甘味多漿にして微酸を含み、品質良好なるのみならず、能く貯藏に耐ゆるを以て近時各地に栽培するもの多し。成熟期は九月中旬とす。

赤龍(白龍)

千葉縣八幡附近の外神奈川及新潟の各地に栽培す。樹性概して強健なり。

果實は大にして圓、又は扁圓形をなし、外皮青綠色に錆色を帯び、果面には灰色の小斑點を散布す。果梗一般に細長く、梗窪及蒂窪は狭く、且つ淺し、元來此種は成熟するも青味強きが故に外觀上品質劣等食すべからざるの感あるも貯藏するに従ひ、赤味を増し、肉質柔軟甘味多漿となる。熟期は九月上旬より十月中旬頃迄の間にして、貯藏の法さへ適當ならんには翌年五六月頃迄は安全に貯藏し得

べく、豊産なる貯藏用良種なり。近來各地に栽培する貯藏梨は蓋し何れも此種の變種ならんか。

初霜

山城の國の原産にして枝梢青綠色を帯び、樹性强健、生長良好なり。果は最大稍圓錐形をなし、一個の重量百三四十匁に及ぶこと珍らしからず。果肉白色にして其質柔軟緻密、砂粒少なく漿液多くして甘味に富む。九月中旬頃に熟する貯藏用種なり。

瀬川

京都府下に産する種類にして枝條は綠色を呈し、葉の大きさ中樹性概して強健なり。

果實大形にして外皮美麗ならず。果肉白色にして甘味に乏しく、有蒂にして品質良しからざるも貯藏梨として栽培せらる。

玉水

岩手縣盛岡附近の産なり。果實は最大にして不正の卵形を呈し、果皮は黄綠色

に稍赤味を帯ぶ。肉質酸味と澁味とを帯び、品質上等にはあらずるも貯藏久しきに堪ゆ。熟期は九月下旬頃なり。

大古河 (美濃、古河、松尾、大熊)

千葉縣下並に岐阜、静岡、神奈川の諸縣に産し、樹性强剛にして生長迅速なり。

果實は最大にして一個の重量能く百二三十匁に及ぶ。尖圓又は楕圓の不正形にして、外皮暗黄色に赤味を帯び、細微なる斑點あるも明瞭ならず。果梗概して短かく、梗窪及蒂窪は何れも狹隘にして至つて淺く、果肉粗造剝皮後直ちに酸化變色するの性あり、加ふるに甘味少なくて澁味を有し、品質良好ならざるを以て市場用としては不向なるも九月下旬頃より成熟し、頗る豊産なり。

耕渡 (渡り)

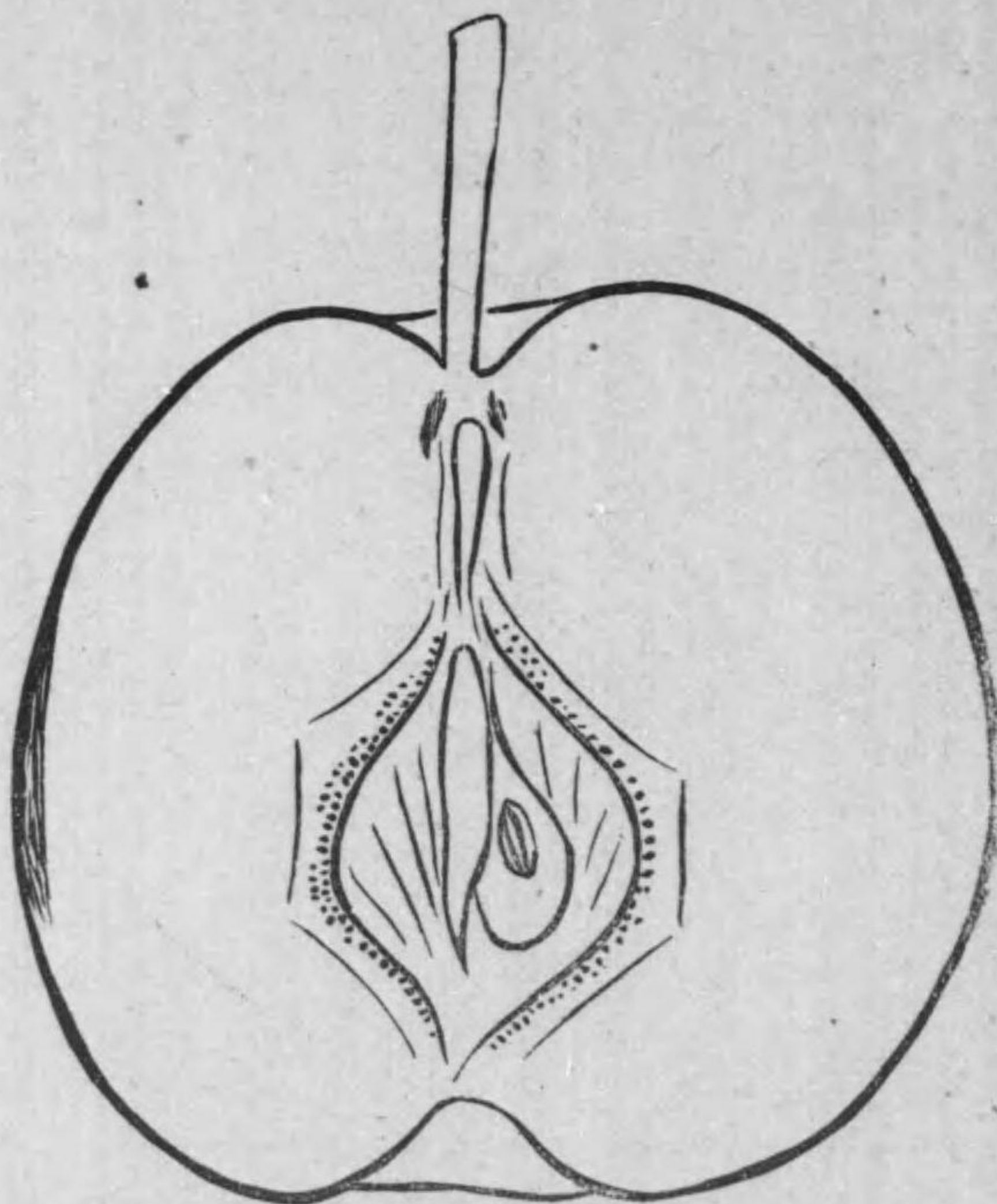
石川縣金澤市附近に多く栽培する晩生種にして、樹性概して弱きが如し、枝は暗綠色を帯びて節間短かく芽は長大なり。果實は中にして圓形、熟すれば果皮茶褐色となる。肉質多汁にして甘味に富み、且つ微酸あり、熟期は普通十月下旬貯藏法其宜しきを得ば、翌年五六月頃まで優に貯ふることを得べし。

太白

千葉縣の原産にして果實は寧ろ中等大果形ながら大平種に酷似せり。外皮滑澤にして綠黄色を帯び、小褐斑あるの状恰も黄色苹果の如し。果梗極めて短大肉梗なり、梗窪及蒂窪は稍廣くして深く、肉は白色にして緻密柔軟にして甘酸能く調和し、果液少なきの感あるも一般に品質優良結果亦多く、將來有望の有蒂良種なり。熟期は九月上中旬とす。

晚三吉

樹性强健、生長速かにして枝梢青綠色を帯び、樹皮に滑澤あり、斑點は灰褐圓、又は長圓のものなりと雖も、各所に細微なる粉狀的斑點を有す。節間の屈曲至つて少なく、芽は圓大鈍角を以て枝に附着し、葉は頗る大形にしてもとも濃綠色を呈す。果實は最大にして大なる者は一個の重量百七八十匁に達することあり、不正楕圓形にして外皮粗造暗褐色を呈し、果面には中心に黒點を有する灰斑點を存す。果梗の長さ中位にして梗窪及蒂窪は淺し、果肉白色柔軟にして砂粒殆んどなく、糖分に富みて且つ香氣高し、熟期は九月中旬乃至十月中旬、能く貯藏に堪



果皮は綠色の地に褐色を帯び、小斑點ありて美麗なり。

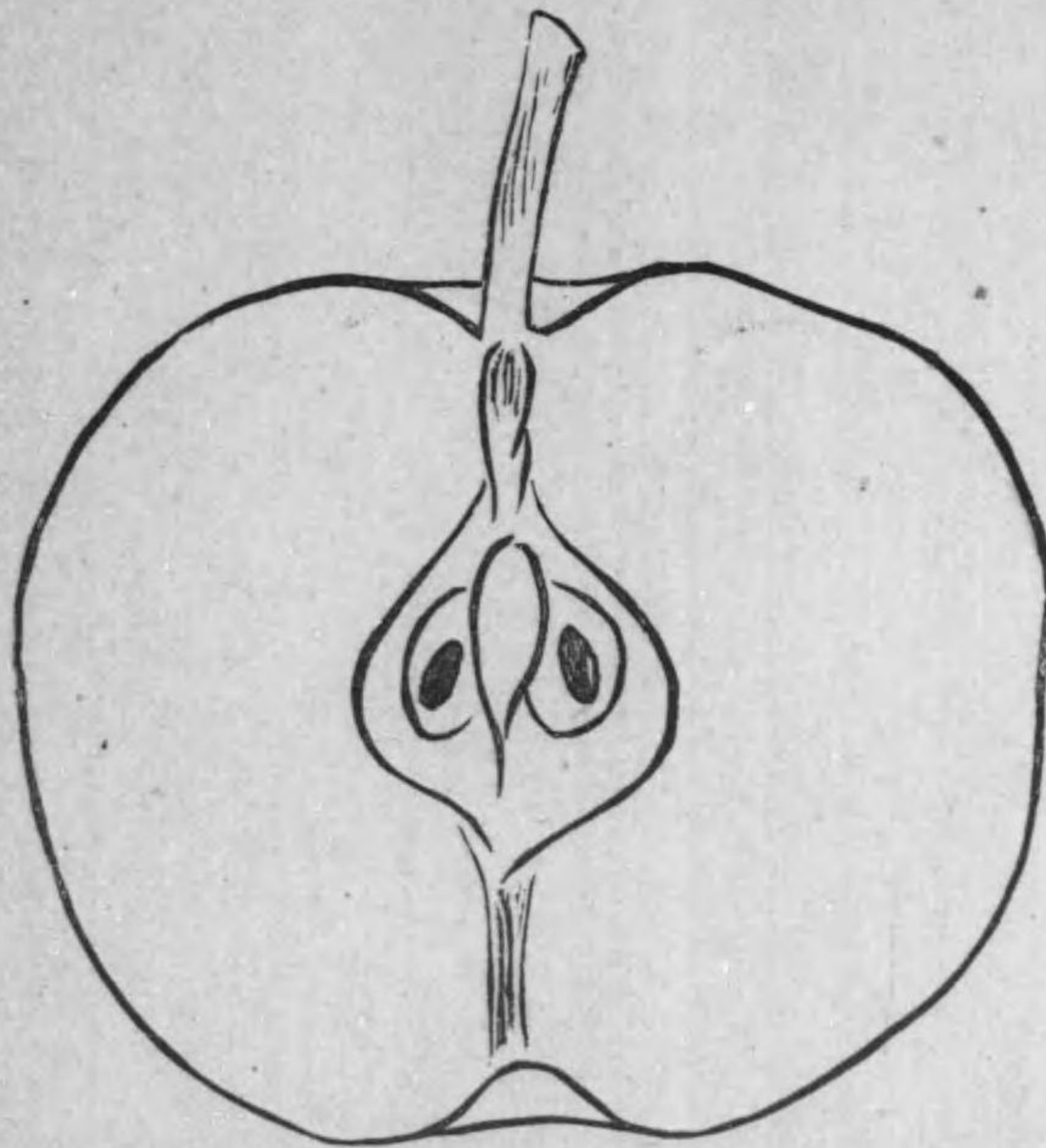
へ、少しく注意すれば翌年六七月新果の將に出でんとする頃迄貯藏することを得べく、有蒂の貯藏用良種なり。

伯帝龍

樹性强健にして枝は黄綠色に赤味を帯び、斑點は褐色圓大葉大にして綠色を呈し、芽は一般に長形なり。

果は中長圓形をなし、果梗肉梗にして長く梗

第九圖 關西一



第六章 種類の解説

四〇

蒂窪至つて廣大なり。果肉は白色稍粗なりと雖ども多汁にして甘味あり熟期窪は淺くして稍廣く、は九月下旬頃乃至十月中旬にして有蒂貯藏用種なり。

關西一

廣島縣地方に多く栽培する種類にして、品質の優良なる關西梨果に冠たるの故を以て此名あるものゝ如し。樹性强剛、生長速かにして枝は微赤を帯べる黄綠色にして灰褐色の樹斑あり。葉は大にして綠色を呈し、芽圓大にして枝より少しく開きて附着せり。

果實最大往々二百五六十匁

に達す。果形は倒卵又は不正楕圓にして果面に稍凹凸を有す。外皮暗褐色硬窪及蒂窪は淺く有蒂なり、果肉は白色緻密にして稍堅きも貯藏するに従ひ、漸次柔軟多汁甘味となる。九月中旬より十月にかけて成熟し、翌春一二月の頃まで容易に貯藏し得べし。

此種は果形果色の状態甚だ晩三吉種に酷似し、一見其何れなるを識別し難しと雖も、兩者を縦斷して果心に注意すれば、立ろに之を區別し得べし。即ち果心若し小にして其位置上方にあらば誤りもなく、關西一にして果心大形にして下方蒂部に接近しあるは晩三吉の特徴とするところなり。

青龍

樹性强健にして枝は青綠色に赤味あり、芽は長大枝より開きて附着せり。果實は中又は大に屬し、果形長圓外皮粗造にして綠色の地に黄褐を帯ぶ。又果面には灰色の小斑あり、果梗長大硬窪は甚だ狭くして稍深く、蒂窪甚だ淺くして狭小なり。肉質稍粗なりと雖ども、多汁にして甘味に富み、貯藏に適す。熟期は九月下旬乃至十月中旬とす。

第六章 種類の解説

四一



大廣丸

樹性强健にして枝梢緑色を帯び、葉長大葉肉厚く鋸齒尖鋭なり。果實は大にして時に百四五十匁に及ぶことあり、果形不正楕圓果面に凹凸を有す。成熟すれば果皮黄褐色を呈し、果梗短かく殆んど肉梗なり、梗窪及蒂窪は非常に狭小にして浅く、肉質多汁酸味あるも翌五六月頃まで貯藏することを得べし。九月下旬乃至十月頃に成熟す。

第二 外國種

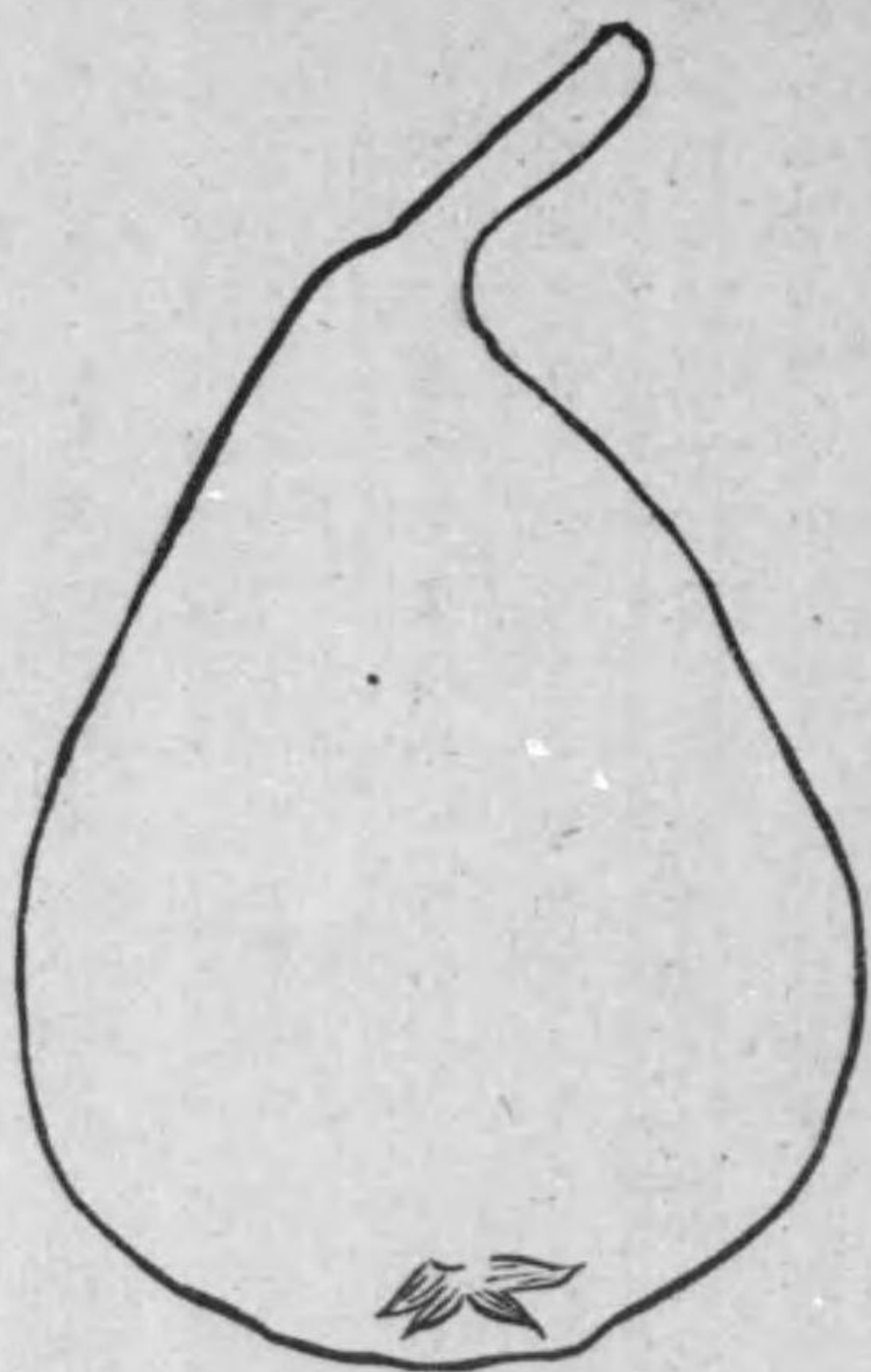
ドワイヤンヌ、デヤ(Doyenne D'ete)

別名サンマードワイヤンヌ(Summer Doyenne)

白國の原産にして西曆千七百年頃の發見にかゝる、枝梢は比較的細く其色赤褐を呈す。

果實は小にして卵圓形をなし、果皮薄く、黄色にして陽光面は赤色を帯ぶ。果梗長大眼は殆んど閉ぢ、果肉は純白細微にして溶くるが如く。甘味多汁にして且

第十圖 -アフギーレーボ



つ佳香あり、摘株後可成速かに食すべし。六月下旬乃至七月上旬に成熟し、最も早熟品質優良にして、温梓砧のものは豊産なり。

ボーレー、ギファール(Beurre Giffard)

佛國の原産にして樹性强健枝は細長にして、稍垂るゝ性を有し、其色赤紫を呈す。

芽は短かく且つ小形なり。

果實は中鱈形にして果皮薄く緑黄色を帯ぶるも陽光面は赤色を呈し、果面滑かにして鼠色の斑点明瞭なり。果梗は丈夫にして寧ろ長く稍屈曲せり。黄窪小眼は閉ぢ果肉は白色溶くるが如く、甘酸適宜にして漿

液に富み、早生種中品質良好頗る豊産なる良種なり。熟期は七月とす。

クラツプス、フエヴオリット(Clapps Favorite)

別名フエザオリツト、ド、クラップ (Favorite de Clapp)

米國マサチューセツト州の原産にしてフレミッシュ、ビュタイ種とバートレツト種との雜種なるが如し。此種は性强剛にして殊に耐寒性强く、嘗て千八百七十九年佛京巴里附近の梨樹園は概ね〇・四度の低温に遭ひ、大害を被りしにもかゝらず、獨り能く被害を免れたりと云ふ。枝梢は暗紫色を帯び、芽は瘠せて稍長し。

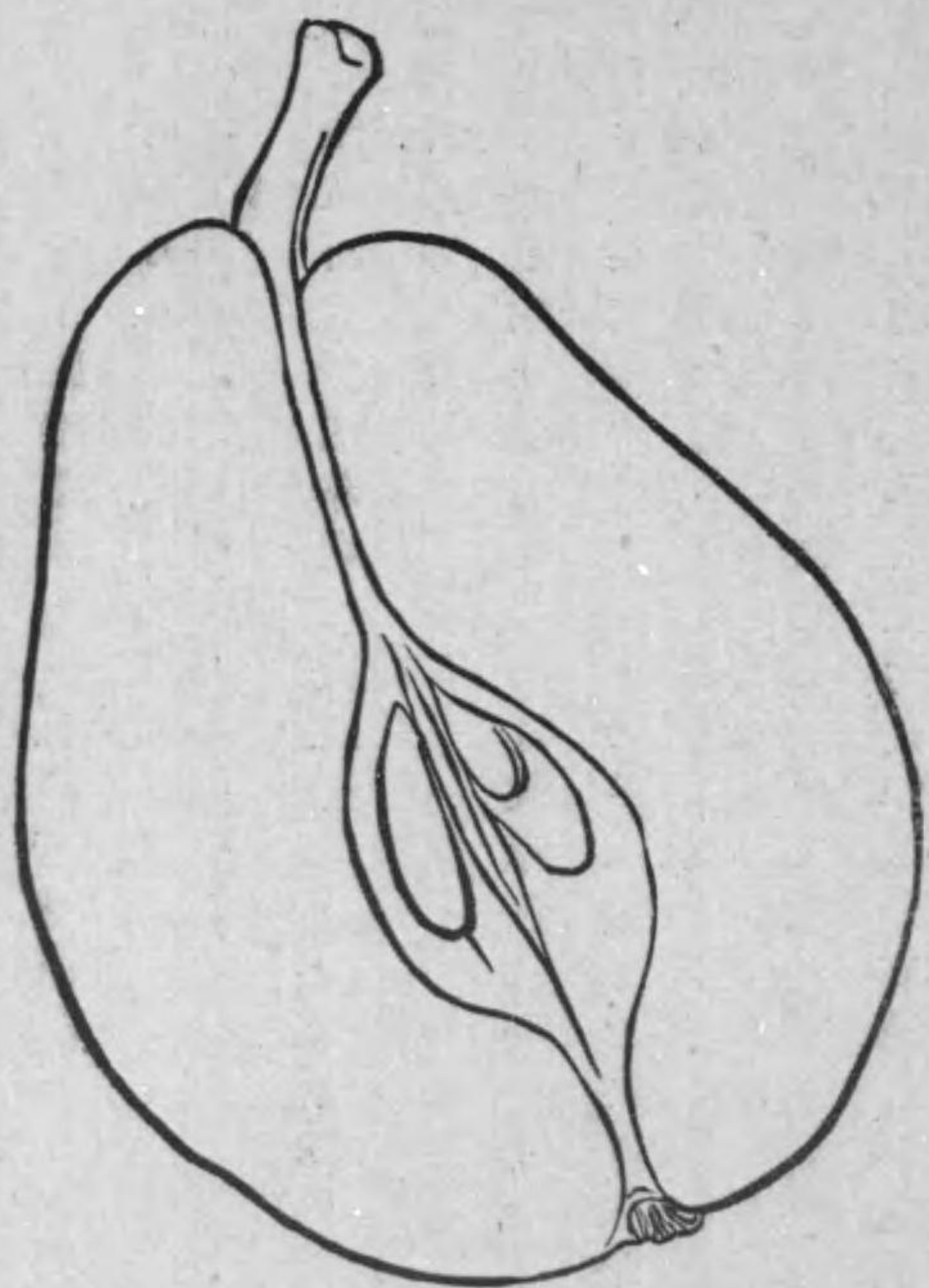
果は大にして蟻形をなし、果皮滑かにして薄く、綠黄色なるも完熟すれば黄色となり、陽光面は赤色を呈す。果梗寧ろ短大にして眼は稍閉ぢ、果肉は綠白若しくは黄白色にして細微溶くる性を有し、漿液に富み甘味及香氣あり。白人は殊に此種の香氣を賞賛すると云ふ。品質極上等八月下旬に熟し頗る豊産なる良種なり。

バートレツト (Bartlett)

別名ウイリヤム (Williams)

ボンクレシヤン、ウイリヤム (Bonchretien Williams)

第十圖 トツレト-バ



西曆千七百七十年英國バークシヤ州に於てロンドンの苗木商ウイリヤム氏の發見にかゝる種類にして、樹性强健能く本邦各地の風土に適す。枝梢は太くして直立する性を有し、黄色に稍赤味を帯ぶ。芽は中にして三角形を呈し、各節々高く、一見屈曲甚だしきが如く見ゆるは、蓋し此種の一特徴ならんか。

果實は大又は最大蟻形にして、外皮淡黄褐色を帯び、果面に小凹凸を有す。丈夫にして短かく、且つ眞直なる果梗は淺き窪窪の内に立ち、稍深き窪窪には開きたる眼を有し、窪邊は小隆起をなせり。①果肉純白溶けて、恰もバターの如く漿

液多くして甘味強く微酸あり、且つ芳香高く、八九月の頃に成熟するを普通とす。共砧のものは頗る豊産品質最優等なり。

**アンドレー・デスポート (Andre Desporte)**

此種は千八百五十四年頃に発見せられたるものにして、現今中國地方にて多く栽培するものゝ如し。

樹性最も強健、生長盛んにして枝條赤色を帯び、直立する性を有す。果實は長卵圓形をなし、果皮薄くして緑色の地に黄色を帯び、又陽光面には淡赤色の刷毛目あり、果梗寧ろ短大狭小なる梗窪は果實の頂上より少しく側方に偏し、眼は小にして閉づるものもあるも、概して開き果肉白色にして溶質多汁甘味に富み、且つ微酸あり七月下旬より八月月上旬にかけて成熟し、早熟種中の優品なり。マルメロ砧によりて能く繁殖し、ピラミット整枝に適す。

**マダレーヌ (Madeleine)**

別名 シトロン・デスカームス (Citron des Carmes)

**マグダレーヌ (Magdalen)**

**グリーン・チャイセル (Green Chisel)**

佛國の原産樹は稍ブライト病に弱きも、枝梢は緑色を帯び、生長旺盛にして直立する性を有し、葉は可なり廣大なり。果實は中にして尖楕圓をなし、果皮滑かにして黄綠色に少しく青味あり、又稀には淡褐色の刷毛目あることあり。果梗細して長さ約一寸五分梗窪甚だ狭小にして梗窪淺し、肉質溶解性多汁甘味にして、且つ微酸と佳香とを有し、風味頗る爽快なり、仲秋の候に成熟す。

**デューヤボーンズ・シードリンダ (Dearbor's Seedling)**

米國マサチューセツト州の原産に屬し、樹性强健、枝梢眞直にして長く暗褐色を呈す。

果實中卵形をなし、果皮鮮黄色を帯び、微細の斑點あり、果梗約一寸少しく萎縮する性あり。蒂窪甚だ淺く、果肉細微にして溶くるが如く、多漿甘味にして香氣高し、熟期は八月中旬、品質良好なり。

**ルコンタ (Le Conte)**

今より約六十年前米人メーヨル、シヨーン、ル、コント氏がニューヨークの或苗木

屋より支那梨と記せる梨を求めジョーシア州リバーカムに栽培繁殖したるが故に此名あり。是れ蓋し支那梨と或洋種との雜種なるべく、樹性最も強健なるが故に、大低の土質には栽培するを得べし。枝梢青黄色にして太く生長の旺盛なること、宛然キーファー種に類似せり、芽は瘠せて長く、葉大にして日本梨の觀あり。

果實大にして鱗形をなし、果皮黄色なるも陽光面は赤色を帯び果肉白色にして甘味多漿生食煮食何れの方面より見るも、強ち悔るべからざる良種なり。九月頃に熟して豊産マルメロ砧に能く接着す。

マンニングス、エリサベス (Manning's Elizabeth)

ベルギーの原産にしてマルメロ砧に能く接着するを得べく、枝は分岐多くして赤褐色を呈せり。

果實の大小にして卵形をなし、果皮滑かにして黄色を帯ぶるも、陽光面は鮮紅色を呈す。果梗約一寸梗窪圓くして淺し、肉質甚だ溶け易く、糖分と香氣とに富み、早熟種中の良品なり。

以上夏梨中の良種

デュセス、ダングレーム (Duchess d'Angoulême)

別名デュセス (Duchess)

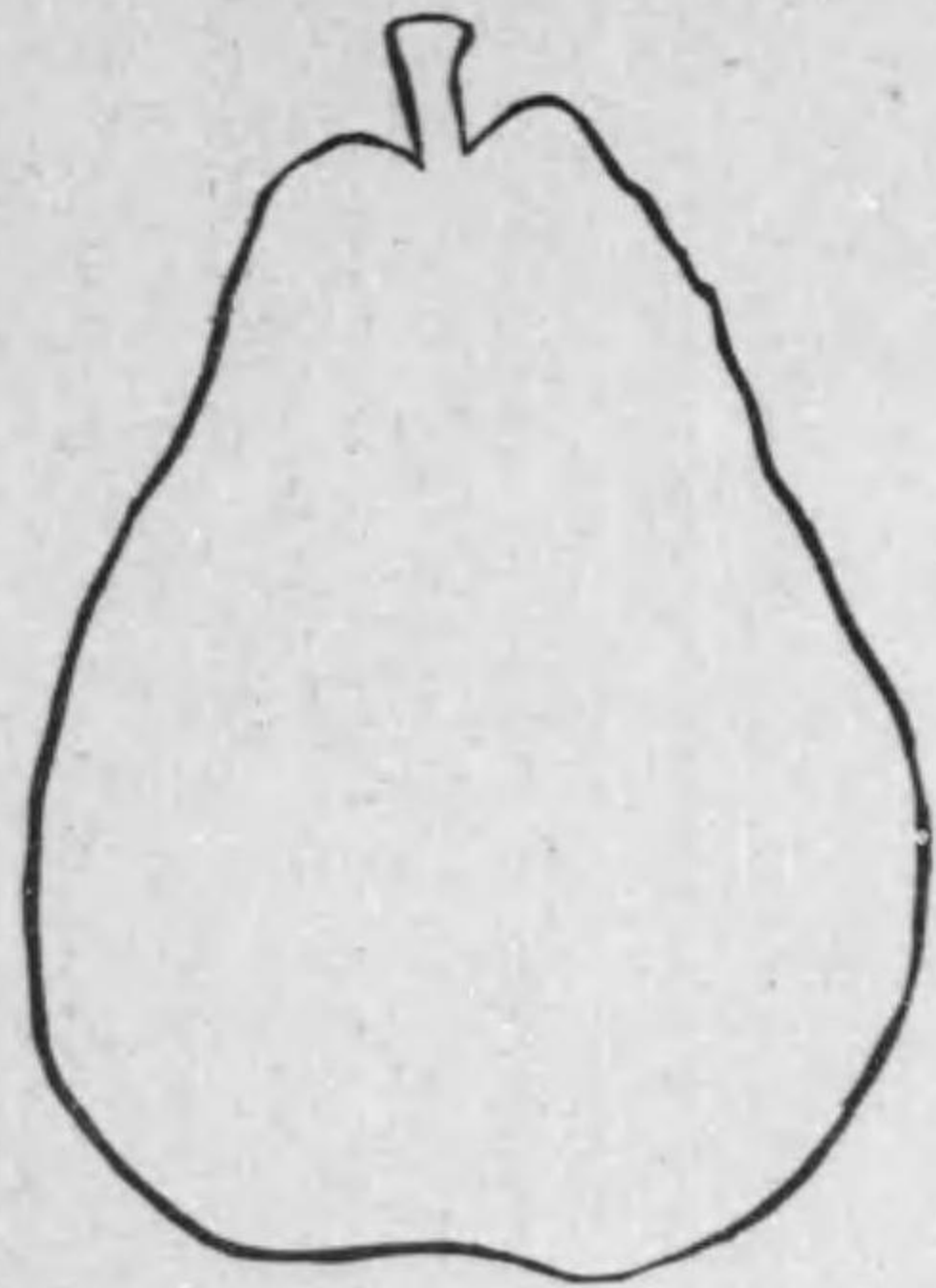
ボーレリ、ソール (Beurre Soule)

コルマール、ド、チャン (Colmar de Chin)

佛國の原産にして樹性强健枝梢は稍直立し、淡赤黄色を帯ぶ。梨の種類多きが中に最も多く栽培せられ、本邦の風土にも亦能く適し、各地に其成績の見るべきもの多く將來有望の良種なり。

果實は大又は最大長卵圓形をなし、果皮綠黄色にして果面平滑ならず、果梗甚だ丈夫梗窪は深くして屢々廣く、而して小なる眼は平滑ならざる蒂窪の内に存在せり。果肉は帶微黄白色溶けてさながらバターの如く、甘味多汁しく香氣あり。九月乃至十一月の候に熟し品質優等マルメロ砧に能く繁殖し得べく且つ頗る豊産なり。

ムーレグンダスセユデ 圖二十第



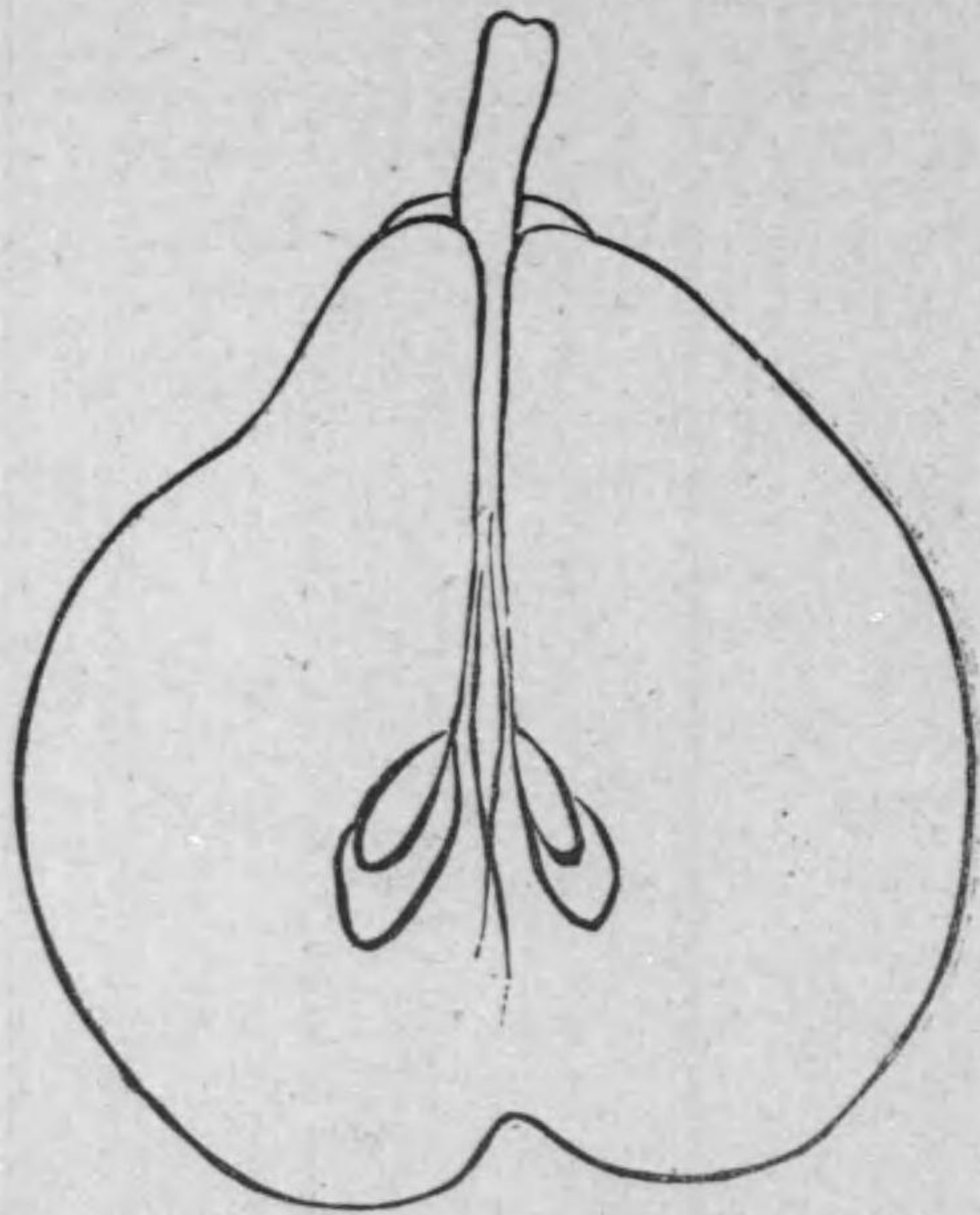
第六章 種類の解説

ドワイヤンヌ、デュコニス (Doyenne Ducornice)

佛國の原産其始めて世に公にせられたるは西曆千八百四十九年の事なり。樹性强剛にして枝梢長大綠色に鼠色を帯び、灰白色の細かき斑點を有す。果實は大、又は最大形狀、種々雜多なる

も概して短鰭狀をなし、果面殊に兩端部には凹凸ありて平ならず、果皮滑澤ありて薄く、黄色の地に赤褐色を帯び、陽光面は更に赤色を増すが故に甚だ美麗なり。果梗太く肉梗にして稍廣き梗窪の内に直立し、蒂窪深くして眼は殆んど閉づ、果肉は幾分青味ある白色にして其質溶け易く、多漿甘味に富みて芳香馥郁たり。若し梨果の品位を單に生食用の上より見れば蓋し此種を以て第一に推すならんか、然し豊産に達する迄に比較的長年月を要するは此種の欠點と云ふべし。熟期は十月乃至十一月。

スミコユデヌンキイワド 圖三十第



ボーレード、カポーモン

(Beurré de Capiaumont)

西曆千八百七十八年白國に於て發見せらる。樹性强健霜害に對する抵抗力強し、枝梢赤色を帯び、芽は小にして圓し。果實は中稍長き鰭狀をなし、果皮粗にして赤黄色を帯び、陽光面には赤色の刷毛目あり、果面平かにして微赤の斑點を散布す。果梗短

く、眼大にして開き蒂窪深く、周圍に小隆起あり、果肉白色甘酸適宜にして多汁溶くるが如く、且つ葡萄様の佳香を放つ。品質中等九月下旬乃至十月の候に熟し稍豊産なり。

第六章 種類の解説

ポーレー・ダンジヨール(Beurre d'Anjou)

別名ネクブル、ミューリール(Nec Plus Muris)

ネクブル、オルタミューリール(Nec Plus Ulamuris)

ウインタール、ミューリール(Winter Muris)

佛國の原産にして樹性强健、枝梢は短大直立にして青黄色を帯び、節間多少遠くして芽は短大なり。

果實中若しくは大にして短楕圓をなし、果皮薄く、緑黄色なるも陽光面は少しく赤味を有す。果梗太く肉梗にして眼は小蒂窪淺し、果肉白色細美にして溶け易く多汁甘味香氣に富み、中秋の候に成熟し、屢々冬の中頃迄貯藏することを得べく品質上等なり。

ポーレー・ディール(Beurre Diel)

ベルギーの原産にして樹性强健、枝梢太く概して不規則に擴る性を有す。

果實は大若しくは最大頸稍細くして腹部膨大し、形状は一見卵形に近し、果皮暗黄色を帯び、果面には無數の而かも明かなる斑點あり。肉質寧ろ粗造なるも

ター質にして糖分に富み漿液多く品質上等ならざるも十月乃至十二月頃に熟して豊産なり。椀椀砧によりて能く繁殖す。

ポーレー・アードール(Beurre Hardy)

樹性强剛、生長速かにして枝梢は赤褐色に少しく暗緑を帯ぶ。果は大にして尖圓形果皮淡綠色に錆色を被ひ、褐斑を散布す。果梗の長さ約一寸肉梗なり。梗窪狭小にして眼は開き、果肉は溶質多汁香氣高きも少しく滋味あり、品質上等にして九月より十月に成熟す。椀椀砧のものは殊に豊産なり。

ポーレー・ダマンリス(Beurre d'Amanlis)

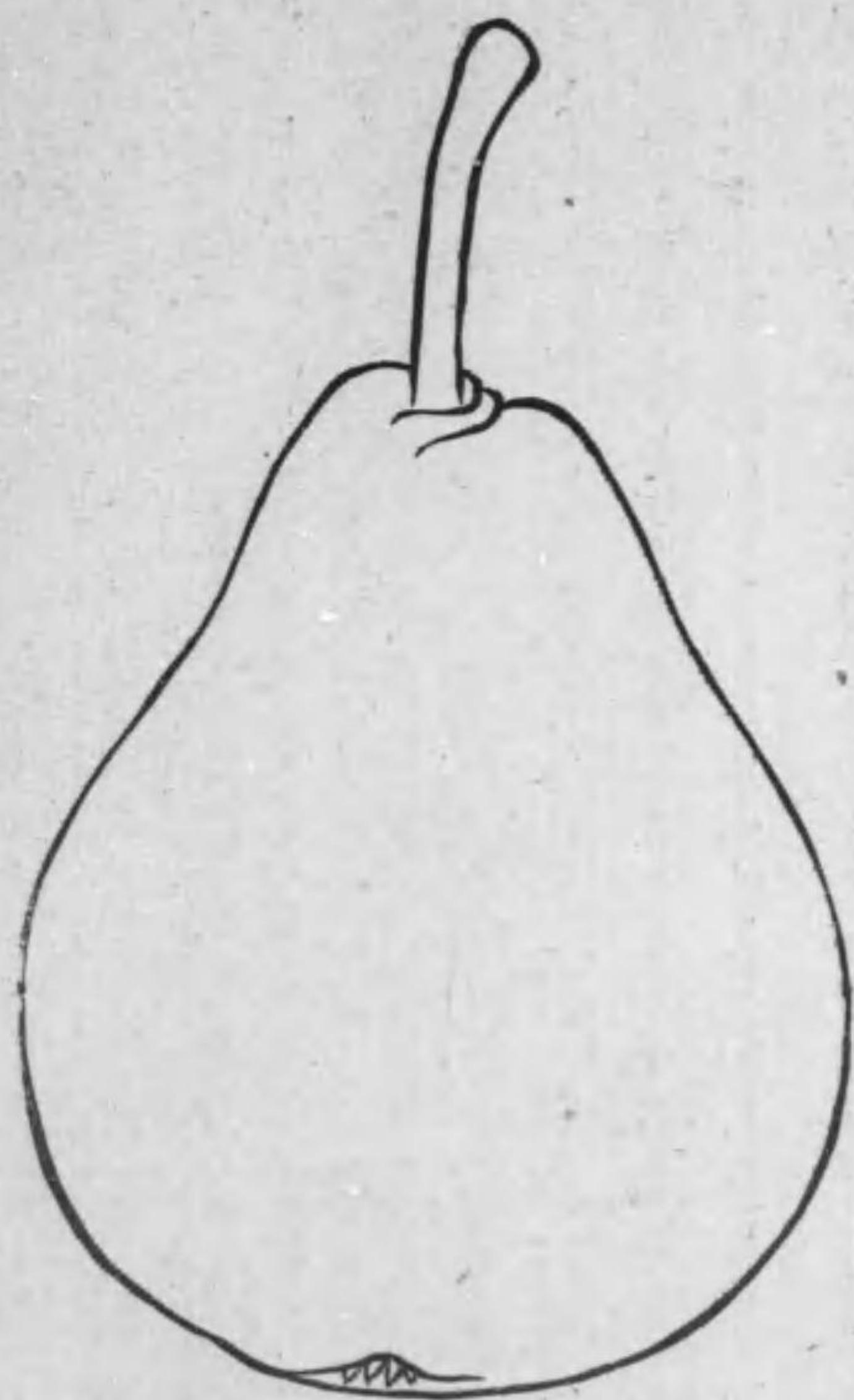
別名デルバート(Delbart)

ウイルヘルマイン(Wilhelmine)

佛國の原産にして樹性强健、枝條太くして長く、灰黄色を帯び、垂下屈曲する性あり。多數の樹斑は赤色を呈し、芽は稍圓形中位なり。

果實は大果形概ね鱗狀をなし、外皮薄くして緑黄色を呈し、陽光面は更に赤色を帯ぶ。果梗短かくして少しく曲り、梗窪に凹凸あるは此種の特徴と見るべし、眼

スリマダ、レーボ 圖 四 十 第



ルイ、ボーン、ヂェルシー (Louise Bonne de Jersey)

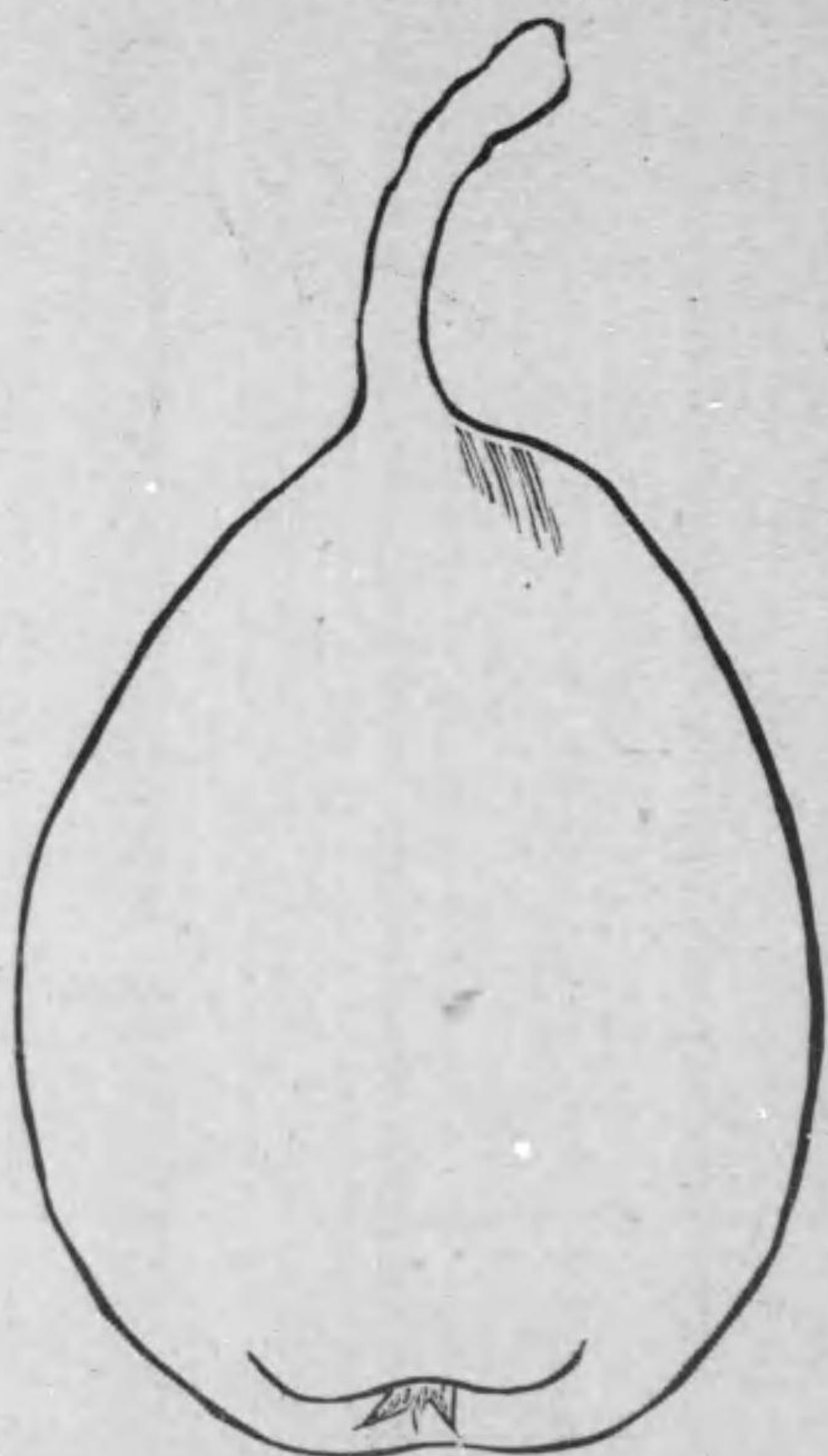
別名ルイ、ボーン (Louise Bonne)

ルイ、ボーン、ダブランシ (Louise Bonne d'Avranchc)

佛國アブランシ附近の原産にして、樹性强健、枝梢直立して黄色に少しく赤味を

五四  
は大にして半開  
稍深き蒂窪中に  
存す、果肉少しく  
黄色を帯び、溶質  
にして甘味多漿  
且つ香氣あり、品  
質中等中秋の候  
に熟して豊産な  
り。

シルエジデン、ボイル 圖 五 十 第



帯び鼠色の斑點は大形にして而かも顯著なり、芽の大きさ中にして長圓形をなす。

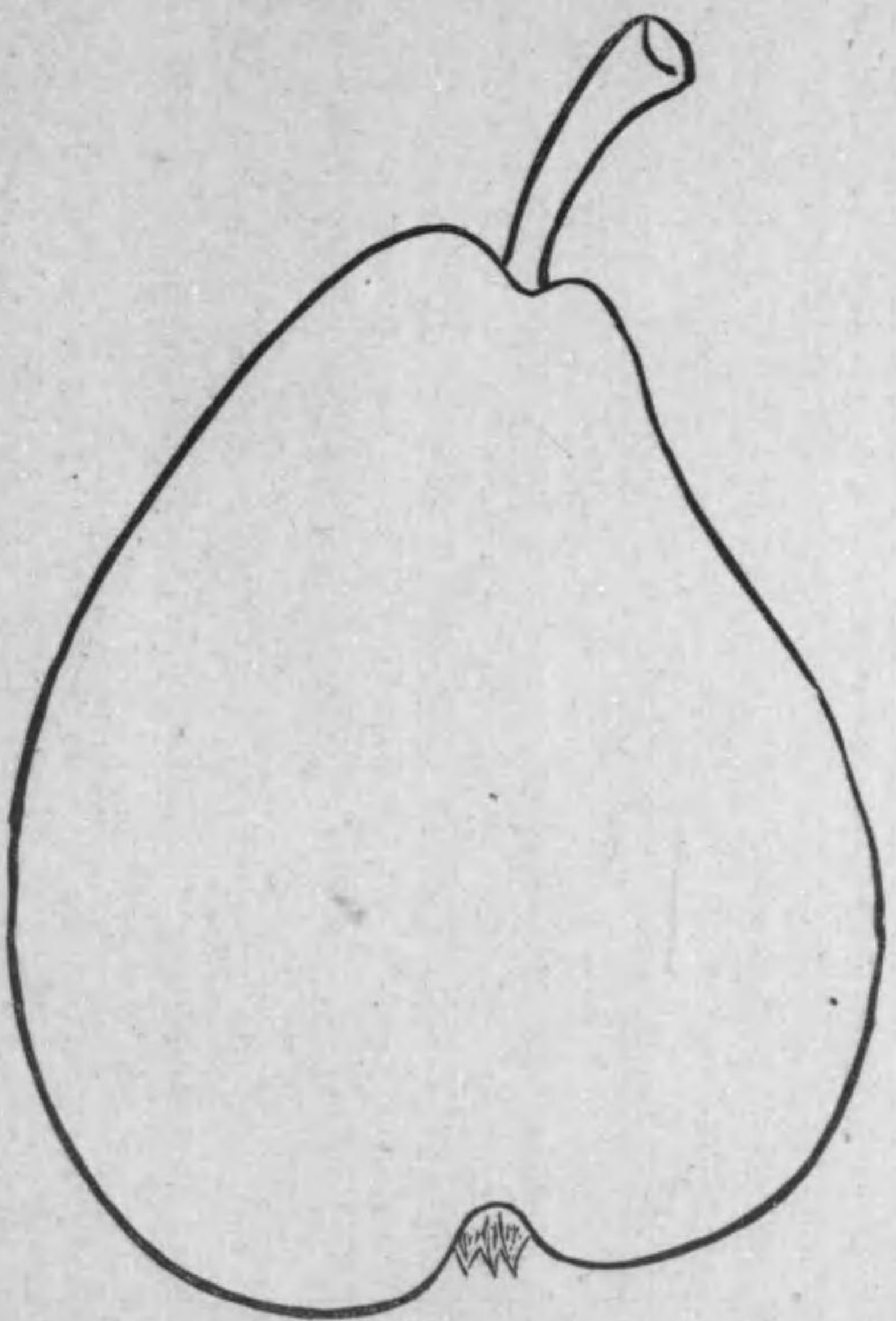
果實大長蠶狀に  
して果面平滑、外  
皮綠色の地に黄  
褐色を呈し、陽光  
面には赤色の刷  
毛目あり、果梗の  
長さ約一寸乃至  
一寸五分往々に  
して肉梗をなす  
ものあり、眼は小

蒂窪平坦にして深からざるも廣く果肉黄白色溶質にして甘味多汁且つ香氣あり。九月乃至十月に熟し、品質優良なること彼のバレットの如し。椀梓共  
砧何れによるも豊産にして、如何なる整枝にも宜しく本邦に於ける有望の良種

なり。

オノンダガ(Onnaga)

ガダンノオ 圖六十第



にして樹性强健、生長良好なり、枝梢は灰黄色を呈す。

- 別名 スワンス、
- オレンヂ(Swan's Orange)
- インペリ
- ユリア、ア
- レキサン
- ター (Imperial)
- reur Alexander
- ander)
- 米國コンネツク
- チカットの原産

果實中又は大にして壘状をなし、腹部少しく膨大せり、果皮粗にして黄色に赤褐色を帯び、果梗約一寸、果梗及蒂窪は何れも狭小なり。果肉稍粗變色し易きも多汁にして甘味溶くるが如く、熟期は九月乃至十月品質中等豊産なり。

ウルバニスト(Urbani)

別名 デス、ウルバニスト(Des Urbani)

ボイレ、ビツクエリー(Beurre Piquery)

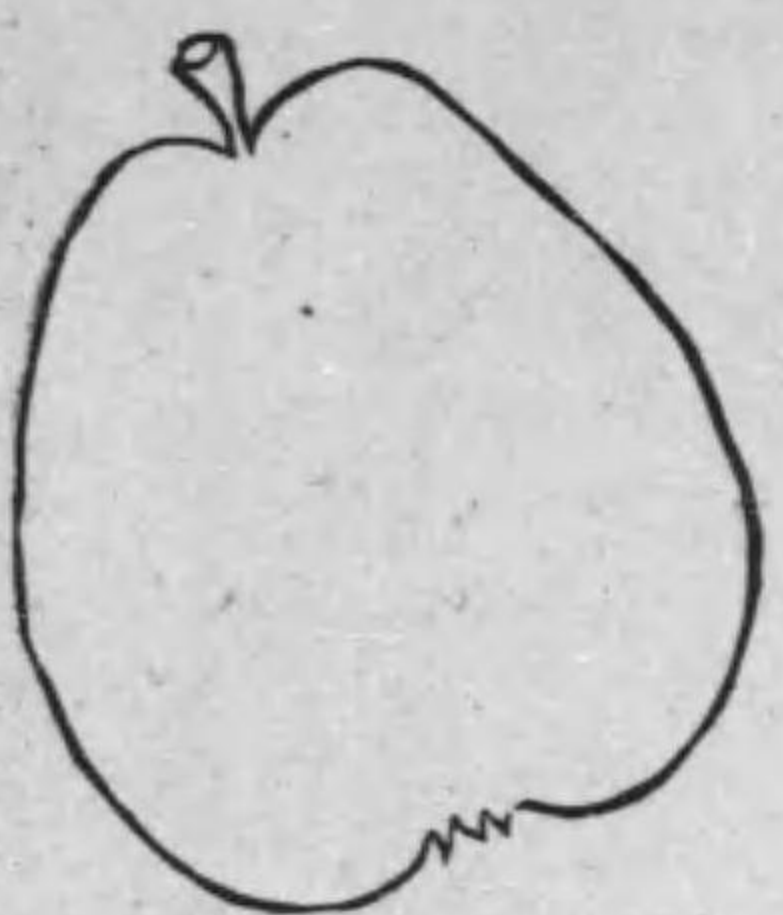
コロマドオートン(Coloma d'Automne)

佛國の原産にして西暦千七百八十三年に發見せらる。(一説には白國の原産と云ふ)樹性中位枝條太からざるも長くして分岐多く黄綠色を帯び、葉は狭し。果實は中寧ろ大にして卵圓形果皮黄綠色なるも、陽光面は赤色を呈し、果梗長大にして斜立し、眼中にして開き、蒂窪は廣くして稍深し、果肉白色細微にして柔軟多汁甘味及香氣に富み、品質上等、十月乃至十一月に熟し、非常に豊産なり。共砧に接がんよりは、宜しく椀砧に接ぐを宜しとす。

ホワイトドワイヤンヌ(White Doyenne)



ヌンヤイワドトイワホ 圖七十第

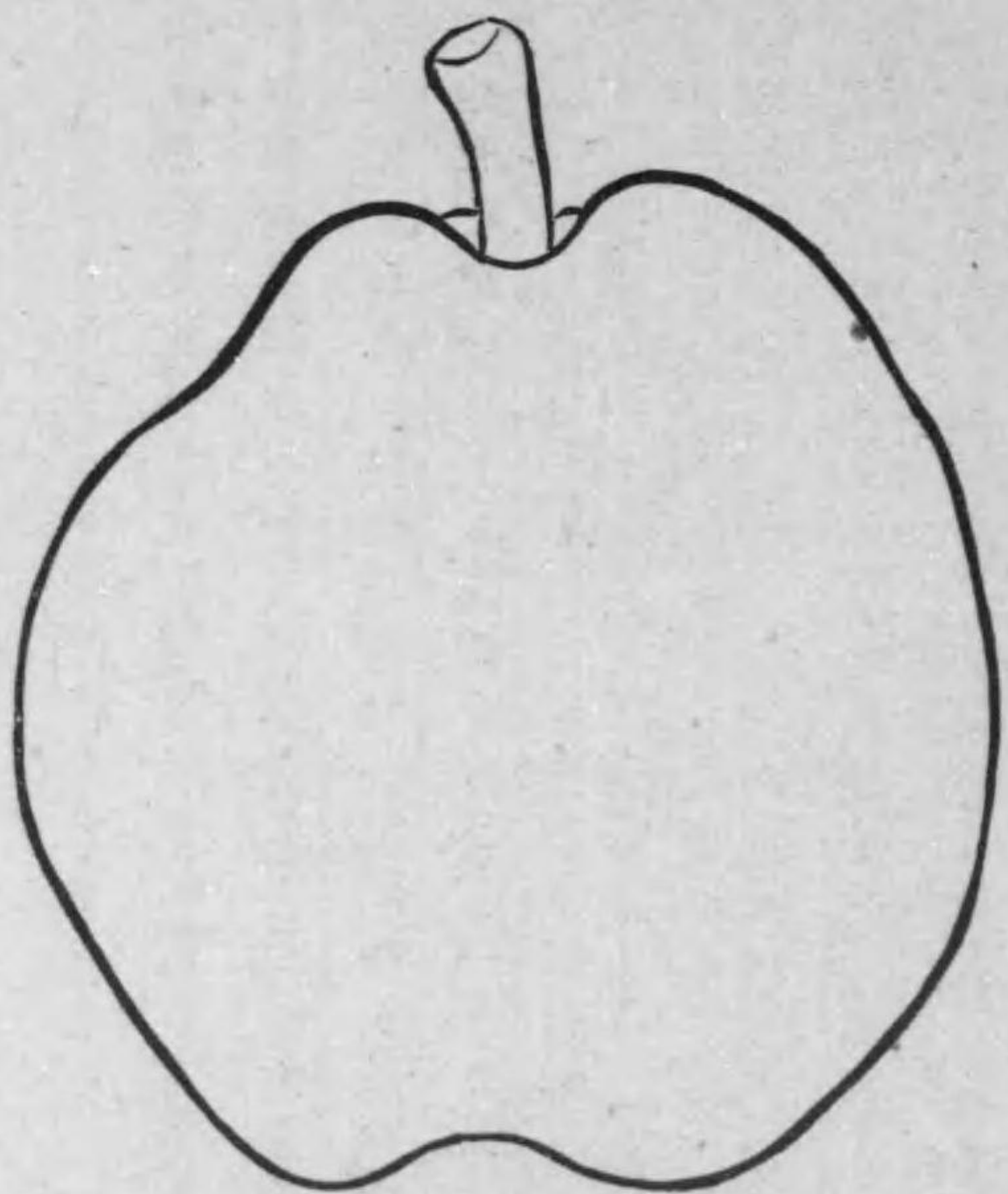


佛國の原産にして古種に屬す。樹性强健、枝は黄色に鼠色を帯び、斑點は細くして灰白色を帯ぶ。

- 別名 **ボーレ、ブラン** (Beurré Blanc)
- ホワイト、ボーレ** (White Beurré)
- バター、ペアリ、オブ、ペンシル、ニア** (Butter Pear of Pennsylvania)
- セント、ミケール、オブ、ボストン** (St. Michael of Boston)
- ドワイヤンヌ** (Doyenné)

果は中又は大圓形若しくは長卵圓形をなし、果皮薄くして平滑橙黄色を呈するも、陽光面は更に赤色を帯びて美麗なり。斑點小果梗短大、梗窪稍深くして眼は中位蒂窪稍深くして平かなり。果肉白色細微にして溶くるが如く、甘味に富み、佳香殊に高し。熟期は九月乃至十月、品質上等豊産にして秋梨中の良種なり。

ヌンラフラ 圖八十第



**ランランス** (Larfance)

佛國の原産樹性强健なり、枝梢細く真直にして赤褐色を帯び、灰色の斑點を有す。

果實中又は大圓形にして果皮青黄色、若しくは淡黄色を帯び、陽光面は赤褐色を呈す。斑點鼠色にして多し、果梗短大真直にして梗窪深く、且つ窪邊凹凸をなせり。果肉白色細微にして溶質甘味多汁香氣あり。品質上等熟期は十月乃至十一月、椹桴砧に嫁接して豊産有利なる種類なり。

**フレミツシユビユーチー** (Flamish Beauty)

別名フホンダント、デス、ボイス(Fondante des Bois)

ベル、ド、フランドルス(Belle de Flandres)

インペラトリス、ド、フランヌ(Imperatrice de France)

原産は佛國なりと云ひ、又白國なりと稱して定かならず、樹性强健枝太くして、暗紅色を呈し、斑點小にして白色なり。果は大或は最大蟻狀をなし、果面平滑なり。果皮薄くして黄色を帯び、鼠色の斑點あり。果梗短大にして寧ろ細く、梗窪廣くして稍深く、眼中にして半ば閉ぢ、蒂窪稍深し、果肉白色細微溶質にして甘味多汁、且香氣非常に高く、品質稍上等なり。熟期は九月より十月、椗梓砧のものは殊に豊産なり。

セツケル(Seckel)

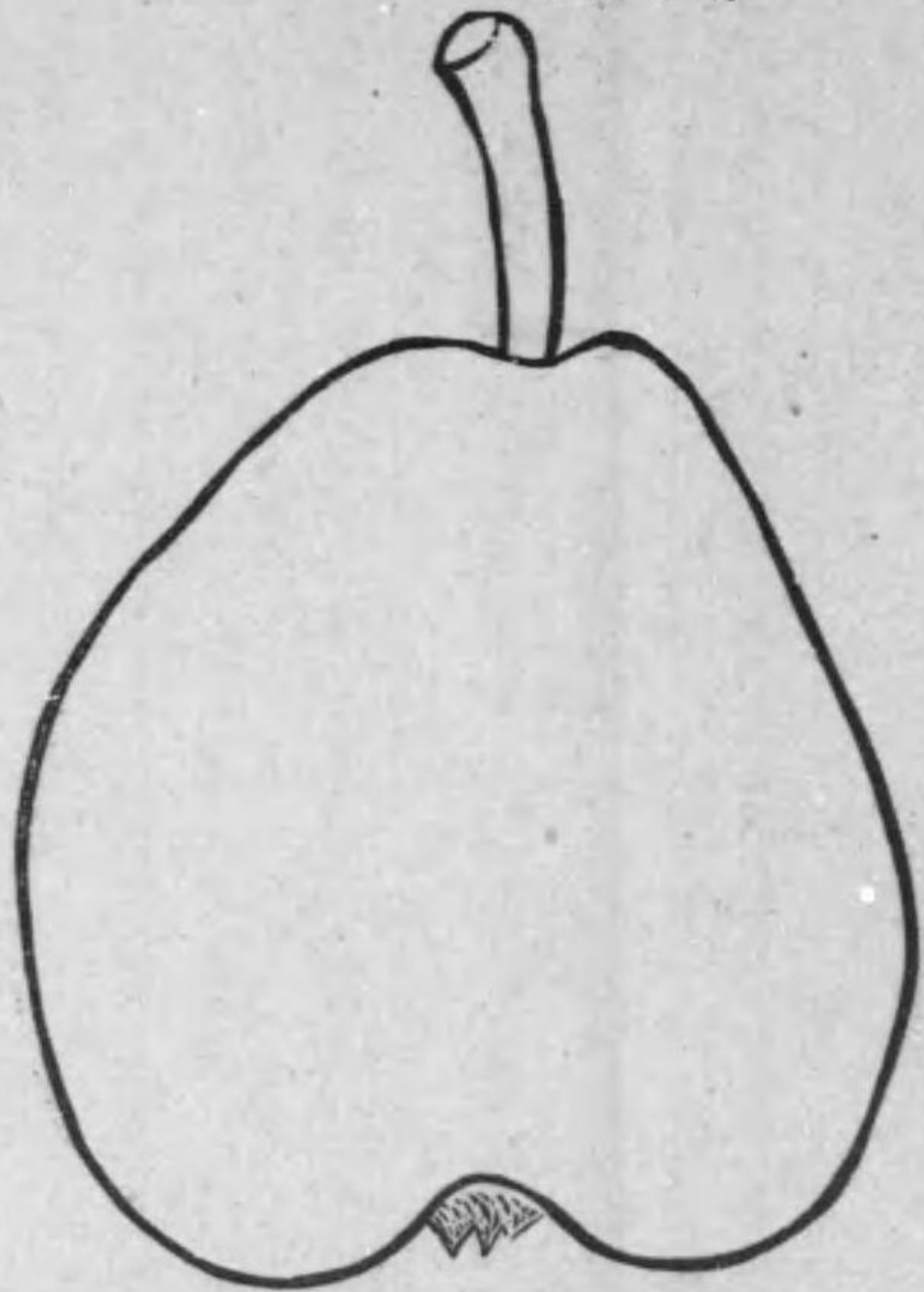
別名デム、セツケル(Dem Seckel)

ニューヨーク、レッド、チーク(New-York Red Cheek)

シーケル(Seckle)

シツケル(Sickel)

ルケツセ 圖九十第



西曆千七百六十年の頃米國ヒラデルヒヤを去る約四哩のセツケル氏の畑に生ぜるを以て此名あり。樹性强健、枝梢青灰色、節間短くして、斑點は淡褐細微芽小三角形をなして枝上に接着し、葉は稍圓形にして缺刻至つて淺く、其色淡色なり。果實小形狀圓、若しくは短卵圓形、果梗短かく、果皮は黄色に錆色を帯び、亦赤褐の斑點と赤色の刷毛目とを有す。果肉白色にして柔軟溶くるが如く、香味佳良なること殆んど絶品なりと云ふ。

熟期は九月下旬乃至十月、マルメロ砧に接ぐ時は熟期を早め、一層豊産ならしむると雖ども此種は直接マルメロを嫌ふ。

バツファム(Buffum)

樹性强剛、枝梢細きも寧ろ直立する性を有し、淡赤色又は淡赤褐色を帯び、葉圓形にして欠刻稍深く、

ロイド、アイランドの原産なり。

果實中卵形又は圓形を呈し、果皮黄金色にして甚だ美觀たり。果肉細微溶質にして糖分多く、加之一種言ふべからざる佳香を放ち、品質上等九月乃至十月に成熟し、マルメロに接ぐも可なりの生長をなす。

カーディナルジョージ、ダンボニー (Cardinal George Damboise)

佛國の原産にして樹性强健、枝條細きも直立し、其色赤味を帶ぶ。果實は大さ中にして長壘狀なり。果肉は細微多汁にして甘味に富み、品質上等熟期は十一月乃至十二月とす。

グレイドワイヤンヌ (Gray Doyenne)

別名ドワイヤンヌ、グリー (Doyenne Gris)

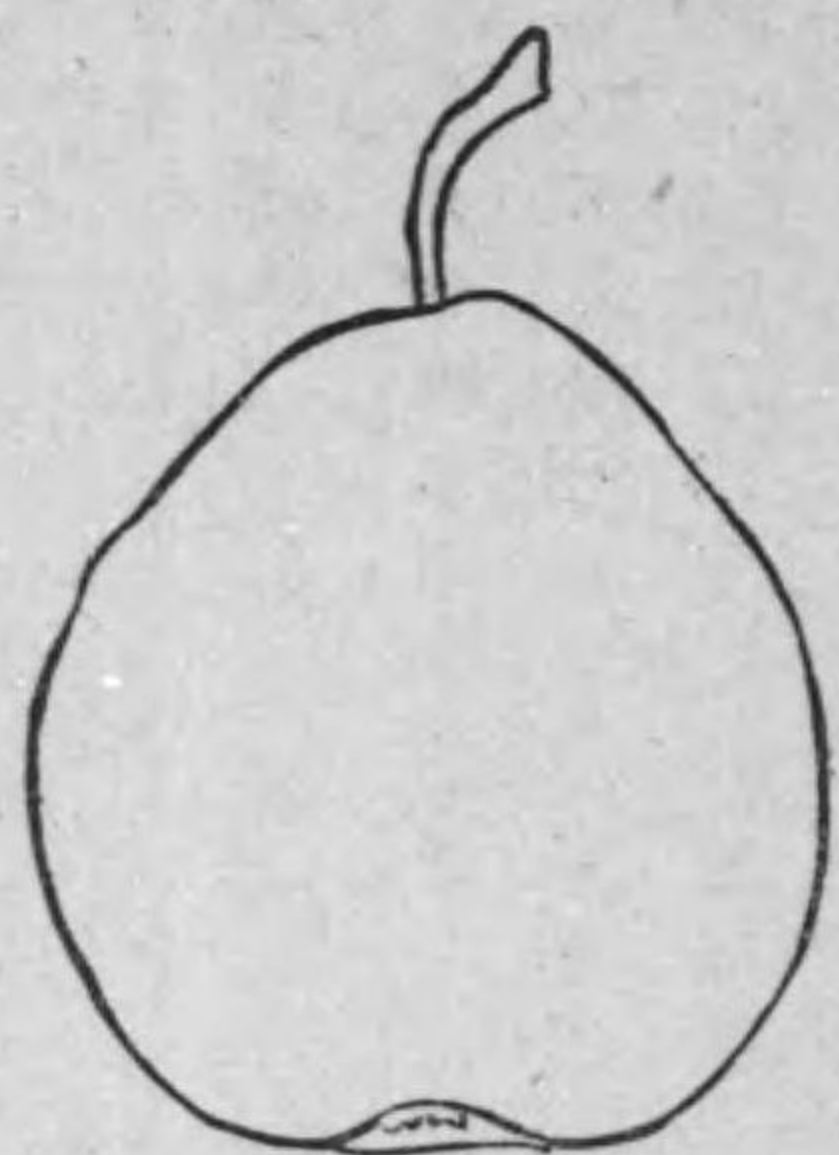
グレイ、バター、ペー (Gray Butter Pear)

レッド、ドワイヤンヌ (Red Doyenne)

ドワイヤンヌ、ルーシ (Doyenne Rouge)

セント、ミケールドール (St. Michael Doré)

第十二圖 ホーウエル



枝梢は黄色又は灰褐色、果實中にして卵形をなし、果面滑かにして肉桂の如き赤褐色を帶び、甚だ美觀なり。果梗短かく梗窪狹隘、眼小にして閉ぢ、肉質細微香味佳良にして、品質上等、十一月より十二月の候に成熟す。

ホーウエル (Howell)

樹の生長良好にして枝梢褐色を呈す。

果實は寧ろ大卵圓形にして果皮淡黄色、果梗長くして肉梗なり。梗窪小にして

蒂窪平滑、果肉白色溶質にして甘味に富み、品質上、中秋の候に成熟する將來有望の種類なり。

ガンゼルス、ベルガモツ

(Gansel's Bergamot)

別名ブロッカス、ベルガモツト

(Brocas Bergamot)

英國の原産、枝梢短かくして暗灰色を帶び、葉廣くして粉末を裝ふ。果實大卵圓

形果皮黄褐色にして陽光面は赤褐色を呈す。果梗短く長さ約五六分梗窪及蒂窪は平滑なり。果肉粒状溶質にして多汁芳香あり、初秋に熟し、直接マルメロ砧を嫌ふ。

アイダホ (Idaho)

別名マルキー (Mulkey)

米國アイダホ州の原産にして、果實大形状圓果皮黄金色にして赤褐の斑点多く、果梗中位梗窪不規則なるも稍深く蒂窪淺し、果肉溶質多汁にして快活なる葡萄酒様の香氣あり品質上九月乃至十月に熟す。

シエルド (Sheldon)

米國ニューヨーク州の原産樹性强健にして、枝梢黄褐色を呈し、生長良好なり。マルメロ砧には二重接の法を用ふ。

果は大圓形にして屢々卵形をなす、果皮緑褐色なるも遂には肉桂の如き赤褐となる。果梗短かく梗窪狹隘にして蒂窪は寧ろ深かし、果心小さく果肉溶けて甘味多汁葡萄様の風味ありて香氣爽快、十月に成熟し、上品なり。

ワシントン (Washington)

米國デラウェアの原産にして樹性强健、生長良好なり、枝は褐色にして直立する性を有し、分岐すること多し。

果實中形状不規則なるも概して長圓卵形、果皮滑かにして、鮮黄色、陽光面は顯著なる赤斑ありて頗る美麗なり。果梗長く、眼小にして閉ぢ、蒂窪淺し、果肉溶け易くして多汁甘味且つ爽快なる香氣は世人の尊重するところなり。初秋の候に熟す。

スーパーファイン (Superfine)

佛國の原産にして樹性强剛マルメロ砧のものは勢力殊に盛んなり。

果實中卵圓形をなし、頸狭小なり。果皮黄綠色なるも屢々赤褐色を帯び、果肉多汁溶解性にして葡萄様の風味に香氣及微酸あり。熟期は十月とす。

以上秋梨中の良種

バーリー (P. Barry)

米國加州の原産にして樹性ブライト病に弱く、枝梢灰色を帯び、細くして分岐多く、且つ垂下屈曲する性あり。

果實大長壘狀にして、果皮橙黄色、果梗の長さ中位にして狭き梗窪中に斜立せり、眼小蒂窪亦小にして且つ最も浅く、果肉純白溶質にして甘味と香氣とに富み、品質上等十二月頃に熟し、冬梨中の良種なり。

ボレー、クレルジョー (Beurré Clairgeau)

佛國の原産にして千八百三十八年頃の發見にかゝる樹性强健、共砧榠梓砧何れによるも生長良好豊産なり。

果實最大にして壘形をなし、果皮黄色果梗短大肉梗にして狭小なる梗窪中に立ち、眼大にして開き、蒂窪稍深くして大なり。果肉白色なるも溶け難く、果液多く糖分に富みて、香氣あり。熟期は普通十二月品質中等なり。

グロ、モルソー (Glout Moreau)

別名ボレー、ダーデンボン (Beurré d'Hardenpont)

コルマール、デーベル (Colmar d'Hiver)

リンデン、ドートン (Linden d'Automne)

樹性中位枝梢綠色を帯び、榠梓砧によりて能く成功す。

果實大壘狀にして果皮綠黄色を帯び、果梗丈夫にして約一寸餘り眼大にして蒂窪不規則なり。果肉白色細微溶質にして、甘味濃厚且つ芳香高し、初冬の候に熟して品質上等なり。

イースター、ボレー (Easter Beurré)

別名ドワイヌ、ドイヌ (Doyenné d'Hiver)

ベルガモット、ドラ、ペンタコト (Bergamotte de la Pentacôte)

ボレー、ドラ、ペンタコト (Beurré de la Pentacôte)

ボレー、ド、バツクヌ (Beurré de Paques)

カンニング、セーニョア、ドイヌ (Canning Seigneur d'Hiver)

歐洲の原産にして樹性强健、枝梢赤褐色を帯び、葉は概して狭し。果實大にして卵形若しくは卵圓形、果皮滑かにして黄綠色に多少赤褐色を帯ぶ。果梗丈夫にして長さ約一寸、梗窪深く、眼小にして一般に閉ぢ、蒂窪餘り深からざるも窪邊に

凹凸頗る多し。果肉白色細微にして溶け易く、甘味と芳香とに富み、且つ少しく酸味あり。熟期は十二月乃至四月、榠杵砧に嫁接して頗る豊産品質上等、將來有望の品種たり。

ボレー・デュ・ヌソン (Beurré Dubuisson)

白國の原産にして西暦千八百三十二年頃に生じたる種類なり。樹性中位枝條一般に太からずして其色赤褐を呈し、斑點は暗褐色を呈す、芽の大きさ中にして稍圓く先端少しく尖れり。果實中又は大長卵形をなして果面に凹凸あり、外皮黄色を帯び、褐色の斑點及赤色の斑紋とを有す。果梗短かく真直にして淺小なる梗窪中に斜立し、眼小にして閉ぢ、蒂窪には凹凸あり。果肉白色細微にして溶質多汁甘味に富み、微酸及芳香を有す。品質上等、熟期は十二月乃至二月、凡ての整枝に適するも殊に墻壁誘引に可なり。

ドワイヤンヌ・ダランソン (Doyenné d'Alençon)

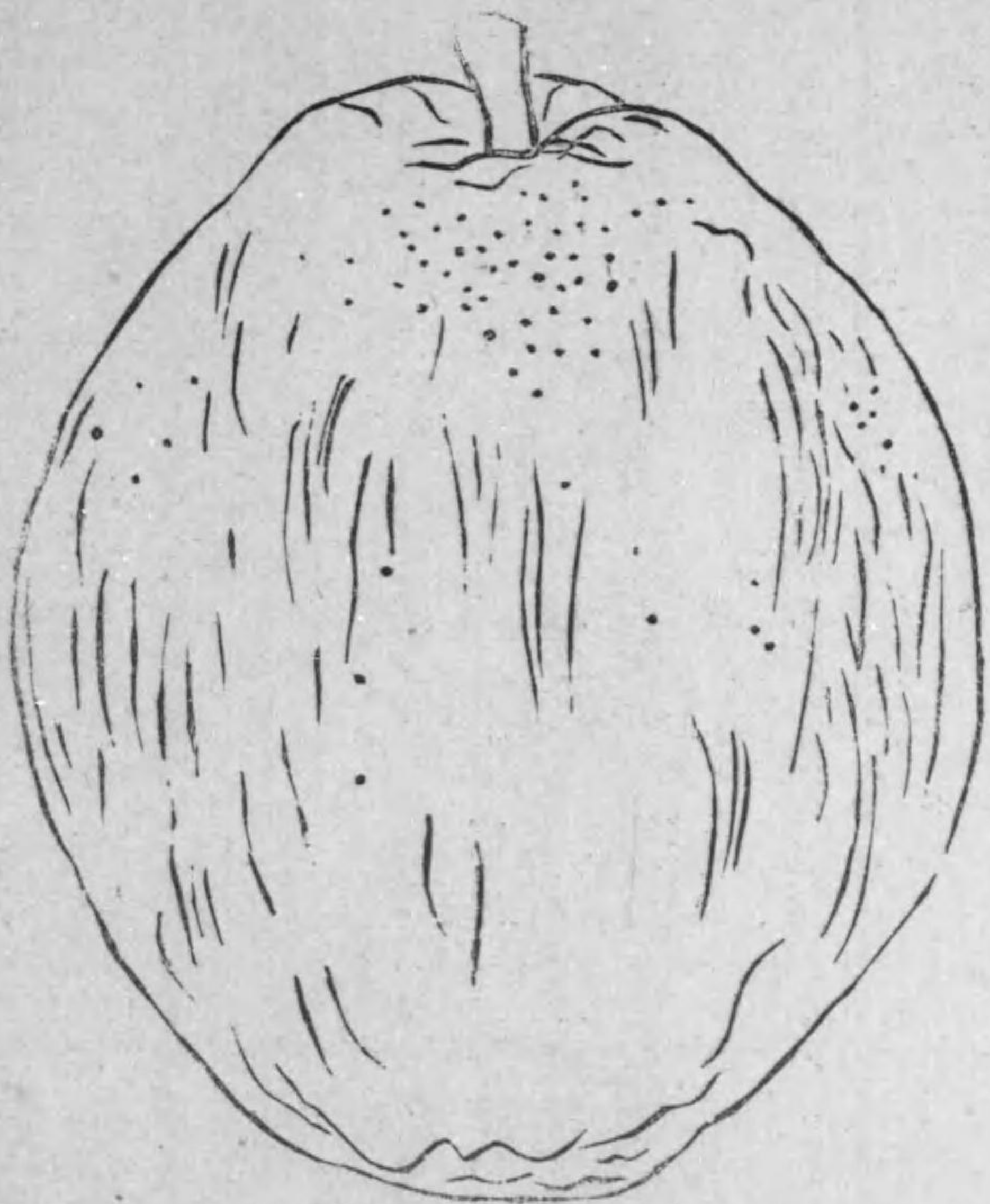
別名ドワイヤンヌ・ドイベルヌ・ヌーボー (Doyenné d'Hiver Nouveaun)

セント・ミケール・ドイューヌ (St. Michael d'Hiver)

佛國の原産にして果實は中圓形をなし、果皮厚く粗造にして黄色を帯び、褐斑あり、果梗短大狹小なる梗窪中に直立し枝に附着する部分膨大せり。眼中にして殆んど閉ぢ、蒂窪廣大不規則にして或は深く、或は淺し、果肉帶微黄白色、其質細微溶質にして甘味に富み、香氣高く、貯藏用冬梨として品質上等、熟期は一月乃至三月、砧木は寧ろ共砧を擇ぶべし。

キーフアー (Kieffer)

距今凡そ四十年前米國ヒラデルヒヤの人ピーター・キーフアー氏が支那梨とパレットとを交配し、是れが實生より改良撰擇したる種類にして、樹生最も強健、生長頗る盛んなり、枝梢太く黄綠色にして樹皮平滑褐色の斑點を有し、葉は大にして綠色宛然日本梨の如し。果實最大卵形にして兩端に至るに従ひて細れり、果皮濃黄色を帯び、褐色の小斑點を散布す。果肉白色にして硬さも貯藏する時は柔軟多汁甘味となる且つ葡萄様の酸味ありて最も鑑詰用に適す。十月乃至十一月の候に熟し、品質良好ならざるも、パレットと共に本邦各地に栽培せられ極めて豊産なり。



第六章 種類の解説

七〇

ウインターネリス

(Winter Nelis)

別名ボロンド、

マリンス

(Manne de

Bolines)

ホルマー、ネ

リス (Colmar

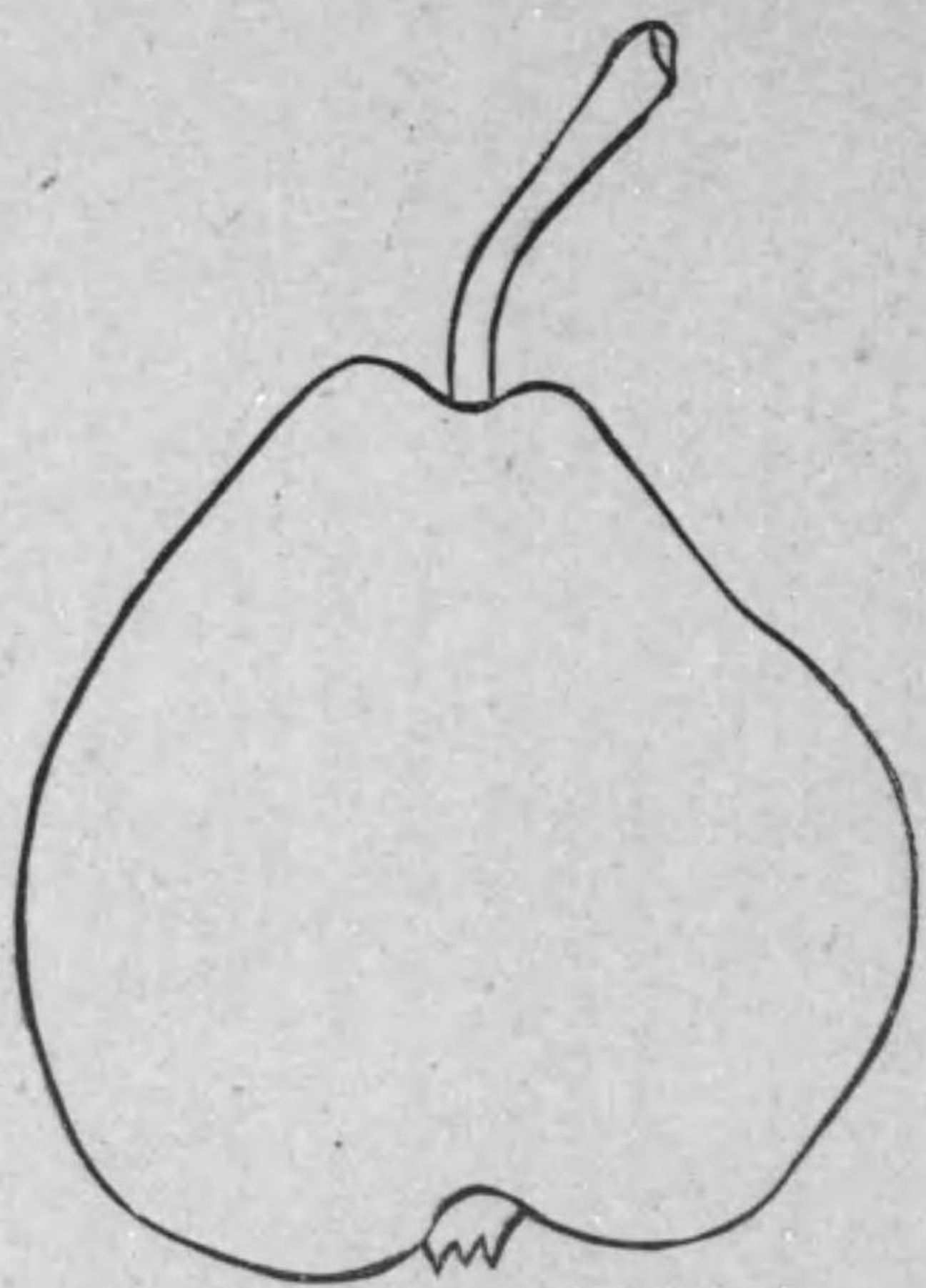
Nelis)

ネリス、ディ

ムス (Nelis d'

Hiver)

白國メチリンの原産にして樹性强剛、枝梢は灰褐色を帯び、且つ屈曲する性を有



す。芽小圓にして枝より能く開き、葉は狭小にして殆んど柳葉に似たり。果實は小若しくは中にして楕圓形をなし、頸小にして短く、果皮粗造綠色の地に

着せざるにあらざるも寧ろ共祐を擇ぶべし。

ローレンス (Lawrence)

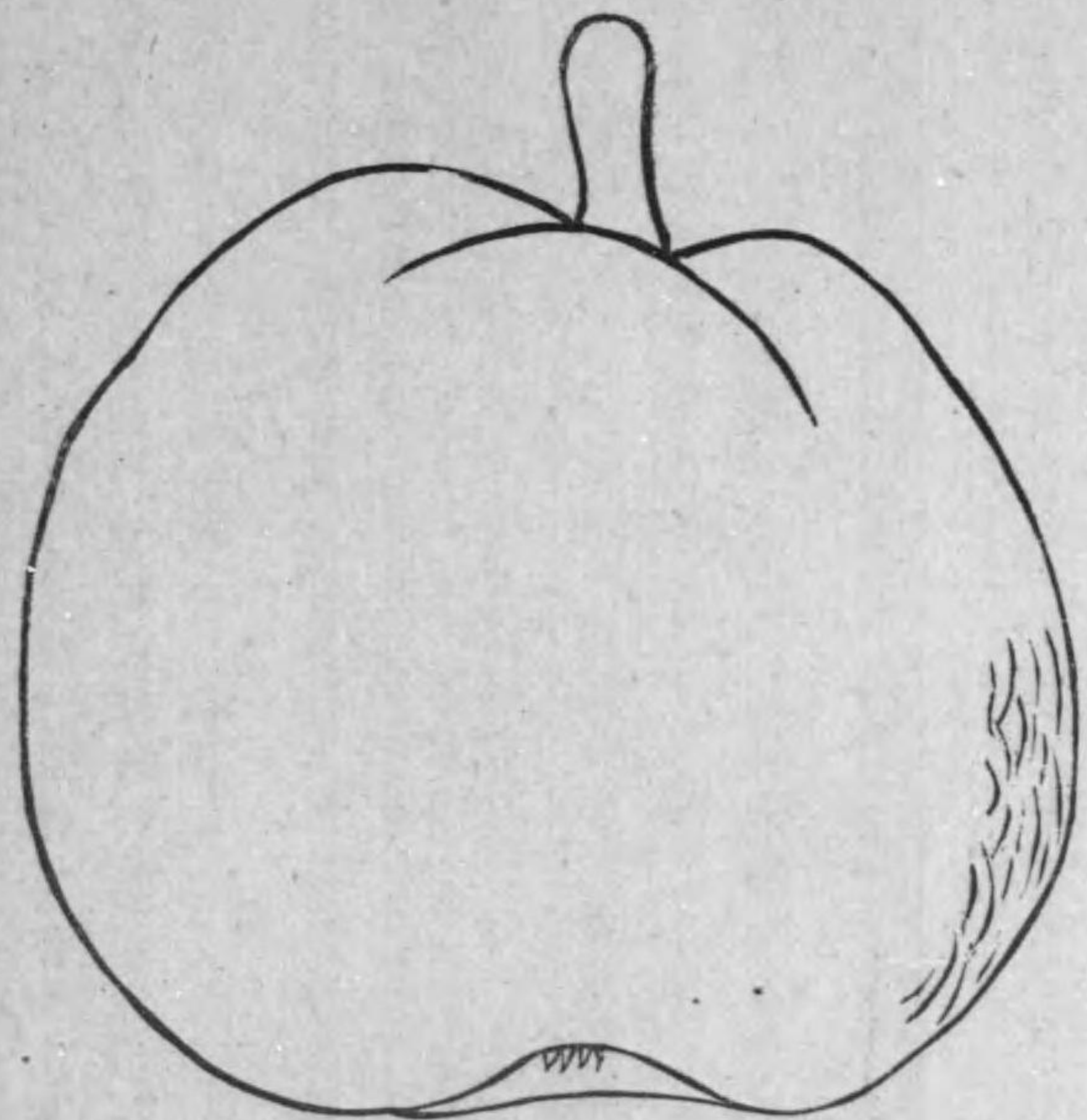
別名ローランス (Lawrance)

第六章 種類の解説

黄色を帯び、淡赤褐色の刷毛目、及鼠色の斑点あり。果梗短くして少しく曲り、梗窪廣く眼大なり、果肉白色に微黄を呈し、其質細微にしてバターの如く甘味多漿僅かに葡萄様の香氣あり、十二月より三月の候に成熟し、品質優等豊産なり、此種は椀杵祐に接

七一

第 三 十 二 圖 パツラックスツ



米國ニューヨーク州の原産樹性強健にして寒氣に堪へ、枝條の分岐多し。果は中形狀圓果皮黄色を帯び、果肉は緊りて溶け易く、甘味にして多汁十一月乃至十二月に熟し、品質上等なり。

パツス、クラサン (Passesera)

佛國の原産にして西曆千八百四十五年頃に生じ、千八百五十五年頃に至りて始めて市場に表はれたるが如し。樹性強健、枝條短大真直にして稍鼠色をなし、樹斑は褐色にして頗る明瞭、葉大濃緑なり。

果實は中又は大にして、圓形

果梗比較的太く、梗窪狭小なるも之れに反し、蒂窪は稍廣く、且つ深し、果皮厚くして粗造黄綠色を帯び。無數の褐斑を有す、果肉純白溶解性にして多漿甘味、且つ香氣高く、冬梨中の優品にて十二月より三月の候に成熟す。此種は椚杵砧に嫁接して豊産各種の整枝法にも適す。

ジョセフィン、マリヌ (Josephine de Malines)

白國の原産にして果實の大き中卵圓形をなし、果皮黄色にして小斑あり、果梗甚だ長大梗窪極めて小なるも蒂窪廣大なり。果肉は中心部に近く紅橙色を帯び、其質溶け易くして甘味多漿、且つ特殊の香氣あり。冬梨中の早熟種にして屢々冬の中頃まで貯藏するを得べく、椚杵砧のものは頗る立派なるピラミットに整枝することを得べし。

コロンビア (Columbia)

別名コロンビアン、ブルガリー (Columbian Virgaleu)

コロンビア、ブルゴリー (Columbia Virgouleuse)

米國ニューヨーク州ウエスト、チエスタの原産にして樹性強健、生長良好枝梢



は黄緑色を帯ぶ。

果實大にして長卵形、果皮青黄色、果面平滑にして甚だ美麗なり。果梗は寧ろ細くして長さ一寸内外、梗窪狭隘なるも深く、蒂窪小にして眼は開けり。果肉白色、溶質にして香氣あり。初冬の候に熟し、品質余り上等ならざるも大形にして且つ果色美麗なるを以て市場に歓迎せらる。

ヴァカー、オブ、ウインクフィールド (Vicar of Winfield)

別名ル、キユーラ (Le Curé)

モンシエール、ル、キユーラ (Monsieur Le Curé)

クリオン (Clion)

佛國の原産にして樹性强壯、生長良好なり。枝梢暗黄緑色を帯びて擴がる性を有し、椗杵砧に能く接着して豊産なり。果實大にして長蟻狀をなし、果皮青黄色、果梗寧ろ細くして長さ約一寸乃至一寸五分を有し、果實に附着する部分は肉梗なり、蒂窪狭くして淺く、果肉緑白又は黄白色、溶質にして多汁優良なる香氣と僅かなる滋味とを有す、晩秋より初冬の候に成熟し、料理用として品質殊に良好なり。

ウインター、パトリレット (Winter Parlette)

米國オレゴン州イーゼンの原産にして樹性强剛、果實は大形にして果形パトリレットと酷似し、果皮滑かにして黄色、陽光面は赤褐色を呈し、斑点大赤褐色にして甚だ美なり。果肉パトリレットの如く細美ならずと雖も、溶質にして風味は殆んど類似せり。熟期は十二月乃至三月とす。

以上冬梨中の良種

## 第七章 繁殖法

梨樹を繁殖するには實播、挿木、壓木及接木の諸法を用ふると雖ども、今日普通栽培者間に最も廣く應用せられ、然かも確實に繁殖の目的を達し得るは、實播以外殊に接木の方法なりとす。而して果樹自然の繁殖法とも稱すべき實播法の如きは多くの場合にありて母樹の性質を遺傳すること難く、變性して劣惡種とな

り優良種を生ずるは極めて稀なるが故に只奇品新種を得んとする場合若しくは砧木養成の目的によりて實行せらるゝに過ぎんのみ。

### 第一 實播法

新種類發見の場合には之れを除き、砧木養成の目的によりて實播法を行はんに山梨の種子を使用するを良しとす。元より培養種の子實不可なるにあらざるも、山梨に比すれば粘氣及甘味強きが爲め、播種后蟲害及鼠害を蒙りて發芽を誤るに至るのみならず樹性强壯ならざるの缺點あり。而して種子は充分熟したるものを採り、果肉を分離したる後、能く清水にて洗滌し、乾燥するを俟つて之を砂中に貯へ、翌春彼岸頃幅三四尺長さ適宜の床を設け、原肥として少量の堆肥油粕木灰及過磷酸を施し、茲に撒播又は條播條播にありては五寸位の畦に二寸位の距離を以て一粒宛播下すべしを行ひ、其上には乾燥せざる様葉稈類を以て被ふべし。其後適當の濕氣を與ふるに注意すれば凡そ七八日にして發芽するが故に、此際悉く敷葉を除去して發芽に便ならしめ、日覆を設けて陽光の直射を避

け、嫩芽の萎凋するを防がざるべからず。日覆は只に陽光の直射を避くるのみならず、一方に於ては霜害豫防の目的たるを以て、既に苗の生長し晩霜の憂ひなきに至らば、直ちに日覆を去りて専ら苗の強健なる生長を促すを要す。かくして秋季落葉後若しくは翌春發芽前に至り、苗圃に適宜の距離を以て移植し、前年と同じく施肥、除草等、培養懇切なる時は第三年目の春には立派なる嫁接用砧木となるものなり。而して梨の種子一ポンド(百二十匁)は實に一萬五千粒を算ふ。

### 第二 挿木法

挿木となすべき部分は、根元を接砧に供用したる殘幹の下部一尺内外のところにして、之れより上部にありては活着力非常に減退して、發根せざるもの多しと雖ども、根元の部分にありては百發百中の妙得て望むべきなり。加之手數と資本とを要すること實播法の如く多大ならざるを以て、近年苗木栽培家は専ら此法によりて砧木養成をなせり。然れども挿木法によりて得たる砧木は、樹勢弱く、且つ樹命短かきの缺點は、破ふべからざる事實なるを以て、苗木購入者は此邊

の注意亦なかるべからず。  
挿木すべき方法に至りては、葡萄、無花果の類に於けると一般挿穂の上下兩端をば斜に、且つ平滑に切斷し、稍濕潤なる土質を擇ひて挿入するものなり。

### 第三 接木法

凡そ接木法を行ふに當りては、第一に砧木及接穂の二者を必要とするものにして、是等撰擇の如何は直接接木の効果に多大の關係あるを以て、今接木の種類方法を説明するに先立ち、砧木及接穂の撰擇に關し、其一般を論述し置かん。

一、砧木の撰擇。砧木の撰擇如何は言ふまでもなく、或特殊の場合の外、植物學上最も近縁なる同屬同科同種のものを選ぶにあり。彼の木に竹を接ぐとは古來より能く言ふところにして、其不可能なるを意味し、接木術上の一警告にあらずや。假令植物學上最も近縁のものとも雖ども、枝幹の習性生長力の強弱等によりて接着に難易あり、歩合に多少の差あるは事實なり。されば近時洋梨の砧木として名聲高き椴椀と雖も、必ずしも各種に成績良好なりと云ふべからず。是

蓋しパートレットの如き、セツケルの如き、種類に屢々二重接の行はる、所以り。依つて以下梨樹の砧木各種の習性を述べ、以て砧木撰擇に資せんとす。

(イ) 椴椀。椴椀は是れを大別して、普通種 (Common)、ポルチユガル種 (Portugal) の二つとなし、而して普通砧木に共用せらるゝは主として前者に屬す。

元來椴椀は是れを梨樹に比較すれば、其性淺根にして寧ろ濕地を好み、高燥地に適せざるものゝ如し。然りと雖ども施肥灌水にさへ注意すれば、高燥地とて強ち不可なりと云ふべからず。

梨を椴椀に嫁接する時は樹をして、能く矮化せしむるのみならず、結果期を促進し、品質の改良を圖りて、優美高尚豊大なる果實を産じ、其風味の良好なる香氣の佳良なる到底梨砧の遠く及ばざるところなり。況んや剪定整枝病蟲害驅除豫防を實行する上に於て、其他總ての手入を施す上に於て、少なからぬ利便あるに於て、近年東西の實地家梨樹の矮性砧木として椴椀を賞用する亦宜なるかな。

如斯椴椀は梨の砧木として成績佳良なりと雖も、茲に注意せざるべからざるは、

椚杵の砧木の價値として本邦梨に望なきこと之なり。換言すれば椚杵に嫁接してかゝる利益あるは洋梨に限れりとす。されど亦洋梨にも其種類多く中には直接椚杵に接ぐべからざる種類あるを以て、砧木撰定上注意するところなるべからず。即ちボーレー、タマンリス、デュツセス、ダングレーム種の如きは接容易結果亦良好なりと雖ども、之れに反しバートレット、セツケル、ガンゼルス、ベルガモットの如き種類は接着極めて困難なるものにして、假令幸ひ接着すると雖も、向後の發育不良にして到底良好結果を見る能はざるは、古來實驗の示すところなり。是等の接着困難なる種類を強いて椚杵に接がんと欲せば、先づ第一着に接着容易なる種類を接ぎて中間砧木となし、然る後目的とする種類を接ぐ所謂二重接の方法に則らざるべからず。普通中間砧木として最も多く使用せらるるはキユーレ、ボーレー、アーヂー、ボーレー、タマンリスの如き種類なり。今アメリカン、フルート、カルチュリストの著者トーマス氏(Thomas)に従ひ、特に椚杵に成績佳良なるものと二重接にあらずんば、成切せざる種類とを記すれば次の如し。

特に椚杵砧によりて成績可なる種類

ボーレー、タマンリス (Beurre d'Amanlis)  
 デュセス、ダングレーム (Dussese d'Angoulême)  
 オータム、ロンググリーン (Autumn Long Green)  
 ボーレー、ディール (Beurre Diel)  
 イースター、ボーレー (Easter Beurre)  
 グロー、モルソー (Glout Morceau)  
 ルイ、ボイン、デゼルシー (Louise Bonne de Jersey)  
 ヴィカー (Vicar)

二重接にあらずんば成功せざる種類

ボーレー、ボスク (Beurre Bosc)  
 ディックス (Dix)  
 ダンモリア (Dunmore)  
 ガンゼルス、ベルガモット (Gansel's Bergamot)

マリールイス (Marie Louise)  
 パラダイス (Paradise)  
 シェルドン (Sheldon)  
 ワシントン (Washington)  
 ウィンターネリス (Winter nells)

(ロ) 實生 實生梨砧を使用するは本邦にありては最も普通なりと雖も、歐米に於ては専ら高木仕立の場合に用ふるもの如し。今實生砧に結果したる果實を榦砧のそれに比すれば、外觀風味共に劣ると雖も樹命長く、且つ豊産なるの事實は即ち實生砧の特質とするところにして、彼榦砧の遙かに及ばざることなり。實に兩者の間彼に一得あれば此れに一失ありて其優劣一概に論ずべからず。故に余は先づ余の實驗に徴し、砧木としての實生及榦砧の價值如何を比較し見ん。

- 一、榦砧に接ぎたるものは矮性仕立に適し、實生砧のものは高木仕立に良し。
- 二、榦砧に接ぎたるものは其樹命實生砧のものよりも短し。

バートレット (Bartlett)  
 グレイドワイヤン (Gray Doyenne)  
 ラクレチーブ (Lucrative)  
 オノンダガ (Onondaga)  
 セッケル (Seckel)

- 三、榦砧は接着すること實生砧に於けるよりも一般に困難なり。
- 四、榦砧に接ぎたるものは結果すること實生砧のものよりも速かなり。
- 五、榦砧に結果したる果實は實生砧のものよりも豊大なり。
- 六、榦砧に結果したる果實の品質は實生砧のものよりも遙かに優等なり。
- 七、榦砧のものは實生砧のものよりも一般に豊産ならざるが如し。
- 八、榦砧のものは實生砧のものよりも濕地に抵抗する力強大なるも高燥地に抵抗する力は弱し。

今持に實生砧を可とする種類の一二を示せば左の如し。

(ハ) 木瓜、此種の砧木は榦砧に比すれば更に接着歩合少なく、且つ是れが繁殖

に困難なるを以て、大栽培の如き一時に多数の砧木を必要とする場合にありては、勢ひ不利益尠なからず。木瓜砧の需用多からざる蓋し是れが爲めなり。然りと雖も一旦接着するや、椈砧と同じく樹を矮性となし、結果を促進するものなり。

以上の外、苹果と柳に梨を接ぎ得べしと雖も、向後の發育不良にして、動もすれば枯死し、以て開花結實を見ざるが常なり。又歐洲にては梨をナナカマド及びシデザクラ等に接ぐことありと云ふ。然れども是等は梨の實用的砧木ならざるを以て略すべし。

之を要するに砧木の選擇は梨樹種類の強弱に従ひ、栽培者の目的に應じ、更に土性の關係、經濟事情の如何によりて大に酌量するところなかるべからず。假令へば樹勢頗る旺盛なるキーファールコンテの如き乃至はボーレーブルプランボーレー、ダマンリス等の如きは椈砧に接ぎて生長を中和し、ボーレークレルジョーの如き生長極めて緩慢なるものは宜しく實生砧を擇ぶべく、栽培者の目的にして高木仕立にありとすれば、實生砧を求め矮性仕立を望まんか、須く椈砧に定

むべし。或は又土地濕潤なるか、若しくは肥沃に過ぎて梨樹栽培に不適當なる場合には、椈砧に利あるべきも、傾斜地の如き乾燥瘠薄なる土質にありては、寧ろ實生砧を用ふるを要す。更に又大都會の附近にして地價非常に高く、加ふるに小面積の土地を利用し、而かも多大の收利を擧げんには、勢ひ椈砧を供用せざるべからず。

二、接穂の選擇、接穂は出來得る限り南向の枝を擇ぶを可とし、其枝は品種固有の性質を遺傳し得るものならざるべからず。されば年々豊大美味なる果實を多量に結果する枝を記し置き、これより生ずる新梢を用ふる様心掛くるは實に必要なことなりと信ず。

接穂を切るの時期は未だ其芽の生機動かざる内、普通寒明後に之を切り、日光の直射せざる陰地冷所を擇びて約五六寸の深さに土中に挿入貯藏し置き、やがて適期來らば掘り採りて以て枝梢の中央部を用ふるを利とす。是れ元穂は發芽生育盛んなりと雖も、結果少なきの憂ひあり。これに反して末穂は未熟なるを以つて活着後の發育不良なるの傾あり。然るに中央部は能く兩者の中間に

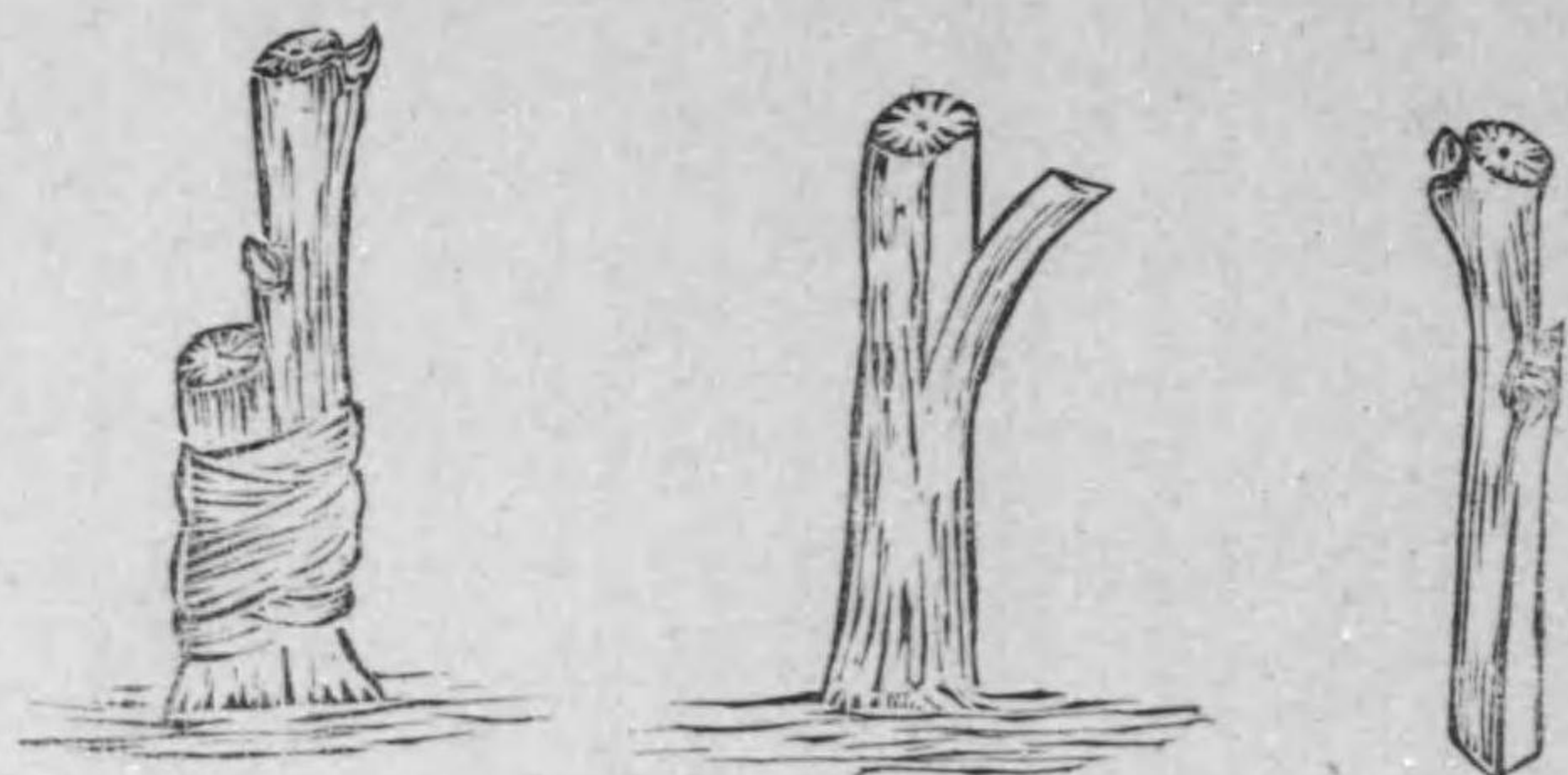
位して、發芽生育其度に適し、結果亦少なからざるを常とす。然りと雖ども枝梢の中央部のみを用ふるは、甚だ接穂の不經濟たるを免れず。故に接穂の分量に應じ適宜斟酌すべきなり。

接穂の輸送法に關しては、從來大根、蕪菁の如きものに挿入して運搬したりと雖ども、最も良好なる方法は、切口に接臘の如きものを塗沫し、水苔を以つて能く接穂を包み、箱内に詰め運搬するの勝れるに若かず斯の如くする時は、遠く數百里の地と雖も、容易に輸送することを得べし。

三、接木の種類及方法、梨樹に施すべき接木の法は種々ありと雖も、今最も普通に應用せらるゝもの二三に就いて説明せんか、即ち次の如し。

(イ) 切接法 從來我國の當業者間に最も廣く實行せらるゝは、即ち此法にして、接木なる語の一般切接を意味するに似たるを見て、實に明白なる事ならずや。凡そ接木術を施す上に於て其時期の如何は、活着に重大なる關係を有し、早きに失するも、遲きに過ぐるも、共に成績の不良なるは、爾來幾多の實驗上動かすべからざる事實なるが故に、宜しく其接ぐべき時期を誤らざらんことを要す。而し

法 接 切 圖 四 十 二 第



第七 繁殖法

て切接を行ふべき適當なる時期は、普通春の彼岸前後なりと雖ども、各地氣候の

相違によりて自然適期を異にするは免るべからざるところなり。故に吾人は宜しく樹液の流動を初め、芽の生機動き初めたる時期を擇ひ、砧木を地上二三寸の部分にて平滑に切斷し、雨水の停滞侵入を防ぐべし。接穂は普通二芽を用ふ、是れ即ち一芽のみにては萬一の變を慮るが爲に外ならず、從つて亦三芽も四芽も附くるの必要は之れなきなり。而して第二十四圖に示すが如く、銳利なる切刀を用ひて、穂の上端をば少しく斜に切りて平滑となし、下部凡そ七八分は平滑に淺く削り、之れに反對せる側面凡そ四五分は稍深く、木質に向つて切り、茲に接穂の準備なるものなり、斯して接穂の準備終るや、直ちに之れを口中に含みて削

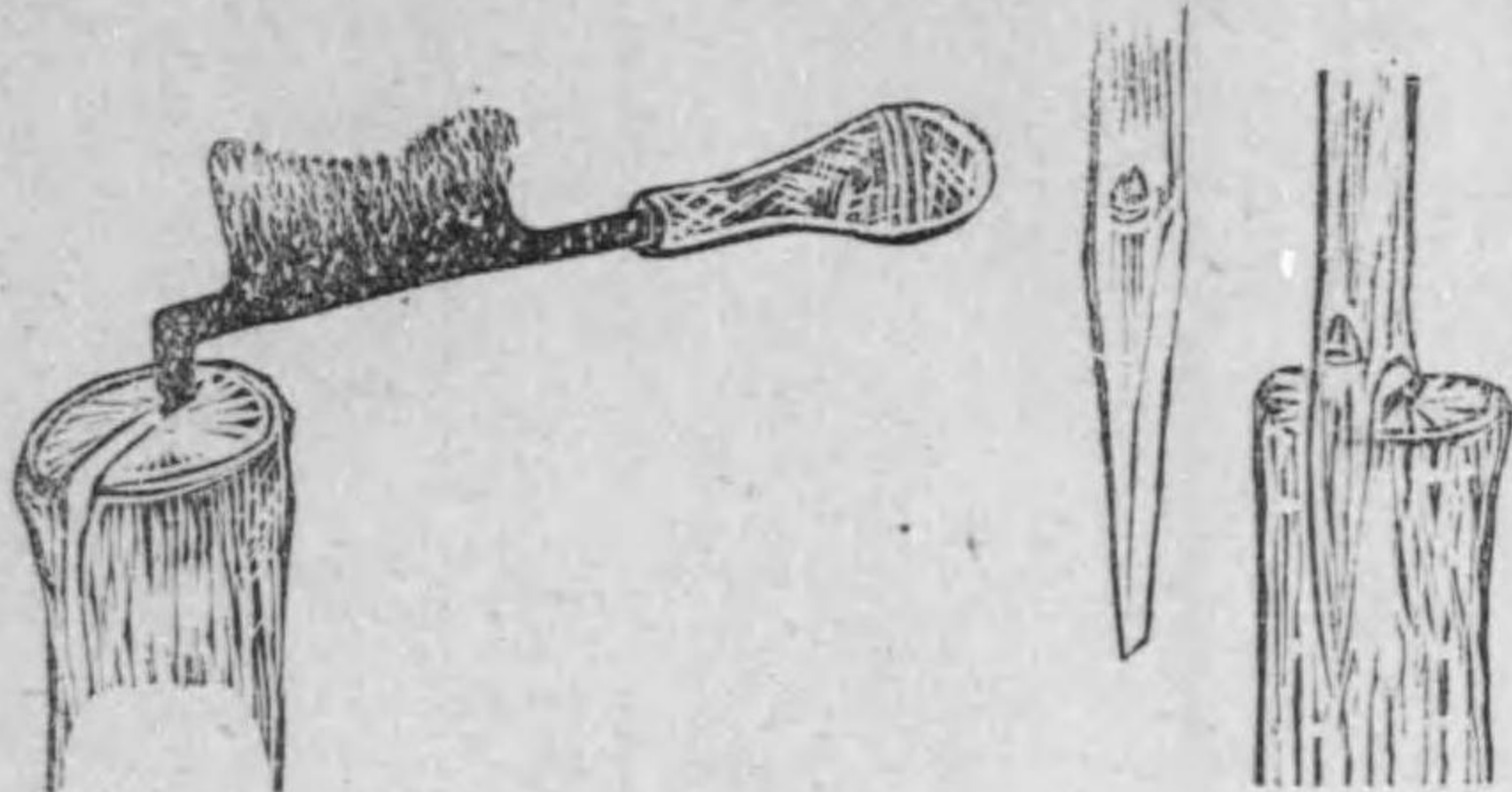
面の乾燥するを防ぎ、砧木の最も平滑なる部分を選び、皮部と木質部との中間に存する發生層の部分に接穂の削面と同じ長さになり下げて、茲に接穂を挿入密着せしめ、圖の如く打藁又は蘭草(西洋にてはラフィヤを用ふ等)を以つて緊縛するを要す。而して居接の場合にありては直ちに畦の土を盛り、又揚接ぎの場合に於てはこれを兼て用意し、置きたる圃場に運び、二尺位の畦溝に少量の堆肥油粕の如き肥料を與へて七八寸の距離に栽植し、穂の上一寸内外に被土し置く時は、やがて發芽を見るに至るものなり。既に發芽して約二三寸に達せば早速被土を除去して、接着部を露出せざるべからず。然らざれば接着部より根を發し、徒らに接木當初の目的を滅却することあり、深く注意するを肝要とす。假令接木の期節をして誤らざるとするも、技術の未熟、陽氣の不順なるが爲め失敗に終ること決して珍らしからず、若しも不幸にして失敗したる時は、再び接砧の他の部分に削り直し、豫め冷所に貯へ置きし接穂を取り出して、再接を行ふべし。之れが時期は大抵八十八夜頃なりと知るべし。

(ロ) 高接法 此方法は畢竟高所に於て切接、又は割接を行ふに外ならずして、多

くは樹勢衰弱の爲め結果意の如くならざるか、病蟲の被害甚だしきにより、接換へを要するか、或は亦何等かの障害に遇ひ、肝要なる枝を失ひたる場合に當り、其局部の空所を充さんが爲めに屢々應用するところの方法なり。而して之れが利點とするところは他の方法に比し、早く盛果年限に達し、相當の利益を見るに至ること之れなり。近來新潟地方にては赤星黒星病の猖獗甚だしく、越後産中の優品早生赤の如きも、今や固有の面影を失ひ、漸々小果劣品と化するに至れり。故に該地にては目下之れが應急手段として高接を利用し、樹性强健にして有望なる良種の接換へを盛んに實行しつゝありと聞けり、是れ蓋し全然植換へをなす時は、再び數年間は勞力資本を投ずるのみにて、利益を見ること能はざるも、高接法によりて接換へをなさば直ちに成木し、結果するに至るが故なり。高接法を行はんと欲せば、四尺乃至五尺内外の高さに於て不用なる枝を悉く切り拂ひて、接砧となし、茲に目的の種類を切接若しくは割接するものなり。而して接木局部には切接法の場合に於けるが如く、打藁は又蘭草を以つて巻縛し、尙其上に雨水の侵入を防ぐが爲めに、接臘を塗抹するか、然らざればハランの葉の



第二十五圖 割接法



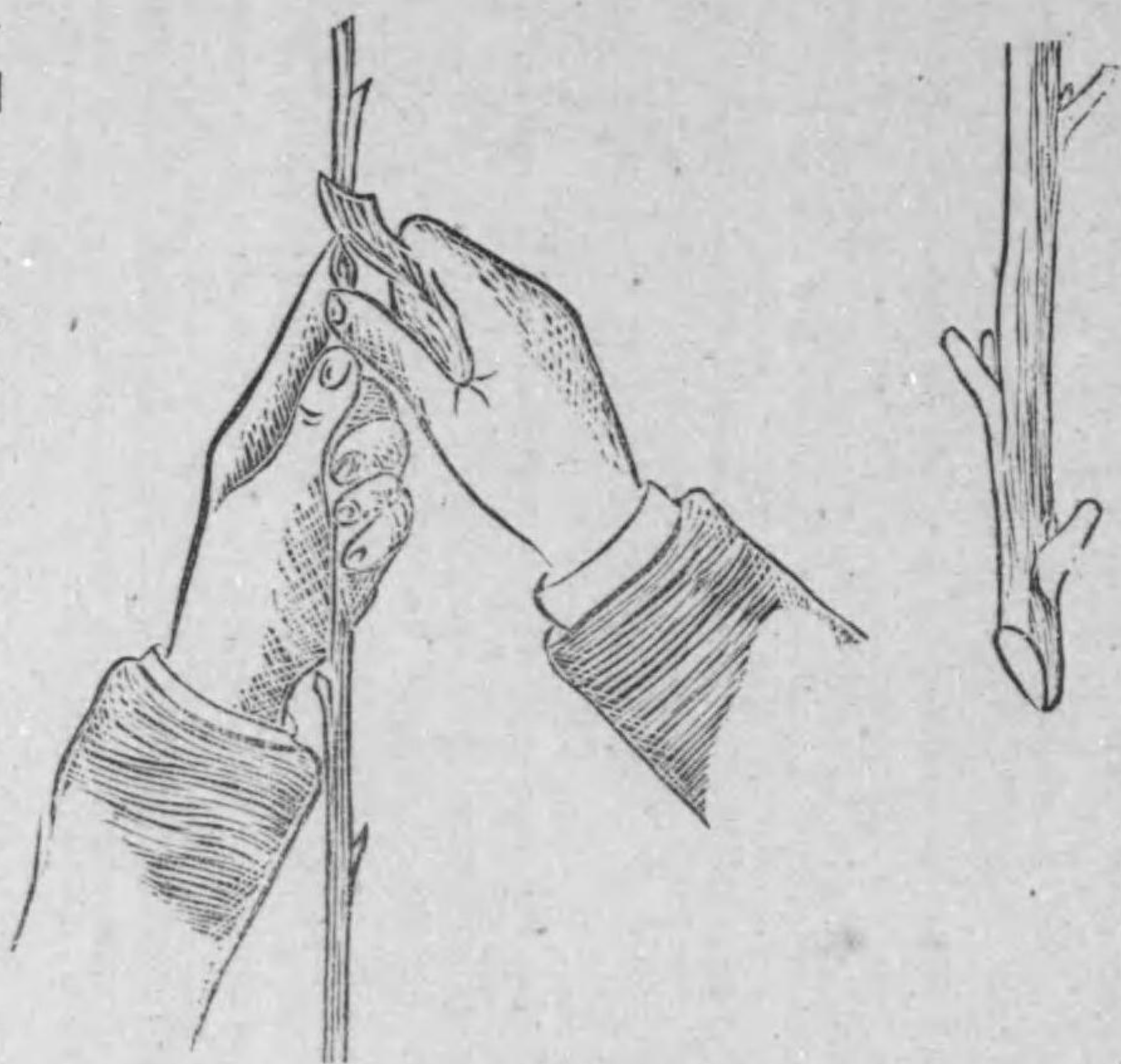
第七章 繁殖法

九〇

如きものを被ひ、其内部には接穂の先端僅かに見ゆるを度として、細土を盛り置くべし。而して活著するに至らば、秋季若しくは翌春に被物を除去し、同時に風害の爲め接着部の剝離せざる様、特に注意すること肝要なり。

(ハ) 芽接法 芽接術は單寧化物を含有する柿、栗樹の如き果樹には望み少なしと雖ども、梨樹には成績頗る佳良にして、最も眞直に然かも善良なる梨苗を得べき良法とす。芽接に供用すべき接穂は本年生のものにして、芽は充分發達したるものたるを要す。而して接穂を樹より剪截するや、葉を除去して少しく葉柄を存すべし、これは手術を施す上に於て至極便利なるのみならず、他日活著せるや否やを鑑別するものなり。接芽を削り取るの方法は即ち芽接用ナイフを以て芽の上下凡そ四五分のところに横に切り

第二十六圖 穂接、芽接の取り方



第七章 繁殖法

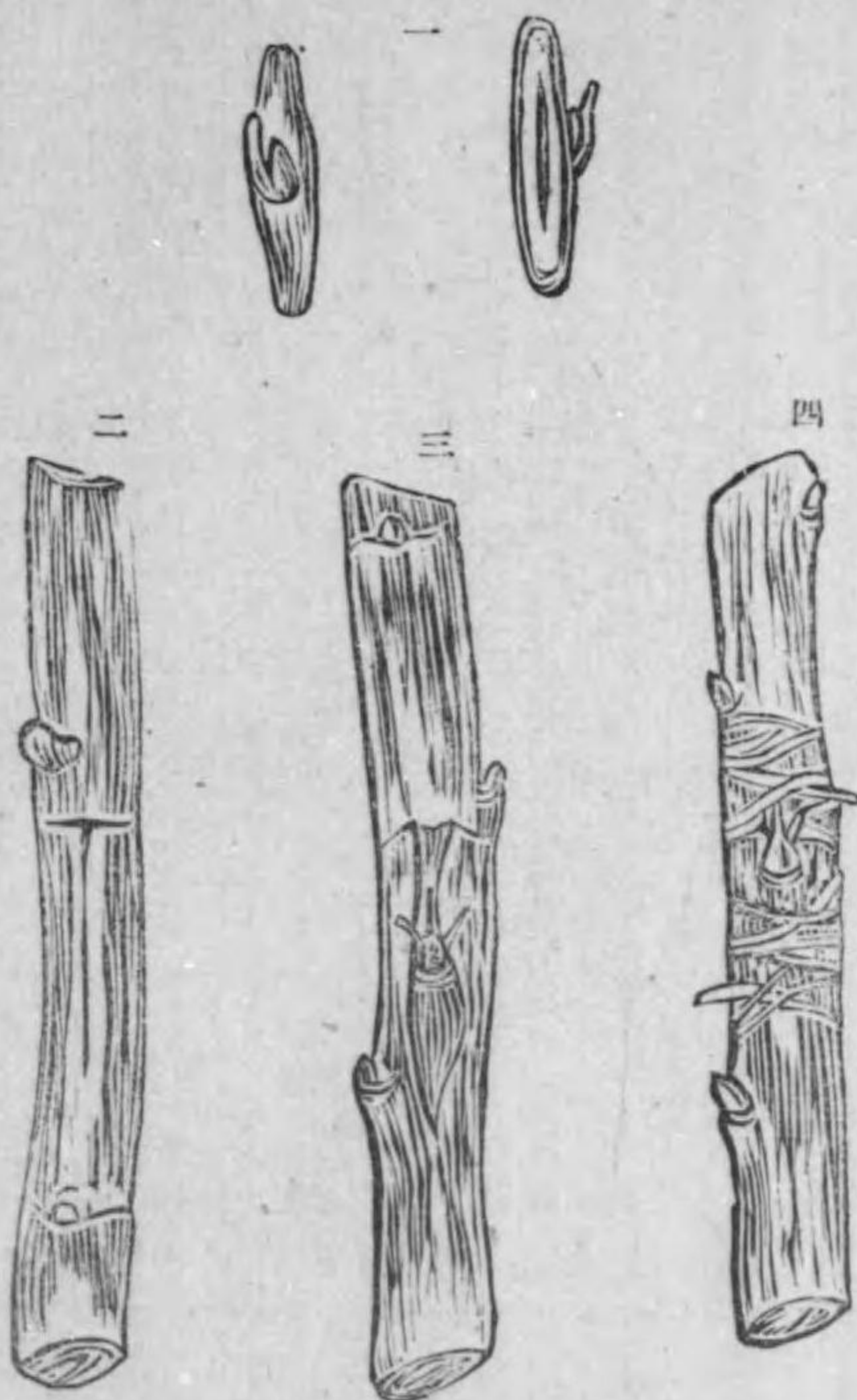
九一

のみを削り取るが如きは活著を誤るの失策なり。さりとして深さに過ぎて、多く木質を附着せしむるが如きは又可ならず。故に接芽は可及的薄片となべしと

目を入れて皮部と發生層の部分とを切斷し、圖の如く上部より削り取るが普通なれども、節間の屈曲甚だしきか、又は芽の肥大せる種類にありて上部よりするの困難なる場合には下部より削り取るも敢て不可なるにあらず。

要は只木質を附着するや、せざるやの程度に於て、成る可く薄片となすにあり。假令如何に薄片を貴ぶと雖も、徒らに皮部

第七十二圖 芽接法



一、適當に削り取り取りたる接芽 二、砧木に丁字形の切目を附したるもの 三、剥皮して接芽を挿入したるもの 四、挿入後蘭草を以て巻縛したる状を示したる者

第七章 繁殖法

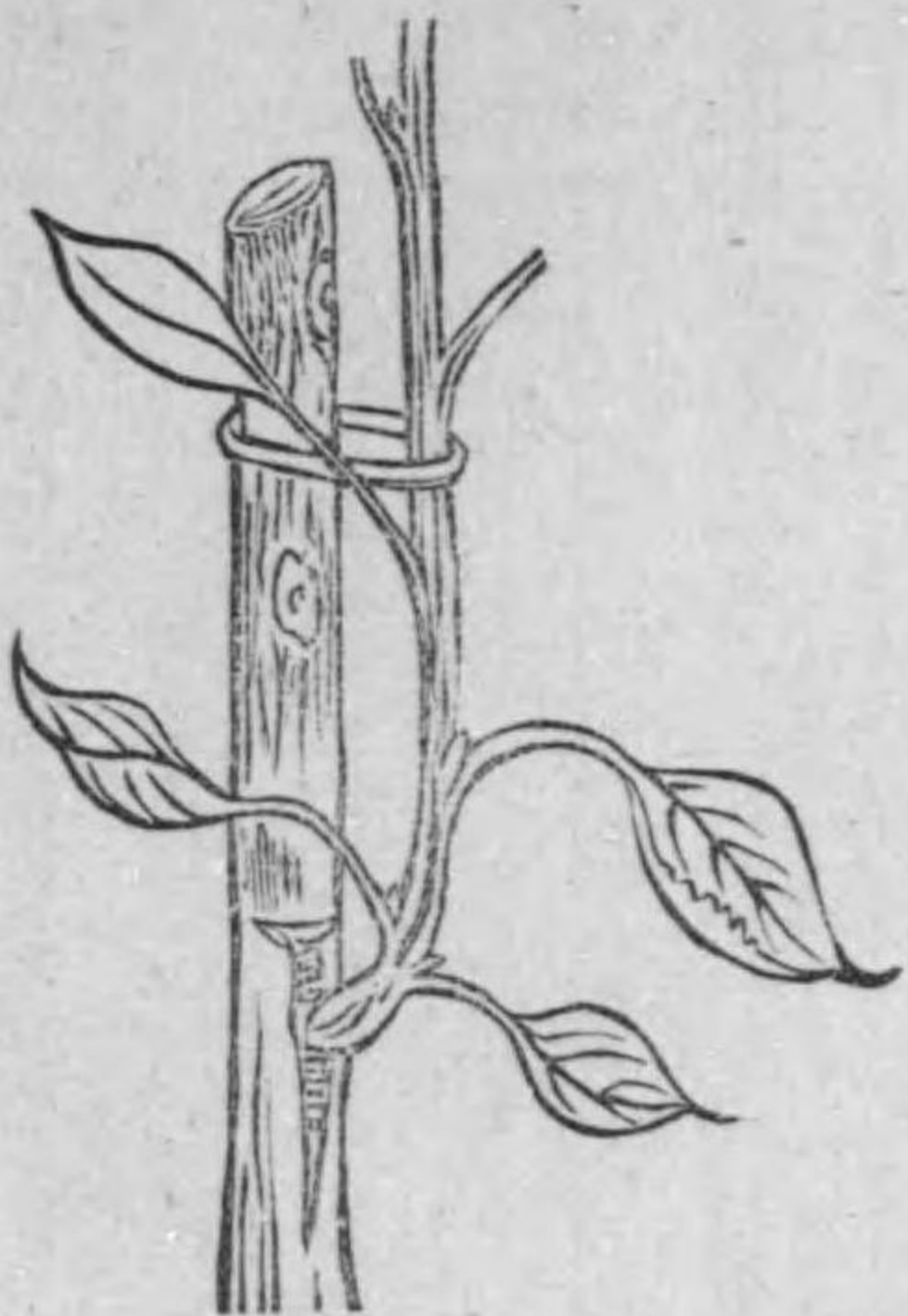
皮容易ならざるものは活着困難なるを常とす。されば芽接用としての砧木は寧ろ勢力盛んなる若き砧木を撰ぶに利益あり。而して芽接すべき部分は地上を去る約二三寸の處にして、北方に面し平滑なる然かも剥皮し易き場所を最適

雖ども、若し木質の附着したる時は下部より除去して然る後使用すし。既にして接芽を削り取りたる時は、之を口中に含みて接砧の準備に移るべし。砧木は一年生若しくは二年生を普通とするものにして砧木既に老成となり、剥

とす。然らずして陽光の直射強き南面に行ふ時は動もすれば乾燥の爲め活着を誤る事なきを保すべからず。又樹皮粗剛なる部分は剥皮困難なるが爲め動もすれば接木上肝要なる發生層を碎爛し、遂に失敗するの憂ある者と知るべし。砧木を剥皮する方法には種々あり。或は十字形あり、丁字形あり、或は上字形等ありと雖も、梨樹繁殖上最も廣く應用せらるゝものは丁字形剥皮法なり。而して丁字形に剥皮せんと欲せば、先づ芽接ナイフを以つて丁字形に樹皮を切り、筧状に作られたるナイフの柄先によりて、之を開き、豫め用意し置きたる接芽を玆に挿し込み打葉又は蘭草を以つて適度に巻縛し、十分兩者をして密着せしむべし。此際に於ける動作は凡て迅速機敏なるを貴ぶものにして、彼の剥皮中躊躇したるが爲め、木質黄變するが如き場合にありては概ね活着覺束なきものなりとす。

斯くして芽接ぎしたるものは、年内にありて發芽せざるべしと雖ども、活着せらるや否やは嫁接後一週間乃至十日間位を經過すれば、容易に之を識別することを得べし。即ち接芽の葉柄を檢し、葉柄の左程變色することなく、之れに軽く手を

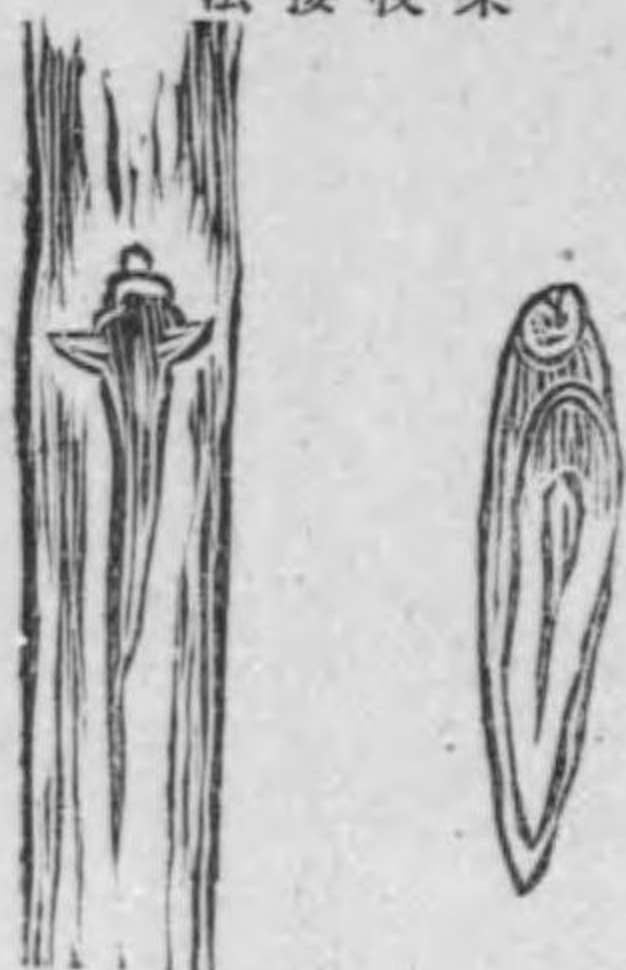
圖 八 十 二 第



月中下旬に行ふと雖ども、梨樹にありては八九月頃を普通とす。然し土地の寒

觸れ容易に落下する時は是れ活着せるの證にして、若し葉柄萎凋乾固し、手を觸るゝも容易に落下せざるものは所謂活着の見込なきを以つて、再び他の部分を剥皮して接直しを行ふを要す。  
凡そ芽接を行ひ、活着するに至れば、翌春早く發芽するを以つて發芽に先だち、第二十八圖に示すが如く會つて芽接せし、部分より五六寸の高さに於て截斷し、漸次芽の生長するに従ひ、之れに結び附けて、苗を眞直ならしめ、既に苗の一尺以上に及んで再び接着部分に近く、切斷する者にして、砧木より萌發したる芽は悉く之れを除き、専ら苗の強健を期し、以つて旺盛なる生長を圖るべきなり。  
元來芽接は從來の接木術と異なり、初秋の候に於てするものなり、最も櫻の如き芽の發育速かなるものは夏季七

圖 九 十 二 第  
法 接 枝 果



暖により多少の差あるを免れず、即ち東京府地方にては八月上旬を以つて適期をなすべきも、静岡縣與津附近にては九月上中旬を適期となすが如し、又砧木の生長如何によりても接ぐべき時期に多少斟酌するところなかるべからず、夫れ砧木の生長強盛にして樹液の循環旺盛なる時早くも芽接術を施すか、往々にして養分充溢の爲め不活着を招き、又遲きに過ぐる時は既に樹液の流動緩慢なるが爲めに、剥皮不如意となり、手術上に一大困難を與ふるの結果は遂に失敗の不幸を見るに至るものなり。之れを要するに芽接を施すべき最も適當なる時期は砧木の樹皮些少の困難を感ずるなく、自由に剥皮せらるゝ時なりとす。  
(二) 果枝接法 此法は枝上必要なる部分に結果枝を生ぜざる場合に行ふものにして、整枝果樹に屢々應用せらるる其法先づ八月下旬乃至九月中旬頃、十分發達せる果枝を採り、芽接法の如く、砧木を丁字形に剥皮して挿入するものなり。而して卷縛の方法等に至りては芽接法に同じ。

四 接臘 接臘は接合部に塗抹して施術局部の乾燥を防ぎ兼て雨露の侵入して腐敗するを豫防するものにして頗る便利なり。而して其製法には種々あり

と雖ども最も簡單なるものゝ一二を示せば次の如し。

- (一) 軟質松脂 百五十匁 豚脂 十五匁
- 蜜臘 三十匁
- (二) 樹脂 四匁 豚脂 二匁
- 蜜臘 一―二匁
- (三) 松脂 三匁 蜜臘 二匁

是等の製造法は適當なる鍋を採り、火にかけて先づ樹脂を溶かし次に蜜臘を加へて溶かし、最後に豚脂を混じて能く溶解せしめ充分攪拌するものなり。

### 第八章 栽植法

苗木は果園の根本とも基礎とも稱すべきものにして之れが良否は即ち成敗の岐るところなるを以て苗木の撰擇に關しては充分注意せざるべからず。

抑も梨樹の良苗は品種確實にして枝幹及根部は共に健全なる發達をなし、苟も恐るべき病蟲の附着せざるものなりとす。殊に病蟲は苗木と共に知らず知らずの間に傳播せられ繁殖を逞ふするを以て一層留意するを要す。又栽植に適すべき苗木の年齢は固より園主の意向整枝の如何によりて一概に言ふべからざるも普通一年生苗を用ふべく、只架棚整枝の如き長幹仕立に限り三四年生の大苗を用ふるの却つて得策とするものゝ如し。而して此場合にありては勢ひ假植培養を必要とするが故に、左に其方法の大要を述べん。梨苗は他果樹の苗に比すれば生長頗る旺盛にして種類によりては接木せる年内に六尺以上八九尺の長さには達する事蓋し珍しからざるべし。されば秋季落葉後之を其三分の一位に切り縮め、命根(午旁根)を除き、更に副根(側根)又は鬚根を五六寸の長さに短

縮し、豫め撰定したる圃地に三尺平方位の距離を以て假植し、春秋二回位に入糞尿油粕の如き速効性の肥料を與へて樹の發育を促し、支柱を立て、風害に備へ



定剪の根の木苗 圖十三第

其漸く生長するに至らば所要の枝を捻曲し置き、後日架棚誘引に便ならしむべし。梨果の産地として名ある静岡縣安部郡地方の實地家は概ね此の方法を應用するもの、如し。以上苗木に關し其一般を知得したるを以て、以下栽植の方法を説き、最後に栽植の時期に就いて述べんとす。

栽植の方法。凡そ栽植距離を如何にすべきかの問題は梨樹將來の發育上並に栽培經營上輕視すべからざるは明かなりと雖も、果して幾何の距離を必要とするやは種類の性質土地の肥瘠及整枝法の異なるに依り、一概に論ずべからざるも今梨果著名の産地に就いて之を見れば、普通二間四方乃至三間四方なるが如し。更に整枝法と栽植距離との關係は是非必要なる事なりと雖ども、そは後章

就いて述べんとす。

整枝法と共に述べ茲には之を略することとせり。讀者之を諒とせよ。

次に苗木の排列法に移らん、これは栽植距離と共に日光の透過空氣の流通に多大の關係を及ぼし、生育に結果に多大の影響を與ふるを以て大に注目すべきなり。而して排列の方式には方形なると三角形なるとの別あり。前者は從來

慣行し來れる方法にして動もすれば、風光の透過を妨ぐるの恐れなしとせざるも、後者即ち三角形形式はかゝる不利益なきのみならず、外觀の美を添へ地積の經濟ともなるを以て、今後梨樹園を開かんと欲するものは宜しく此方式を學ぶべきなり。



今三角形形式に従ひ栽植せんとせば、先づ栽植すべき起點を定め、甲乙の二名起點に立ちて、一直線に繩を張り、株間を定めて目標を立て、次ぎに豫定の畦間に依りて前述の如く一直線に繩を張り、前目標とそれ、良好なる三角形たらしむるが如く、漸時目標を立てるべし。斯くして全部目標を立て終りたる時は、一應

目標の誤りなきや否やを檢し、然る後苗の根部擴張の面積に應じて栽穴を掘るべきなり。栽穴を掘る場合に當りて吾人の最も注意すべく然かも肝要なるは表層土と下層土とを混ぜざるにあり、既に栽穴の堀起終らば茲に表層の少量を入れ、之れに人糞尿、木灰、過磷酸石灰等の適量を施して十分攪拌混合し置き、苗は注意して根部を檢し、若し微小たりとも損傷したるところあらば容赦なく、利刀を以て剪除せざるべからず。假令損傷せざると雖も、有つて用なき所謂冗根を剪截するは間はざるも明なり。愈々苗を栽穴中に投ずるや、能く根が自然の狀態に鑑み成る可く根を四方に開展して、殘除の表土を入れ、下層土をして上部にあらしむべし。是れ梨樹の生育上尠なからぬ利益あるのみならず、彼の耕耘法に於ける天地返しの効果も之を見るに至るべし。

栽植の深淺は其後の發育に關係するものにして、米國のキーン氏は、幹部四インチ(約四寸)を土中に埋むるを以て適當なりと説けり。されど本邦の如く濕潤地にありては成るべく淺植となし、根をして表土に蔓延せしむるの却つて適せりと云ふを得べし。殊に粘土地に栽植する場合なるか、或は水田利用の如き場合

にありては、只に其の根部のみを埋むるの程度に止め、最上部に一二寸の表土を盛るに利あるが如し。之れを要するに栽植の深淺は土地の乾濕により大に相違あるものなりとす。

栽植の時期。に關しては由來學者の説一様ならず。或は春季栽植を可なりと云ひ、或は秋季栽植を可なりとなすが如し。然りと雖も吾人を以て之れを見れば甚しき寒地ならざる限り秋季栽植を主張するものなり。是れ秋期落葉後に於て栽植する時は恰も果樹の休眠時代なるを以て堀採して移植するも、亦剪定を行ふも何等樹の生理を害せざるのみならず、春季に至るまで多くの時日を経るを以て、根と土壤との關係愈々密接となり、其の發育生長せんとするや勢力頗る盛んなるに至る。之れに反し春季まで苗圃に或は假植地にありしものを堀採りて栽植せんか、時恰も果樹の將に發育せんとて發育の準備中にあるものなるが故に、大に生理的の障害となりて發育を遅延せしめ、生育を不良ならしむるは吾人の屢々實見するところなり。茲を以て梨樹の栽植は成る可く秋期十一月頃を擇ばざるべからざるも、開園其の他の都合上萬止むを得ざる場合には

寒明け後直ちに栽植すべきなり。

栽植苗数計算法

正方形植 苗数 =  $\frac{\text{栽植面積(尺坪)}}{[\text{株間距離(尺)}]^2}$

長方形植 苗数 =  $\frac{\text{栽植面積(尺坪)}}{\text{株間距離(尺)} \times \text{畦間距離(尺)}}$

正三角形植 苗数 =  $\frac{\text{栽植面積(尺坪)}}{\text{株間距離(尺)} \times \text{畦間距離(尺)} \times 1.155}$

### 第九章 肥料

抑、梨樹栽培上に於ける施肥の方法如何は、やがて樹勢の強弱枝梢の熟否に關し、果ては結果の豊否品質の優劣を分ちて栽培の利益に少なからぬ影響を與ふるものなれば、當業者たるものは剪定整枝の術に熟達すると共に、施肥の方法に精通せざるべからず。

然るに世人は往々にして梨樹の如き深根性の植物は能く土中の養料を攝取する機能あるが故に、敢て人工的に施肥を云々するの要なきものと誤り、之を等閑に附するもの蓋し少しとせず、豈寒心の極ならずや。勿論豊饒なる宅地の片隅に僅々一二本の梨樹を、然かも娛樂的に栽植する場合は暫く措き、苟も廣く梨樹園を開き經濟的に多數の栽培を望まば、勢ひ合理的なる施肥の方法によりて樹勢を維持發展せしむると同時に、地力の消耗を防がざるべからず。如斯梨に施肥するの目的は、梨樹の生長及結果に資する必須の養分を遺憾なく供給するのみならず、更に進んでは土中養料の缺乏を補ふが爲めにして、何等地の栽培植物と異なるところなし。茲に於てか梨樹も亦米麥作の如き普通作物に於けると殆んど同一理論の下に施肥すべきものたるや明かにして、特に窒素、磷酸、加里の三要素を必要とするや無論なり。而して今是等三要素が梨樹生長上に於ける關係の一般を略述して一層當業者の注意を曳かんとす。

獨り梨樹のみならず、凡て果樹の肥料として窒素成分の供給不足ならんか、又は土中に該成分の缺乏を來さんか果樹は忽ちにして有機物質を生成するの機能

衰へ、生長不活發となり、爲めに葉は異常の綠色を呈するに至るも、一朝其供給にして多からんには、茲に新組織の生成盛んなるが故に、果樹の枝葉は所謂徒長軟弱に過ぎ、假令果實の收量をして多量ならしむるも、品質は却つて劣悪ならしむるが常なり。されば梨樹の發育時代にして専ら樹の生長發達を期待する場合なるか、若しくは衰弱せる樹をして之れが恢復を圖るの目的にありては、窒素の效果特に著大なるものなり。

梨樹は他の櫻桃苹果等に比すれば、磷酸を要する分量稍少なしと雖も、然も他要素と共に蛋白質殊に細胞核の主成分となり、果樹の發達上亦必要かくべからざるなり。而して磷酸は窒素と稍其赴きを異にし、枝葉の徒長を防ぎて之を充實せしめ、結果を促進せしむるの特効あるのみならず、加里成分と相俟つて梨果の酸味を減じて糖分を増し、大に品質を優良ならしむると同時に、吾人は果實の生長上磷酸及加里の必要更に多大なるを知るべし。

既に述べたるが如く、加里成分は磷酸と共用して、果實の品質を佳良ならしむるのみならず、果實の色澤をして艶美ならしむるの効あり。其他根莖各部の組織

を堅實ならしむる等其關係するところ實に少からざるなり。故に肥料として加里成分の供給乏しからんか、爲めに枝梢は充分成熟するを得ず、従つて病蟲害に對する抵抗力を減ずるは勿論、完全なる結果作用は得て望むべからざるなり。近來一部の果樹栽培家は既に三要素の如何に着目するに至りたりと雖ども、未だ一般は五里霧中において梨樹施肥法の如きも、洵々人糞尿の如き窒素肥料のみを單用して顧みざるに於ては、我國果樹栽培家が如何に肥料觀念に乏しきか察するに餘りありと云ふべし。

梨樹の施肥上三要素の必要にして缺くべからざるは如斯果して然らば、梨樹の肥料として是等三要素は如何なる率を以て配合し、如何なる分量を以て供給するを可とし、或は否とするや、是れぞ施肥上に於ける根本的重要問題にして、當に吾人の知らんと欲するところなりと雖ども、實際之を行ふに當りては、土質種類等幾多の事情複雑して、一概に述べ能はざるも、栽植初年の如きは、窒素一に對する磷酸一加里一の割合を以て施用し、既に結果期に到らば窒素に比して磷酸加里の分量を増加し、窒素一に對し磷酸及加里は一、二乃至一、五位の割合として可



なるべし。

左に恩師恩田農學士の實驗に基き、梨樹一段歩に於ける三要素の施肥量を示して、参考とすべし。(但一反歩七十五本)

樹齡	窒素	磷酸	加里
二年生	五〇〇	五〇〇	五〇〇
三年生	七五〇	七五〇	七五〇
四年生	一一〇〇	一一〇〇	一一〇〇
五年生	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇
六年生	二四〇〇	二四〇〇	二四〇〇
七年生	三〇〇〇	三六〇〇	三六〇〇
八年生	三六〇〇	四二〇〇	四二〇〇
九年生	四二〇〇	四八〇〇	四八〇〇
十年生	四八〇〇	五四〇〇	五四〇〇
十一年生	五四〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇
十二年生	五四〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇

今施肥量計算の一例を示さんに窒素磷酸加里各五〇〇〇を施すものとし堆肥人糞尿過磷酸石灰及木灰を用ふるものとせば即ち次の如し。

肥料名	數	量	窒素	磷酸	加里
堆肥	四〇	四〇貫	二二二	一一〇	二〇〇
人糞尿	四五	四五〇	二五六	一五八	一一一
過磷酸灰	二〇	二〇〇	三〇〇	五〇	一一一
木灰	三〇	三〇〇	四八九	一一七	三五一
計			四八九	五八九	六七五

若し又大豆粕、過磷酸石灰、及木灰の三者を施用するものとして計算せば次の如し

肥料名	數	量	窒素	磷酸	加里
大豆粕	七	七〇	四九〇	七七	一四〇
過磷酸	三	三〇	—	四五〇	—
木灰	三	三〇〇	—	—	三五一
計			四九〇	六四四	四九一

今左に本邦各地に使用せらるる肥料の主要なるものに就き其成分換算表を掲げて實地當業者に便與せん

第九章 肥料

重	量	窒	素	磷	酸	加	里
一〇、〇〇〇	〇、一〇〇		〇、五八		〇、三〇		〇、五〇
九、〇〇〇	〇、〇〇〇		二、九〇		一、五〇		二、五〇
八、〇〇〇	〇、〇〇〇		五、八〇		三、〇〇		五、〇〇
七、〇〇〇	〇、〇〇〇		一、一六〇		六、〇〇		一、〇〇〇
六、〇〇〇	〇、〇〇〇		一、七四〇		九、〇〇		一、五〇〇
五、〇〇〇	〇、〇〇〇		二、三二〇		一二、〇〇		二、〇〇〇
四、〇〇〇	〇、〇〇〇		二、九〇〇		一五、〇〇		二、五〇〇
三、〇〇〇	〇、〇〇〇		三、四八〇		一八、〇〇		三、〇〇〇
二、〇〇〇	〇、〇〇〇		四、〇六〇		二一、〇〇		三、五〇〇
一、〇〇〇	〇、〇〇〇		四、六四〇		二四、〇〇		四、〇〇〇
〇、〇〇〇	〇、〇〇〇		五、二二〇		二七、〇〇		四、五〇〇
			五、八〇〇		三〇、〇〇		五、〇〇〇

一〇九

堆肥

窒素 〇、五八%  
 磷酸 〇、三〇%  
 加里 〇、五〇%

三〇、〇〇〇	七、一〇〇	三九、〇〇〇	八一、〇〇〇
三五、〇〇〇	一九九、五〇〇	四五、五〇〇	九四、五〇〇
四〇、〇〇〇	二二八、〇〇〇	五二、〇〇〇	一〇八、〇〇〇
四五、〇〇〇	二五六、五〇〇	五八、五〇〇	一二一、五〇〇
五〇、〇〇〇	二八五、〇〇〇	六五、〇〇〇	一三五、〇〇〇

第九章 肥料

一 窒素質肥料

人糞尿下肥 窒素 〇、五七%  
 磷酸 〇、一三%  
 加里 〇、二七%

重	量	窒	素	磷	酸	加	里
二五、〇〇〇	〇、一〇〇		〇、五七		〇、一三		〇、二七
二〇、〇〇〇	〇、〇〇〇		二、八五		〇、六五		一、三五
一五、〇〇〇	〇、〇〇〇		五、七〇		一、三〇		二、七〇
一〇、〇〇〇	〇、〇〇〇		一、一四〇		二、六〇		五、四〇
九、〇〇〇	〇、〇〇〇		一、七一〇		三、九〇		八、一〇
八、〇〇〇	〇、〇〇〇		二、二八〇		五、二〇		一〇、八〇
七、〇〇〇	〇、〇〇〇		二、八五〇		六、五〇		一三、五〇
六、〇〇〇	〇、〇〇〇		三、四二〇		七、八〇		一六、二〇
五、〇〇〇	〇、〇〇〇		三、九九〇		九、一〇		一八、九〇
四、〇〇〇	〇、〇〇〇		四、五六〇		一〇、四〇		二一、六〇
三、〇〇〇	〇、〇〇〇		五、一三〇		一一、七〇		二四、三〇
二、〇〇〇	〇、〇〇〇		五、七〇〇		一二、〇〇		二七、〇〇
一、〇〇〇	〇、〇〇〇		八、五五〇		一三、五〇		三〇、〇〇
〇、〇〇〇	〇、〇〇〇		一、四〇〇		一四、〇〇		三三、〇〇
			二、二五〇		一五、〇〇		三五、〇〇

一〇八



第九章 肥料

重	量	磷	酸	窒	加
三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇
一、一三、四〇	七五、六〇	三七、八〇	一八、九〇	三、七八	二、〇八
六二、四〇	四一、六〇	二〇、八〇	一〇、四〇	二、〇八	一、四〇
四二、〇〇	二八、〇〇	一四、〇〇	七、〇〇	一、四〇	〇、七〇

一一三

二 磷酸質肥料

米 糠  
磷酸三、七八%  
窒素二、〇八%  
加里一、四〇%

一〇、〇〇〇	九、〇〇〇	八、〇〇〇	七、〇〇〇	六、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇
一六六、〇〇	二四九、〇〇	三三二、〇〇	四一五、〇〇	四九八、〇〇	五八一、〇〇	六六四、〇〇	七四七、〇〇	八三〇、〇〇
一六八、〇〇	二二四、〇〇	二八〇、〇〇	三三六、〇〇	三九二、〇〇	四四八、〇〇	五〇四、〇〇	五六〇、〇〇	六一六、〇〇
一四、〇〇	二一、〇〇	二八、〇〇	三五、〇〇	四二、〇〇	四九、〇〇	五六、〇〇	六三、〇〇	七〇、〇〇

第九章 肥料

重	量	窒	素	磷	窒	加
一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇〇
八三、〇〇	四一、五〇	八、三〇	八、三〇	五、六〇	二、八〇	〇、七〇
五六、〇〇	二八、〇〇	五、六〇	五、六〇	三、九〇	一、九〇	〇、五〇
七、〇〇	三、五〇	〇、七〇	〇、七〇	〇、五〇	〇、三〇	〇、一〇

一一二

鮮、粕

窒素八、三%  
磷酸五、六%  
加里〇、七%

重	量	窒	素	磷	窒	加
一〇、〇〇〇	九、〇〇〇	八、〇〇〇	七、〇〇〇	六、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇
七五〇、〇〇	六七五、〇〇	六〇〇、〇〇	五二五、〇〇	四五〇、〇〇	三七五、〇〇	三〇〇、〇〇
一八五、〇〇	一五〇、〇〇	一二五、〇〇	一〇〇、〇〇	七五、〇〇	五〇、〇〇	二五、〇〇
一八、五〇	一四、〇〇	一〇、〇〇	七、〇〇	四、〇〇	二、〇〇	一、〇〇

三 加里質肥料

木 灰 加里 一、七 %  
 磷 酸 三、九 %

第九章 肥料

重	量	加	里	磷	酸
〇、一〇〇	〇、五〇〇	一、七	三、九	一、七〇	三、九〇
〇、二〇〇	一、〇〇〇	三、四	七、八	三、四〇	七、八〇
〇、三〇〇	一、五〇〇	五、一	一、一六	五、一〇	一、一六〇
〇、四〇〇	二、〇〇〇	六、八	一、五二	六、八〇	一、五二〇
〇、五〇〇	二、五〇〇	八、五	一、九〇	八、五〇	一、九〇〇
〇、六〇〇	三、〇〇〇	一〇、二	二、二八	一〇、二〇	二、二八〇
〇、七〇〇	三、五〇〇	一二、〇	二、六六	一二、〇〇	二、六六〇
〇、八〇〇	四、〇〇〇	一三、八	三、〇四	一三、八〇	三、〇四〇
〇、九〇〇	四、五〇〇	一五、六	三、四二	一五、六〇	三、四二〇
一、〇〇〇	五、〇〇〇	一七、四	三、八〇	一七、四〇	三、八〇〇
一、一〇〇	五、五〇〇	一九、二	四、一八	一九、二〇	四、一八〇
一、二〇〇	六、〇〇〇	二一、〇	四、五六	二一、〇〇	四、五六〇
一、三〇〇	六、五〇〇	二二、八	四、九四	二二、八〇	四、九四〇
一、四〇〇	七、〇〇〇	二四、六	五、三二	二四、六〇	五、三二〇
一、五〇〇	七、五〇〇	二六、四	五、七〇	二六、四〇	五、七〇〇
一、六〇〇	八、〇〇〇	二八、二	六、〇八	二八、二〇	六、〇八〇
一、七〇〇	八、五〇〇	三〇、〇	六、四六	三〇、〇〇	六、四六〇
一、八〇〇	九、〇〇〇	三一、八	六、八四	三一、八〇	六、八四〇
一、九〇〇	九、五〇〇	三三、六	七、二二	三三、六〇	七、二二〇
二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三五、四	七、六〇	三五、四〇	七、六〇〇
二、一〇〇	一〇、五〇〇	三七、二	七、九八	三七、二〇	七、九八〇
二、二〇〇	一〇、五〇〇	三九、〇	八、三六	三九、〇〇	八、三六〇
二、三〇〇	一一、〇〇〇	四〇、八	八、七四	四〇、八〇	八、七四〇
二、四〇〇	一一、〇〇〇	四二、六	九、一二	四二、六〇	九、一二〇
二、五〇〇	一一、〇〇〇	四四、四	九、五〇	四四、四〇	九、五〇〇
二、六〇〇	一二、〇〇〇	四六、二	九、八八	四六、二〇	九、八八〇
二、七〇〇	一二、〇〇〇	四八、〇	一〇、二六	四八、〇〇	一〇、二六〇
二、八〇〇	一二、〇〇〇	四九、八	一〇、六四	四九、八〇	一〇、六四〇
二、九〇〇	一二、〇〇〇	五一、六	一〇、〇二	五一、六〇	一〇、〇二〇
三、〇〇〇	一二、〇〇〇	五三、四	一〇、四〇	五三、四〇	一〇、四〇〇
三、一〇〇	一二、〇〇〇	五五、二	一〇、七八	五五、二〇	一〇、七八〇
三、二〇〇	一二、〇〇〇	五七、〇	一一、一六	五七、〇〇	一一、一六〇
三、三〇〇	一二、〇〇〇	五八、八	一一、五四	五八、八〇	一一、五四〇
三、四〇〇	一二、〇〇〇	六〇、六	一二、九二	六〇、六〇	一二、九二〇
三、五〇〇	一二、〇〇〇	六二、四	一三、三〇	六二、四〇	一三、三〇〇
三、六〇〇	一二、〇〇〇	六四、二	一三、六八	六四、二〇	一三、六八〇
三、七〇〇	一二、〇〇〇	六六、〇	一四、〇六	六六、〇〇	一四、〇六〇
三、八〇〇	一二、〇〇〇	六七、八	一四、四四	六七、八〇	一四、四四〇
三、九〇〇	一二、〇〇〇	六九、六	一四、八二	六九、六〇	一四、八二〇
四、〇〇〇	一二、〇〇〇	七一、四	一五、二〇	七一、四〇	一五、二〇〇
四、一〇〇	一二、〇〇〇	七三、二	一五、五八	七三、二〇	一五、五八〇
四、二〇〇	一二、〇〇〇	七五、〇	一五、九六	七五、〇〇	一五、九六〇
四、三〇〇	一二、〇〇〇	七六、八	一六、三四	七六、八〇	一六、三四〇
四、四〇〇	一二、〇〇〇	七八、六	一六、七二	七八、六〇	一六、七二〇
四、五〇〇	一二、〇〇〇	八〇、四	一七、一〇	八〇、四〇	一七、一〇〇
四、六〇〇	一二、〇〇〇	八二、二	一七、四八	八二、二〇	一七、四八〇
四、七〇〇	一二、〇〇〇	八四、〇	一七、八六	八四、〇〇	一七、八六〇
四、八〇〇	一二、〇〇〇	八五、八	一八、二四	八五、八〇	一八、二四〇
四、九〇〇	一二、〇〇〇	八七、六	一八、六二	八七、六〇	一八、六二〇
五、〇〇〇	一二、〇〇〇	八九、四	一九、〇〇	八九、四〇	一九、〇〇〇
五、一〇〇	一二、〇〇〇	九一、二	一九、三八	九一、二〇	一九、三八〇
五、二〇〇	一二、〇〇〇	九三、〇	二〇、七六	九三、〇〇	二〇、七六〇
五、三〇〇	一二、〇〇〇	九四、八	二一、一四	九四、八〇	二一、一四〇
五、四〇〇	一二、〇〇〇	九六、六	二一、五二	九六、六〇	二一、五二〇
五、五〇〇	一二、〇〇〇	九八、四	二一、九〇	九八、四〇	二一、九〇〇
五、六〇〇	一二、〇〇〇	一〇〇、二	二二、二八	一〇〇、二〇	二二、二八〇
五、七〇〇	一二、〇〇〇	一〇二、〇	二二、六六	一〇二、〇〇	二二、六六〇
五、八〇〇	一二、〇〇〇	一〇三、八	二三、〇四	一〇三、八〇	二三、〇四〇
五、九〇〇	一二、〇〇〇	一〇五、六	二三、四二	一〇五、六〇	二三、四二〇
六、〇〇〇	一二、〇〇〇	一〇七、四	二三八、〇〇	一〇七、四〇	二三八、〇〇〇
六、一〇〇	一二、〇〇〇	一〇九、二	二九、一八	一〇九、二〇	二九、一八〇
六、二〇〇	一二、〇〇〇	一一一、〇	二九、五六	一一一、〇〇	二九、五六〇
六、三〇〇	一二、〇〇〇	一一二、八	三〇、〇四	一一二、八〇	三〇、〇四〇
六、四〇〇	一二、〇〇〇	一一四、六	三〇、四二	一一四、六〇	三〇、四二〇
六、五〇〇	一二、〇〇〇	一一六、四	三〇、八〇	一一六、四〇	三〇、八〇〇
六、六〇〇	一二、〇〇〇	一一八、二	三一、一八	一一八、二〇	三一、一八〇
六、七〇〇	一二、〇〇〇	一二〇、〇	三一、五六	一二〇、〇〇	三一、五六〇
六、八〇〇	一二、〇〇〇	一二一、八	三二、〇四	一二一、八〇	三二、〇四〇
六、九〇〇	一二、〇〇〇	一二三、六	三二、四二	一二三、六〇	三二、四二〇
七、〇〇〇	一二、〇〇〇	一二五、四	三二、八〇	一二五、四〇	三二、八〇〇
七、一〇〇	一二、〇〇〇	一二七、二	三三、一八	一二七、二〇	三三、一八〇
七、二〇〇	一二、〇〇〇	一二九、〇	三三、五六	一二九、〇〇	三三、五六〇
七、三〇〇	一二、〇〇〇	一二〇、八	三三、九四	一二〇、八〇	三三、九四〇
七、四〇〇	一二、〇〇〇	一二二、六	三四、三二	一二二、六〇	三四、三二〇
七、五〇〇	一二、〇〇〇	一二四、四	三四、七〇	一二四、四〇	三四、七〇〇
七、六〇〇	一二、〇〇〇	一二六、二	三五、〇八	一二六、二〇	三五、〇八〇
七、七〇〇	一二、〇〇〇	一二八、〇	三五、四六	一二八、〇〇	三五、四六〇
七、八〇〇	一二、〇〇〇	一二九、八	三五、八四	一二九、八〇	三五、八四〇
七、九〇〇	一二、〇〇〇	一三一、六	三六、二二	一三一、六〇	三六、二二〇
八、〇〇〇	一二、〇〇〇	一三三、四	三六、六〇	一三三、四〇	三六、六〇〇
八、一〇〇	一二、〇〇〇	一三五、二	三六、九八	一三五、二〇	三六、九八〇
八、二〇〇	一二、〇〇〇	一三七、〇	三七、三六	一三七、〇〇	三七、三六〇
八、三〇〇	一二、〇〇〇	一三八、八	三七、七四	一三八、八〇	三七、七四〇
八、四〇〇	一二、〇〇〇	一四〇、六	三八、一二	一四〇、六〇	三八、一二〇
八、五〇〇	一二、〇〇〇	一四二、四	三八、五〇	一四二、四〇	三八、五〇〇
八、六〇〇	一二、〇〇〇	一四四、二	三八、八八	一四四、二〇	三八、八八〇
八、七〇〇	一二、〇〇〇	一四六、〇	三九、二六	一四六、〇〇	三九、二六〇
八、八〇〇	一二、〇〇〇	一四七、八	三九、六四	一四七、八〇	三九、六四〇
八、九〇〇	一二、〇〇〇	一四九、六	四〇、〇二	一四九、六〇	四〇、〇二〇
九、〇〇〇	一二、〇〇〇	一五一、四	四〇、四〇	一五一、四〇	四〇、四〇〇
九、一〇〇	一二、〇〇〇	一五三、二	四〇、七八	一五三、二〇	四〇、七八〇
九、二〇〇	一二、〇〇〇	一五五、〇	四一、一六	一五五、〇〇	四一、一六〇
九、三〇〇	一二、〇〇〇	一五六、八	四一、五四	一五六、八〇	四一、五四〇
九、四〇〇	一二、〇〇〇	一五八、六	四一、九二	一五八、六〇	四一、九二〇
九、五〇〇	一二、〇〇〇	一六〇、四	四二、三〇	一六〇、四〇	四二、三〇〇
九、六〇〇	一二、〇〇〇	一六二、二	四二、六八	一六二、二〇	四二、六八〇
九、七〇〇	一二、〇〇〇	一六四、〇	四三、〇六	一六四、〇〇	四三、〇六〇
九、八〇〇	一二、〇〇〇	一六五、八	四三、四四	一六五、八〇	四三、四四〇
九、九〇〇	一二、〇〇〇	一六七、六	四三、八二	一六七、六〇	四三、八二〇
一〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	一六九、四	四四、二〇	一六九、四〇	四四、二〇〇
一〇、一〇〇	一二、〇〇〇	一七一、二	四四、五八	一七一、二〇	四四、五八〇
一〇、二〇〇	一二、〇〇〇	一七三、〇	四四、九六	一七三、〇〇	四四、九六〇
一〇、三〇〇	一二、〇〇〇	一七四、八	四五、三四	一七四、八〇	四五、三四〇
一〇、四〇〇	一二、〇〇〇	一七六、六	四五、七二	一七六、六〇	四五、七二〇
一〇、五〇〇	一二、〇〇〇	一七八、四	四六、一〇	一七八、四〇	四六、一〇〇
一〇、六〇〇	一二、〇〇〇	一八〇、二	四六、四八	一八〇、二〇	四六、四八〇
一〇、七〇〇	一二、〇〇〇	一八二、〇	四六、八六	一八二、〇〇	四六、八六〇
一〇、八〇〇	一二、〇〇〇	一八三、八	四七、二四	一八三、八〇	四七、二四〇
一〇、九〇〇	一二、〇〇〇	一八五、六	四七、六二	一八五、六〇	四七、六二〇
一〇、〇〇〇	一二、〇〇〇	一八七、四	四八、〇〇	一八七、四〇	四八、〇〇〇

第九章 肥料

過磷酸石灰 磷 酸 一、五、〇 %

重	量	加	里	磷	酸
〇、一〇〇	〇、五〇〇	一、五	二、二	一、五〇	二、二〇
〇、二〇〇	一、〇〇〇	三、〇	四、四	三、〇〇	四、四〇
〇、三〇〇	一、五〇〇	四、五	六、六	四、五〇	六、六〇
〇、四〇〇	二、〇〇〇	六、〇	八、八	六、〇〇	八、八〇
〇、五〇〇	二、五〇〇	七、五	一一、〇	七、五〇	一一、〇〇
〇、六〇〇	三、〇〇〇	九、〇	一三、二	九、〇〇	一三、二〇
〇、七〇〇	三、五〇〇	一〇、五	一五、四	一〇、五〇	一五、四〇
〇、八〇〇	四、〇〇〇	一二、〇	一七、六	一二、〇〇	一七、六〇
〇、九〇〇	四、五〇〇	一三、五	一九、八	一三、五〇	一九、八〇
一、〇〇〇	五、〇〇〇	一五、〇	二二、〇	一五、〇〇	二二、〇〇
一、一〇〇	五、五〇〇	一六、五	二四、二	一六、五〇	二四、二〇
一、二〇〇	六、〇〇〇	一八、〇	二六、四	一八、〇〇	二六、四〇
一、三〇〇	六、五〇〇	一九、五	二八、六	一九、五〇	二八、六〇
一、四〇〇	七、〇〇〇	二一、〇	三〇、八	二一、〇〇	三〇、八〇
一、五〇〇	七、五〇〇	二二、五	三三、〇	二二、五〇	三三、〇〇
一、六〇〇	八、〇〇〇	二四、〇	三五、二	二四、〇〇	三五、二〇
一、七〇〇	八、五〇〇	二五、五	三七、四	二五、五〇	三七、四〇
一、八〇〇	九、〇〇〇	二七、〇	三九、六	二七、〇〇	三九、六〇
一、九〇〇	九、五〇〇	二八、五	四一、八	二八、五〇	四一、八〇
二、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三〇、〇	四四、〇	三〇、〇〇	四四、〇〇
二、一〇〇	一〇、五〇〇	三一、五	四六、二	三一、五〇	四六、二〇
二、二〇〇	一〇、五〇〇	三三、〇	四八、四	三三、〇〇	四八、四〇
二、三〇〇	一一、〇〇〇	三四、五	五〇、六	三四、五〇	五〇、六〇
二、四〇〇	一一、〇〇〇	三六、〇	五二、八	三六、〇〇	五二、八〇
二、五〇〇	一一、〇〇〇	三七、五	五五、〇	三七、五〇	五五、〇〇
二、六〇〇	一一、〇〇〇	三九、〇	五七、二	三九、〇〇	五七、二〇
二、七〇〇	一二、〇〇〇	四〇、五	五九、四	四〇、五〇	五九、四〇
二、八〇〇	一二、〇〇〇	四二、〇	六一、六	四二、〇〇	六一、六〇
二、九〇〇	一二、〇〇〇	四三、五	六三、八	四三、五〇	六三、八〇
三、〇〇〇	一二、〇〇〇	四五、〇	六六、〇	四五、〇〇	六六、〇〇
三、一〇〇	一二、〇〇〇	四六、五	六八、二	四六、五〇	六八、二〇
三、二〇〇	一二、〇〇〇	四八、〇	七〇、四	四八、〇〇	七〇、四〇
三、三〇〇	一二、〇〇〇	四九、五	七二、六	四九、五〇	七二、六〇
三、四〇〇	一二、〇〇〇	五一、〇	七四、八	五一、〇〇	七四、八〇
三、五〇〇	一二、〇〇〇	五二、五	七七、〇	五二、五〇	七七、〇〇
三、六〇〇	一二、〇〇〇	五四、〇	七九、二	五四、〇〇	七九、二〇
三、七〇〇					

梨樹に施肥すべき期節及回数に就きては各地區々にして一定せず今暫く著名

第九章 肥料

五〇、〇〇〇	四五、〇〇〇	四〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	三〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	九、〇〇〇	八、〇〇〇	七、〇〇〇	六、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	〇、五〇〇	〇、一〇〇
二二五、〇〇〇	二〇二、五〇〇	一八〇、〇〇〇	一五七、五〇〇	一三五、〇〇〇	一一二、五〇〇	九〇、〇〇〇	六七、五〇〇	四五、〇〇〇	四〇、五〇〇	三六、〇〇〇	三一、五〇〇	二七、〇〇〇	二二、五〇〇	一八、〇〇〇	一三五、〇〇〇	九〇、〇〇〇	四五、〇〇〇	二二、五〇〇	四、五〇〇
一〇五、〇〇〇	九四五、〇〇〇	八四〇、〇〇〇	七三五、〇〇〇	六三〇、〇〇〇	五二五、〇〇〇	四二〇、〇〇〇	三一五、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	一八九、〇〇〇	一六八、〇〇〇	一四七、〇〇〇	一二六、〇〇〇	一〇五、〇〇〇	八四、〇〇〇	六三、〇〇〇	四二、〇〇〇	二一、〇〇〇	一〇、五〇〇	二、一〇〇

第九章 肥料

重	五〇、〇〇〇	四五、〇〇〇	四〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	三〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	九、〇〇〇	八、〇〇〇	七、〇〇〇	六、〇〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇
加	五八五、〇〇〇	五二六、五〇〇	四六八、〇〇〇	四〇九、五〇〇	三五〇、〇〇〇	二九二、五〇〇	二三四、〇〇〇	一七五、五〇〇	一一七、〇〇〇	一〇五、三〇〇	九三、六〇〇	八一、九〇〇	七〇、二〇〇	五八、五〇〇	四六、八〇〇	三五、一〇〇	二三、四〇〇	一一、七〇〇
里	一九五、〇〇〇	一七五、五〇〇	一五六、〇〇〇	一三六、五〇〇	一一七、〇〇〇	九七、六〇〇	七八、〇〇〇	五八、五〇〇	三九、〇〇〇	三五、一〇〇	三二、一〇〇	二七、三〇〇	二三、四〇〇	一九、五〇〇	一五、六〇〇	一一、七〇〇	七八、〇〇〇	三九、〇〇〇
磷																		
酸																		

藥 灰

加里四、五%  
磷酸二、一%

産地によりて見んか即ち左の如し。

神奈川縣川崎地方

回数 施肥期

一 十一月

二 一月

三 三月(將に發芽せんとする時)

四 四月(花蕾を生ずる時)

千葉縣八幡地方

一 十月(落葉後)

二 十二月より一月の候

三 五月より六月の候

新潟縣

一 三月(芽肥) 二 四月(花肥)

三 五月(葉肥) 四 六月(玉肥)

五 七月(味肥) 六 八月(艶肥)  
七 九月(振肥) 八 十月(勿肥)  
九 十一月(褒美肥) 一〇 十二月(根肥)

奈良縣

京都府

一 九月 一 九月

二 二月 二 十二月より一月の候

三 五月 三 四月より五月の候

如斯く施肥の期節及回数に差等あるは地方的關係上多少止むを得ざるところなるも、其期節にして誤りたらんには單に肥料の不經濟となるのみならず、時には有害作用を來す恐れなきにあらざるを以て、宜しく注意するところなかるべからず。然して吾人が常に以て理想とするところは、三回に分施する所謂三期施用即ち是なり。以下少しく三期施用の有利なる所以を述べん。

第一期 春季發芽前若しくは俗に寒肥として寒中に施用するものなり。勿論寒肥は果樹の休眠中に施すものなるが故に、動もすれば之れが是非を云々する

ものありと雖ども、此の期節は本邦の氣候關係上、一般に寒冷乾燥にして且つ降雨甚だ少なきを以て、肥料の分解は遅々緩々漸時土壤に吸收保蓄せられ、已に梨樹の發育生長せんとするや土壤は適當に之を調理供給するを得るの利あり。然りと雖ども此際施用すべき肥料は必ずや、堆肥の如き厩肥の如き遅効性の肥料たるを要す。何となれば可溶性速効肥料は敢て急ぎて寒中に施用せざるとも、將に發芽せんとする時に於て充分事足れりと云ふべく、況んや少量の降雨に遭遇するも容易に溶解流失するの危険あるに於てや。殊に寒肥の如き農家閑散の期を利用するが故に、其の利益するところ一層多大なりと云ふべし。之を要するに第一期に施肥する所以のものは、其寒中にあると春季にあるとを問はず、芽の生長發育をして健全ならしむるにありと知るべきなり。

**第二期** 梨果の結實作用を終り母指大に生長したる頃施すべきものにして、其の目的は言ふ迄もなく果實の完全なる生長を期し、豊大美麗にして然かも品質優良なるものを收めんとするにあるを以て、可成的磷酸及加里に富みたる速効性の肥料を用ふべきなり。然りと雖ども此の期に於ける施肥量多きに失せん

か、茲に樹勢の旺盛を來し、枝梢の生長其度に過ぎ、圖らざる落果病を誘致するが如き事實は往々之れあるを以て、能く樹の勢力如何を精査して其適量を誤らざらん事を要す。

**第三期** 此期に於ける施肥は收穫後樹勢の衰弱を回復し、依つて以て翌年の多産を期するの目的にあり。故に肥料は成る可く速効乃至は中効性のものを選び、事情の許す限り速かに之を行ひ、果樹をして一日たりとも永く養分を吸収せしめ、一時たりとも速に樹勢の回復を圖らざる可からず。實に一日延引すれば一日の損ありと知るべきなり。

斯くして施肥の方法にありては、期節及肥料の種類等によりて多少の斟酌を要すべきは無論なりと雖も、要するに初年にありては本幹を去る一尺五寸、二年目には二尺、三年目には二尺五寸乃至三尺と、順次樹枝發展の度に應じて適當の距離に深さ四五寸なる圓形の細溝を堀り廻はし、茲に豫定の肥料を施用して之を埋め、貴重なる肥養分の氣化して空中に飛散するを防ぐべし。彼の下肥の如き肥料を根際一面に散布し、敢て顧みざるが如きは、不條理的、不經濟的方法と云



はざる可からず。凡て獨り梨樹のみならず、一般に果樹の肥料は其の養分の吸収を營む細根に到達するの程度に於て、成る可く淺く施肥するを要す。其理如何となれば施肥することの深さに従ひ、根は益々深く、土中に浸入蔓延し、爲めに枝梢は過度の生長を遂げ、果ては結果の作用を妨げ、可惜施肥の目的に背反するの憂あるを以てなり。

## 第十章 耕耘及除草

### 第一 耕耘

從來梨樹園の耕耘は餘り重要視せられざりしも、施せし肥料の効果をして完からしめ、優良なる美果の多産を期するには、是非適當なる方法の下に耕耘するを要す。彼の果樹界の泰斗トーマス氏曰く、例令同一品種と雖ども尙生産せる果物に良否を生ずる第一の源因は、乃ち耕耘の適否にありと。耕耘の事亦輕視すべ

からざるなり。

抑、耕耘を行ふの目的は土壤を膨軟ならしめて、氣水の流通を圖り、溫熱の透過を調節して土壤の状態を良好ならしむるにあり。而して之れが方法の大要を述べれば、先づ春秋の二回に鋤を以つて一尺五寸位に深耕し、土塊を丁寧に粉碎して、充分日光及空氣に曝露し、雜草の根株は之を園外に除去すべきなり。其他の時期と云へども、除草を兼ねて屢々淺耕するも宜しとす。左に耕耘の利益を示さば次の如し。

- 一、植物根の蔓延を助くること。
- 二、土中に養分を増加すること。
- 三、適宜の濕氣を保ち、早魃を防ぐこと。
- 四、雜草の發生を防ぐこと。
- 五、土中に潜伏せる害虫を撲滅すること。

### 第二 除草

梨樹園に雑草を繁茂せしむるは只に果園の清潔を害するのみならず、雑草も植物なる以上は矢張土中より肥料養分を奪ひ、表土を覆ひて陽光の透過を妨げ、遂に梨樹の生育結果を損ふに至るものなれば、雑草の蔓延は絶對的に良法と稱すべからざると共に、雑草の繁茂を棄て、顧みざる栽培家は充分なる收穫を得る能はざるものなり。故に吾人梨樹栽培家はなるべく未發に除草を行ふべく、然らずんば雑草の發生を見るや直ちに行ふべし、若し、夫れ此機をも逸して梨樹園に雑草を繁茂せしむるに至りては、怠惰なる果樹栽培家と稱すべきなり。従つて雑草の回數の如きは問はざるも明かなれど、少くとも、年四五回は行ふを要す。因に記す、北米に於ける果樹栽培家の熱心なるものは二週間毎に耕耘及除草を行ふと云ふ。

## 第十一章 性態

### 第一 不實枝

抑々梨の不實枝とは何ぞや。これ畢竟結果枝に對する相對的の語にして、結實せざる枝の總稱に外ならざるなり。従つて發育枝と稱するも妨げず、今之等の不實枝を分類して主枝、副枝、徒長枝、及び針枝の四種となすべし。主枝は親枝とも云ひ、恰も動物の骨髓に比すべき肝要なるものなれば、宜しく懇篤なる注意と周到なる手入とを以つて、これが健全を圖らざるべからざるは自明の理なり。

元來此主枝たるや自然の場合にありては、概ね頂芽の伸長によりて毎年同一の方向に進み、同年内に生長せし他枝に比し遙かに強大なるを常とするも、若し剪定の結果頂芽を剪除したる場合なるか、又は病蟲及寒害のため不幸にも先端枯死して生長力を失ひたる場合には、通常枝上最高の腋芽は頂芽に代つて伸長し、茲に再び主枝を形成するに至るなり。然りと雖も此場合には既に同一の方向

を採る能はざるなり。冬季剪定の際屢々中央主枝及副主枝なる名稱を用ふる  
ことあり、即ち前者は樹株の中央に位置をしむるものにして後者は之より更に  
分岐したるものなりとす。

梨樹は其習性として桃李等の如く新枝の上に同年更に新枝を生ずること少な  
し斯くの如く、新枝の上に同年更に生ずる新枝を名づけて副枝又は二番枝とは  
云ふなり。本邦種の多くはこれ等副枝を生ずること少なきも、洋種殊にオノン  
ダカ・ピ、パトリ・スーゼット、デパーペー等は非常に多き特性を有す。

徒長枝は通例樹枝上の隠芽及不定芽の或事情の爲めに突如として發生し、其發  
育や頗る強大、其伸長や頗る迅速なるが故に常に樹勢の均衡を紊亂して有望な  
る結果枝も、可惜毀損せられて結實に一大打撃を與ふるものなれば宜しく此種  
枝條の發生を防がざるべからず。而して過酷なる剪定多量なる施肥及豊沃な  
る枝質等は、自然之等徒長枝の發生を誘致するものなるが故に、吾人は此點に向  
つて多大の注意を拂はざるべからず。

近來徒長枝を論ずるもの、往々説をなして曰く、元來果樹は其自然性より考ふれ

ば、徒らに生長する所謂徒長枝なるものあるべき理由なし、凡て果樹の枝條を  
發生せしむるや則ち必要あつて然るなり、然るに之れを偶發と云ひ、徒長枝と呼  
び、其甚だしきに至りては樹液の浪費者なりと誤り、濫りに之を剪截除去するは  
未だ吾人が果樹其者の精神を如得せざるがためにして、決して進歩的の方策と  
云ふを得ず云々と。然り吾人も一理ある説として是認すると雖も、只實地と相  
去る甚だ遠きを憾む。知らずや徒長枝は概ね其發現の位置不規則にして、常に  
吾人の欲せざるところに生ず。例へば盃狀整枝にありては主として内部に發  
生し、棚作りにありては棚の中央直上に現はるゝを以つて、勢ひ剪除せざるを得  
ざるなり。况んや其四圍に存する果枝たり、花芽たらんとするものもこれが爲  
めに其發達を制せられて、結果の圓滿を期すること能はざるに於てあや。  
次に針枝は營養不十分なるが爲め、不實枝の萎縮して頂芽の針狀を呈したるに  
よるものにして、野生の種類及實生に特有のものなりと雖ども、栽培品種中にも  
其樹の特性として往々之を有するものあり。仍エデルクラザンネ・オリヴィエ  
ドセセル等は針枝多き有名の種類なり。

第二 結果枝

今秋季落葉後の梨樹を捕へ、精細なる注意を以つて樹枝を検せんに、本年生の枝上に完全なる花芽果芽を見ると至つて稀なるに、反して次第に古き樹枝に逆るに従ひ益々花芽及結果枝の多數なるを認むるを得。如斯梨の花芽は桃の如き果樹とは全く其趣きを異にし、新梢の生長と共に同年内に伸びて果枝となり、又花芽を付くると殆んど少し且つ桃にありては枝上腋芽は常に花芽にして頂芽は一般に葉芽なりと雖ども、梨にありては然らず即ち花芽たるものは頂芽若しくは之に代るべき腋芽にして、概ね二ヶ年の星霜を経たるものなり。要するに梨樹は本年生即ち大正元年に伸長したる枝上腋芽の翌二年目に至り樹の生機動くと共に僅かに生長して、其先端に始めて花芽を作りて結果枝となり大正三年の春風に誘はれて開花し、結實するを常態となす。然しながらこれが例外としては桃と同じく本年生の枝上腋芽は僅かに伸びて短枝となり、茲に同化養料の供給豊富なるを得て、花芽を着生し翌年立派に結實することあり、其他花芽

にして氣温の變化養分供給の變調等の原因より往々葉芽に化する等異例も亦少なからず。總て果芽の生成たるや、果樹發育作用の適宜に衰へたる場合なりとは、今や一般識者の定論にして吾人の屢々目撃するところの現象なり。然らば發育作用を衰弱せしむべき程度は如何と問はば、蓋し何人も答ふるところを知らざるべし。畢竟果樹栽培の祕術亦此内に藏せらるゝならんか。既に如斯なるを以つて果樹發育器管の發展を適度に阻害するは、其の作用の自然的なると人為的なるに論なく、常に花芽及結果枝の生成を促すものならざるべからず。然り彼の土地余りに肥沃なるか、又は肥培の不當なるが爲め繁茂生長其度に過ぎ、結果不如意なる場合に當り、或は土地改良を行ひ、或は剪枝剪根を施し、或は又植へ換えを試むる等、是れ皆果樹の過度なる發育を抑制するの方法にして、能く這般の消息を窺ひたるものと云ふべし。然れども抑制其度に過ぐるべしとあらんか、徒らに花芽の生成を減ずるのみならず果樹の生理を損ひ、却つて病的たらしめ、勞するも効なきに終るものなれば、宜しく綿密なる思想と注

意とを用ゐる寛嚴其度に過ぐることなきを要す。世人の果樹栽培を難づるは一に茲にありて存す。

結果枝は外界の作用養分の如何によりて自ら其生長上長短あり細太あるは免るべからず、而して吾人は之等の結果枝に便宜上數種の名稱を附せり。即ち一寸内外なる最も短きものを最短果枝と稱し、之に次ぎて二三寸に生長したるものを短果枝と言ひ、五寸乃至一尺以上に伸び勢力強盛なるものを長果枝と稱す。梨樹栽培上吾人の欲する果枝は勢力緩慢なる短果枝、若しくは最短果枝にして、一尺に近き長果枝の如きも亦輕視すべきにあらずと雖も、梨樹の果枝として良好なるものと云ふべからず。殊に整枝果樹の如き場合にありては樹姿を亂すに至るものなれば、最非冬季剪定の際剪除するの止むなきに至るものなり。桃樹の如き核果樹は果枝の尖端に於ける頂芽は即ち葉芽にして、花芽は腋芽なるを以て開花結實後と雖も、尙同一の方向に生長することを得べきも、梨の如き仁果類果樹の結果枝は常に其頂芽の花芽となるを以て、一旦開花結實するや最早同一の方向を採りて伸長すること能はず、必ずやこれに最も近き腋芽の異なる

りたる方向に伸長するものなり。此腋芽の伸長は頗る微々たるものにして短かきは二三分、長きは一二寸の最短果枝を形成するものにして、其數は一個乃至三個にして大概二個を以て普通となす。斯くて年一年と其數を加へ、遂に短果枝群を形成するに至る。我國栽培家の多くは此短果枝を蓋芽と呼び、非常に貴べり、是れ蓋し此果枝は最も確實なるものにして、彼の蓋の塊根に類似するより、かくは名付けたるものの如し。

梨の結果枝には以上の外向中間果枝と稱するものあり、こは中間芽を附着するものにして、中間芽は葉芽と花芽との中間に位し、普通果芽たるべきの行程にあるものなり。元來中間芽は本年生枝梢に於ける葉芽の翌春に至り、僅かに生長して茲に果枝を作り、其頂芽は當然花芽たらざるべからざるも、同化養料の不足より遂に花芽たるを得ず、中間芽として停止するに至りたるものにして、結局栽培法の不當に歸せずんばあるべからず。茲に於てか適當なる剪定肥培の法起ると雖も、中間芽を化して花芽たらしむる程度は實に至難の業と云はざるべからず。

而して中間芽の形成せらるゝや翌春に及べば殆んど花芽と時を同ふして開葉するものなり。然しながら其生長は頗る微々たるものにして専ら同化養料を貯へ、秋冬の候に至りて純然たる花芽となるを順當なりとするも、亦外界の諸作用養分の關係上花芽とならざることもあり。或は全く生長して見込を失ふに至ることも往々珍らしからざるなり。

之を要するに中間果枝は常態にありては、概ね四年目に結果するものにして通常果枝に比すれば一ヶ年後るゝものと知るべきなり。

### 第十二章 花と受胎作用

梨の花は一個の花芽より少くとも六七個叢生開花するものにして、敢て櫻花の如く艶麗なるにあらず。亦梅花の如く芳香あるにあらざるも、梨花の深きとこ

第一表

品 種 名	花 冠		花 瓣		花 盤	
	重	色	形	態	深	色
江 戸 屋 單 白	一、一	白	圓	深	淺	淺
長 十 郎 全 全	一、〇	白	扁圓少シク縮ム	中	中	濃
明 月 全 全	一、三	白	同	淺	濃	黃

第十二章 花と受胎作用

一三三

ろ樹を壓して宛然白雪を見るが如く實に美的なるものなり。吾人にかゝる妙趣を與ふる花の顯著なる部分は、之れ即ち花冠にして、開花と云ひ、又落花と言ふも畢竟此部分の開落に外ならざるなり。花冠は通常五瓣(重瓣のもの少なからず)より成り、雌蕊及び萼片と其數相同じ花部の中央に於ける淺黄色の小盤状物は所謂密盤と稱するものにして、二十本の雄蕊(二十本以上のものあり)は密盤を繞らして四層に並列するも、之れが成熟は自己の雌蕊に比して概ね二三日晩るものもの如し、即ち梨は雌蕊先熟花たるなり。之れ吾人栽培家の大に注目すべき處なりとす。梨花の構造に就きては大要上述の如しと雖も、尙品種の異なるに從ひ、多少各部の形態に差あるを見る。乞ふ余が研究に就きて之れが一般を窺はん興津に於て調査)

品 種 名	本 雄		本 雌		備 考	花 長	毛ノ有無
	數	長	數	長			
江長明赤耕早獨衣奧眞太伯	二	二	二	二		一	全
戸郎月穂渡郎乙姫六中平龍	二	二	二	二	直 捻 立 曲 ス ス	〇、七 〇、八 〇、九	全
帝	二	二	二	二		〇、九	全
通	二	二	二	二		〇、八	全
長	二	二	二	二		〇、九	全
十	二	二	二	二		〇、八	全
十	二	二	二	二		〇、九	全
戸	二	二	二	二		〇、九	全
屋	二	二	二	二		〇、九	全

第十二章 花と受胎作用

一三五

第二表

キ	ル	ド	ル	バ
フ	コ	ダ	イ	ス
ア	ン	レ	ホ	ク
テ	シ	イ	シ	ラ
	ン	ン	ン	サ
	ン	ン	ン	ン
單	全	單	全	單
重	全	全	全	重
白	全	全	全	全
淡	全	全	全	全
黄	全	全	全	全
帯	全	全	全	全
ア	全	全	全	全
〇、九	〇、九	〇、九	〇、九	〇、九
四、四	四、四	三、〇	五、〇	五、〇
五、〇	四、五	四、〇	五、〇	五、五
稍	長	圓	圓	圓
方	方	形	形	形
形	形	形	形	形
淺	淺	深	深	深
淡	黄	淡	淡	淡
黄	黄	黄	黄	黄

ボ	ラ	關	今	旭	大	太	世	晚	重	幸	大	早	伯	太	眞	奧	衣	獨	早	耕	赤
ラ	フ	西	村	古	河	白	一	吉	郎	藏	丸	赤	龍	平	中	六	乙	郎	渡	穂	生
デ	レ	一	夏	龍	河	白	一	吉	郎	藏	丸	赤	龍	平	中	六	乙	郎	渡	穂	生
ビ	ニ	夏	龍	河	白	一	吉	郎	藏	丸	赤	龍	平	中	六	乙	郎	渡	穂	生	穂
ソ	ン	一	夏	龍	河	白	一	吉	郎	藏	丸	赤	龍	平	中	六	乙	郎	渡	穂	生
ン	ス	一	夏	龍	河	白	一	吉	郎	藏	丸	赤	龍	平	中	六	乙	郎	渡	穂	生
單	全	全	單	單	單	重	全	單	單	重	單	單	單	單	全	全	單	全	全	全	全
全	全	白	白	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
〇、七	〇、九	〇、九	一、〇	一、五	〇、七	〇、九	〇、九	一、〇	一、一	一、一	一、一	一、一	〇、九	一、一	一、一	一、三	一、二	一、二	〇、九	一、一	一、一
四、〇	二、五	四、〇	四、五	五、〇	五、〇	四、五	三、五	四、〇	四、〇	五、〇	四、五	四、五	四、五	三、五	四、五	四、五	四、五	五、〇	五、〇	五、〇	五、〇
五、〇	三、四	五、〇	五、〇	七、〇	五、五	四、〇	〇、八	五、〇	六、〇	五、〇	六、五	五、五	六、五	五、八	三、五	五、五	六、五	四、〇	六、〇	五、〇	五、五
瓣	稍	稍	稍	扁	稍	圓	短	稍	不	長	長	長	扁	稍	稍	稍	扁	稍	扁	稍	扁
緣	外	方	圓	圓	圓	圓	圓	圓	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多
外	方	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多
方	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多	多
淺	淺	淺	中	淺	深	極	淺	深	淺	中	中	中	極	淺	中	深	中	中	淺	淺	深
淡	淡	黄	黄	濃	淡	淡	淡	淡	淡	淡	淡	淡	淡	淡	淡	淡	淡	淡	淡	淡	淡
鼠																					
色	黄		楊	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄	黄

第十二章 花と受胎作用

一三四

品 種 名	催 蕾	開 花 始	満 開	落 花
キ 江 戸 乙 屋	三、一、五	四、三、日	四、二、七	四、一、〇
大 幸 丸	二、〇	三、五	一、二、〇	四、一、六
重 幸 次 郎	二、一	二、五	一、〇、三	四、一、七
晚 三 次 郎	二、〇	二、八	一、〇、一	四、一、七
世 界 一 吉	三、一	二、五	一、〇、三	四、一、七
大 古 河	二、〇	二、五	〇、七	四、一、七
大 旭 龍	二、〇	二、五	〇、五	四、一、七
今 西 村	二、〇	二、五	〇、五	四、一、七
關 西	二、〇	二、五	〇、五	四、一、七
ラ フ	二、〇	二、五	〇、五	四、一、七
ホ ー レ ー ジ ュ ビ ー ツ ン	二、〇	二、五	〇、五	四、一、七
パ ッ ス ク ラ ッ ツ サ ン	二、〇	二、五	〇、五	四、一、七
ル イ ボ ー ン、デ ジ エ ル シ ー	二、〇	二、五	〇、五	四、一、七
ド ウ イ ヤ ン ヌ ダ レ ン シ ョ ン	二、〇	二、五	〇、五	四、一、七
キ ー コ ン	二、〇	二、五	〇、五	四、一、七
キ ー フ ァ ン	二、〇	二、五	〇、五	四、一、七
キ ー テ	二、〇	二、五	〇、五	四、一、七
今 村	三、二、七	四、四、日	四、一、一	四、一、四
明 月	三、二、七	四、四、日	四、一、一	四、一、四
長 郎	三、二、七	四、四、日	四、一、一	四、一、四
平 子	三、二、七	四、四、日	四、一、一	四、一、四
赤 龍	三、二、七	四、四、日	四、一、一	四、一、四
晚 六	三、二、七	四、四、日	四、一、一	四、一、四
今 秋	三、二、七	四、四、日	四、一、一	四、一、四
重 次 郎	三、二、七	四、四、日	四、一、一	四、一、四
全	三、二、七	四、四、日	四、一、一	四、一、四

第十二章 花と受胎作用

一三七

(興津に於て調査)

を見るものなり。今品種と開花期との関係を示して参考に資すべし。

品 種 名	催 蕾	開 花 始	満 開	落 花
キ ー テ	二、〇	三、五	〇、九	有
キ ー フ ァ ン	二、〇	三、五	〇、六	有
キ ー コ ン	二、〇	三、五	一、二	全
ド ウ イ ヤ ン ヌ ダ レ ン シ ョ ン	二、〇	三、五	一、〇	多
ル イ ボ ー ン、デ ジ エ ル シ ー	二、〇	三、五	一、〇	有
パ ッ ス ク ラ ッ ツ サ ン	二、〇	三、五	一、〇	多
ホ ー レ ー ジ ュ ビ ー ツ ン	二、〇	三、五	〇、三	有
ラ フ	二、〇	三、五	〇、五	有
關 西	二、〇	三、五	〇、五	有
今 西 村	二、〇	三、五	〇、五	有
大 旭 龍	二、〇	三、五	〇、七	有
大 古 河	二、〇	三、五	〇、七	有
世 界 一 吉	三、一	二、五	〇、九	全
大 幸 次 郎	二、〇	二、八	一、〇、一	無
重 幸 次 郎	二、一	二、五	一、〇、一	無
晚 三 次 郎	二、〇	二、五	一、〇、一	無
大 古 河	二、〇	二、五	一、〇、一	無
大 旭 龍	二、〇	二、五	一、〇、一	無
今 西 村	二、〇	二、五	一、〇、一	無
關 西	二、〇	二、五	一、〇、一	無
ラ フ	二、〇	二、五	一、〇、一	無
ホ ー レ ー ジ ュ ビ ー ツ ン	二、〇	二、五	一、〇、一	無
パ ッ ス ク ラ ッ ツ サ ン	二、〇	二、五	一、〇、一	無
ル イ ボ ー ン、デ ジ エ ル シ ー	二、〇	二、五	一、〇、一	無
ド ウ イ ヤ ン ヌ ダ レ ン シ ョ ン	二、〇	二、五	一、〇、一	無
キ ー コ ン	二、〇	二、五	一、〇、一	無
キ ー フ ァ ン	二、〇	二、五	一、〇、一	無
キ ー テ	二、〇	二、五	一、〇、一	無
今 村	三、二、七	四、四、日	四、一、一	全
明 月	三、二、七	四、四、日	四、一、一	全
長 郎	三、二、七	四、四、日	四、一、一	全
平 子	三、二、七	四、四、日	四、一、一	全
赤 龍	三、二、七	四、四、日	四、一、一	全
晚 六	三、二、七	四、四、日	四、一、一	全
今 秋	三、二、七	四、四、日	四、一、一	全
重 次 郎	三、二、七	四、四、日	四、一、一	全
全	三、二、七	四、四、日	四、一、一	全

第十二章 花と受胎作用

一三六

梨の開花期は概ね四月上中旬頃なりと雖も、尙年内に於ける気温の関係により、地方によりて同じからず。又同一地方と雖も品種によりて、甚だしき相違ある





二、自家授粉によりて結實し得る種類

ボーレイボスク。

バツフハム。

フレミッシュユ、ピユーチー。

ボーレイデイール。

ドワイヤヌ、ダレンシヨン。

セツケル。

ルコンテ。

ホワイトドワイヤヌ。

ボーレイ、デイール。

マンニング、エリザベス。

ヒースコット、ブロックウヲリス。

三、自家授粉により又他花授粉によりて結果し得る種類

パートルェット。

キルフアー。

デュッセス、ダングレーム。

ボーレイ、ダンジョー。

かくて今自家の花粉によりて結實したる果實と、他花の花粉を受けて成りたる果實とを比較研究せんに、前者即ち自家授粉のものは常に果の發育不充分にして中途落果するもの多く、假へ之れなしとするも小果劣品たるを免れず。又種子の發達甚だ不完全にして殆んど無核の觀を呈す。然るに后者は事態全く之れに反し、果實の發育種子の發達完全完全せるものは種子十個ありにして、品種固有の形質を發揮するものなり。茲に於てか梨は其種類の何たるを問はず、他花授粉に依るを最も安全の策と稱するを得べく、やがて單植栽培の不利にして混植栽培の必要ある所以なり。而して吾人が花粉の供給者として適當なる種類を撰擇する上に於て常に考慮を要すべき二點あり、曰く開花期同一なる事、曰く相互に和合力を有すること、即ち之れなり。是れ花粉の供給者たるものは自家不結實の種類に向つて自己の花粉を供給するの責任あるものなれば同時に開花し同時に成熟するにあらざれば到底當初の目的を達す可らざるは自明の理にして、敢て多く説明するの必要なるべし。又第二に於ける相互の和合力とは即ち授粉者の花粉は容易に自家不結實の雌蕊を受胎せしめ、然かも優良な

る果實を生産するや否やを意味するものにして、本邦にありては未だ之等に關する研究分明ならざるが爲めに、將來の問題として甚だ興味多きことなりとす。左に掲ぐる事例は米國に於ける幾多の梨樹園にありて成績佳良なる然かも能く相互に和合すべき適種なり。

一、パトリレットに對する適當なる授粉者

ウインタートネリス

フレミッシュビユーチー

イースター、ポイレ

ホワイト、ドワイヤンヌ

一、キーフアに對する適當なる授粉者

ルコンテ

ガーパー

第十三章 剪定

梨樹に剪定を行ふ所以のものは、吾人の欲せざる有害無益なる枝梢を剪除すると同時に、有益なる枝梢の發達を保護して完全なる花芽及び果枝を生成せしむるにありと雖も、剪定の目的たる單に之れのみを以つて甘んずべきものにあらず。宜しく樹勢の均一樹姿の整正に注意して果園に美觀を添へ、日光の透射空氣の流通を圖りて品質優良なる果實の多産を豫期せざるべからず。若し夫れ梨樹の生育をして自然に一任せんか、言はゞ茲に一種の生存競争を生じ弱枝は益々弱く強枝は愈々強く、遂には樹姿を亂して果園の美觀を損ひ、繁茂其度に過ぎて風光の透過を妨ぐるの結果は自然病蟲の誘引繁殖を助け、到底果樹栽培の最大目的たる多産多收は得て望むべからざるなり。實にや剪定は梨樹栽培上重要にして然かも缺くべからざる作業なり。然れども是が方法の巧拙如何は直接間接に果樹の生理に多大の關係を及ぼし、折角の剪定も寧ろ行はざるに若かざること往々吾人の實見するところなるを以て當業者たるものは

須く剪定の技術に熟達するを要す。  
前に述べたるが如く剪定を施行する目的の一つは樹姿の整正、即ち整枝にあるを以て剪定及整枝は共に密接なる關係を有し、兩者全く相分離して論ずべからずと雖も、整枝の方法及順序は之を後章に譲り、茲には只剪定法の一般を説かん。梨樹に行ふべき剪定の方法は頗る多岐に亘り、一二法の能く盡すところにあらざるや無論なり。されど今余は自己の實驗に基き、其主なる方法を左表に掲げ、而して順次之を説明すべく、尙整枝上特別に施すべき剪定及び注意は後章に記述するを以て就いて見らるべし。

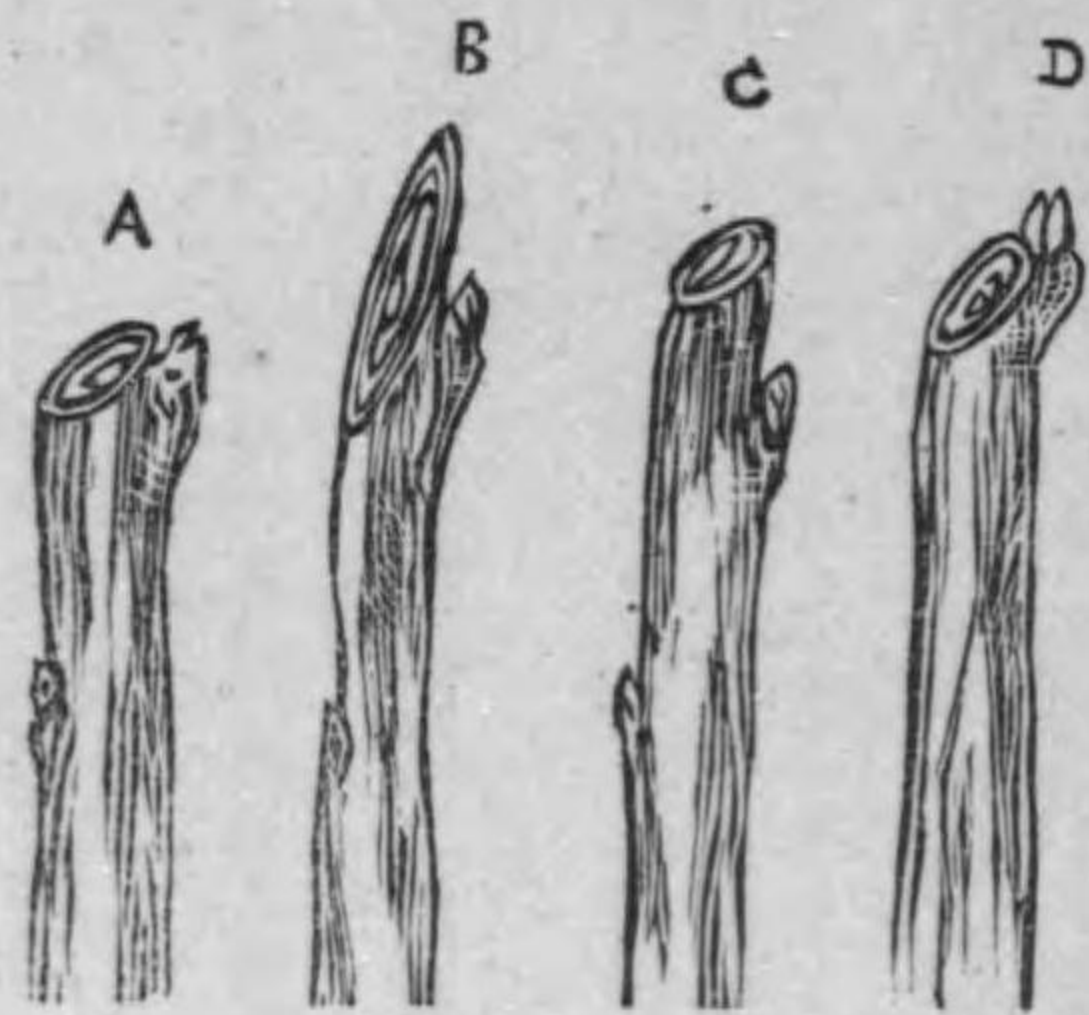
### 剪定法

根部剪定	冬季剪定	主枝剪定 側枝剪定 果枝剪定
	夏季剪定	摘斷法 折傷法 綠枝剪定

## 第一 冬季剪定法

冬季剪定は秋冬の候より翌春發芽前に亘り、所謂果樹の休眠期を利用して行ふべきものなれども、其適期に至りては各地自ら多少の差あるも、要するに東北乃至は北越の如き寒氣凜烈なる地方にては、切斷面の寒傷を蒙る憂あるを以て、寧ろ春季發芽前を可とし、既に溫暖なる東海以南にありては秋季落葉後直ちに剪定するも宜しとす。

第三十圖



にして四十五度の角度たらしむるを要す。若し否らずしてBに於けるが如く芽を遠く離れて剪定せんか、殘除の枝梢は漸次腐敗して其害遂に芽に及ぶのみ

ならず、甚だ見悪しき状態に陥り、又C、Dの場合にありては所要の芽を乾枯せしむることあるが故に、必ずやAの如く剪定すべきなり。又用ふべき剪定刀及鋏は頗る鋭利なるものを要す。蓋し剪定用具の鋭利を貴ぶ所以は其切断面をして平滑ならしむるのみならず、作業極めて容易にして誤つて他の部分に損傷を與ふるの憂誠に少なきの利あるに歸せずんばあるべからず。

一、主枝剪定 元來主枝を剪定する目的の要は、各主枝の生長をして平等ならしめんが爲めに外ならず。而して主枝剪定の長短は樹勢の強弱に應じて行ふべきものなれば、一概に之れが適度を示し能はざるも、普通直立主枝は全長の二分の一(例へばカンデラ・ブール若しくはコルドン・ヴァーイ・チカルの場合)斜立主枝は三分の二(例へばコルドン・オブ・リキユイの場合)水平主枝は四分の三(例へばコルドン・ホリゾンタル又はバルメット・ホリゾンタルの場合)位の割合を標準として剪定すべきなり。されどこは各主枝と幹との生長相平均したる場合に限り實行すべきことを記憶するを要す。

由來果樹の生長は果して吾人の理想に従ふものにあらず、即ち同一樹株と雖も、

甲枝は生長頗る旺盛を極め、乙枝は生長至つて緩慢なるが如き寧ろ其常態なるが如し。かゝる場合に當り甲乙の兩枝は果して幾何の長さをして以て剪定すべきか、是れ頗る難問とするところに於て宜しく其地に於ける風土の關係及種類の特性等を具さに研究したる後にあらざれば所詮決定し能はざるなり。

獨り梨樹のみならず、果樹一般の通性として主枝の剪定長きに過ぎんか、先端の二三芽は發芽生長すべきもそれより下方の芽は漸次發芽力を減ずるが爲め、所要の部分に所要の枝梢を失ふの例に乏しからざるを以つて、此弊に陥らざる様留意するを肝要とす。

今主枝を剪定する上に於て注意すべき主な要件を示せば次の如し。

- 一、強大なる主枝は弱小なる主枝より短く剪定すべし。
- 二、上方の主枝は下方の主枝より稍短く剪定すべし。
- 三、強大なる主枝は蜿曲せしめ、弱小なる主枝は直立せしむべし。

二、側枝剪定 側枝の剪定は適當なる位置に果芽及果枝を生成せしむるの目的にあるを以つて、其法先づ初年に日本梨は四五芽、洋梨は六七芽を残して剪定

するを常とす。然る時は最先端の一芽若しくは二芽は發芽後生長して枝條となるも、其れ以下の芽は適度なる樹液の供給を受くるの結果生長緩慢となり、茲に花芽若しくは中間芽を形成するに至る。斯して完全なる花芽たりしならんには其年の秋期若しくは翌春其直上部より剪截すべきも中間芽の場合にありては上部に一芽を残して剪定すべきなり。然るに若し中間芽の直上部より剪截する時は忽ち多量なる樹液の供給を受けて、活潑なる生長を開始するに至る。況んや中間芽の性たる氣候の變化樹勢の變調等の關係に依り屢々伸びて枝條となるに於てをや。



圖 三 十 三 第

又場合によりては残されたる四五芽(日本梨)の内先端の二三芽のみ枝條となり、他は悉く隱芽の状態たることあり。斯る際には、宜しく主枝及本幹に最も近き枝條を擇びて他は總て之を剪除し、更に其残されし枝は前年に於けるが如く、再び四五芽を以つて剪定を行ひ、飽くまで花芽及果枝の生成に勉

ひるを要す。次に側枝剪定上の主なる注意事項を掲ぐべし。

- 一、側枝の剪定は果枝及花芽を主枝又は本幹に最も近く生成せしむるを以つて主眼とすべし。
- 二、剪定すべき長さは四五芽を以つて標準とし、樹勢強き種類は少しく長くするを要す。
- 三、花芽を多數生じたる場合には、下部の良好なるもの二箇を残して他は悉く之を剪除すべし。
- 四、稍長き側枝の先端に果芽を着生したる時は、宜しく之に結實せしむるを要す。然る時は自然勢力を弱め下部の適處に花芽を形成するに至るべし。
- 三、果枝の剪定 梨樹は其習性として一旦果枝を生じて結果するや、爾後毎年二本乃至三本の短果枝を發し、遂ひに短果枝群俗に言ふ蓋芽を形成するに至るは栽培家の了知するところにして、其保存年限能く十四五年の長さに亘るべし。是れ梨樹の比較的放任するも案外結果の容易なる所以なり。然りと雖も徒ら

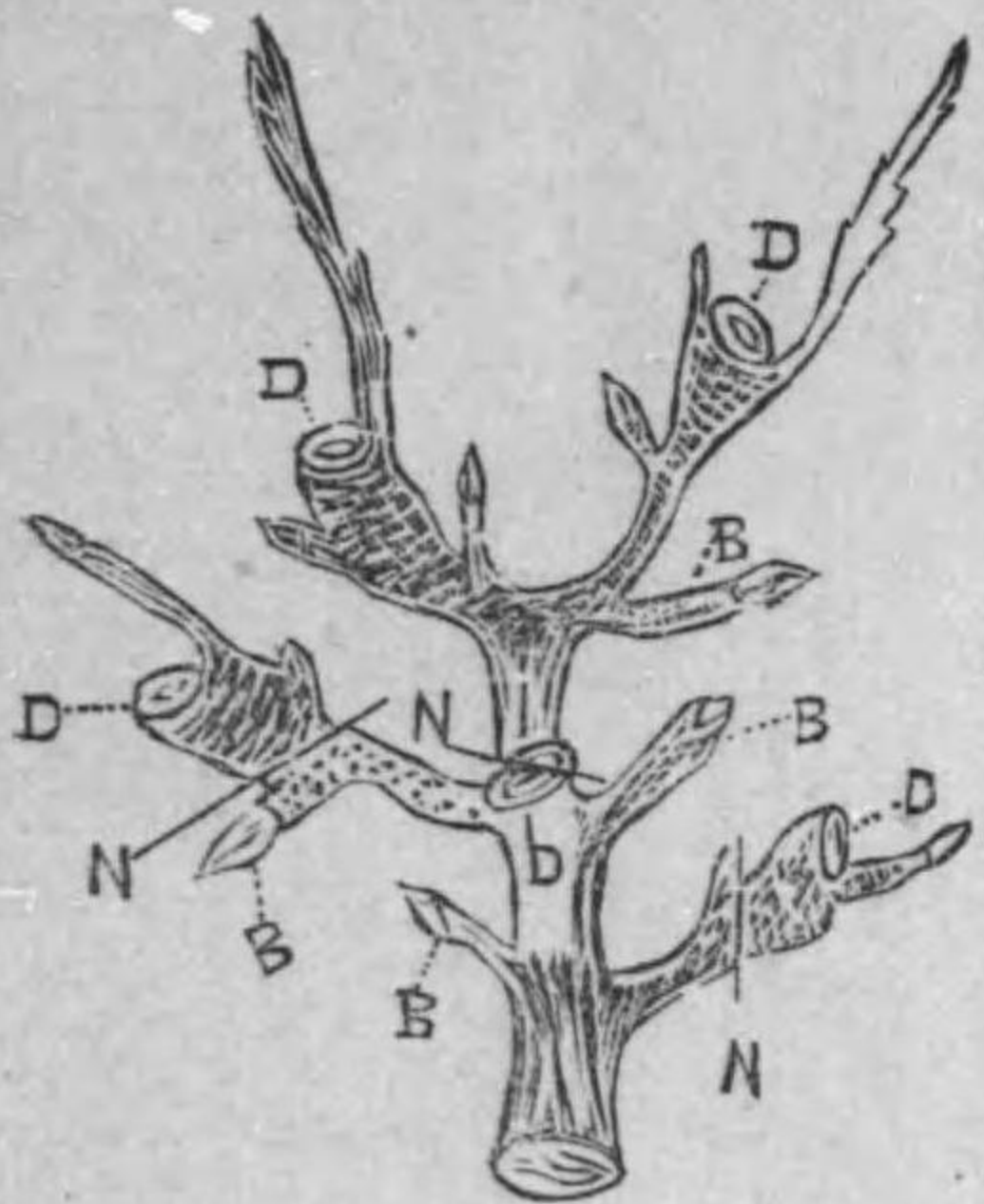
に果枝の保存年限長きを利用すれば、遂には老成果枝となりて組織に變化を來し、樹液の運行を阻害するに至る。而して樹液運行の阻害は直接梨果の生長に及びて、小果劣品たらしむるは理の尤も見易きところなり。加之多數なる果枝は集りて日光空氣の流通を妨ぐるのみならず、恐るべき害蟲の巢窟となり、忌むべき病菌の繁殖所たるに過ぎざるを以つて、宜しく適當なる方法の下に之等老成果枝の剪定を行はざるべからず。而して之等老成果枝の剪定は大體左の方

老成果枝の剪定

針によりて行ふべし。

- 一、老成果枝は順次新成果枝に交代せしむるを要す。
- 二、果枝にして余り老成なるか、餘り長さか、若しくは之あるが爲めに他果枝の妨害となるが如き場合に於て、然かも交代すべき適當なる果枝なき時は悉く之等果枝を剪去し、隱芽

圖 四 十 三 第



をして發生せしむるを要す。枝梢の隱芽は多くの場合に於て、果枝たざるも果枝の隱芽は概ね果枝たるを得べし。

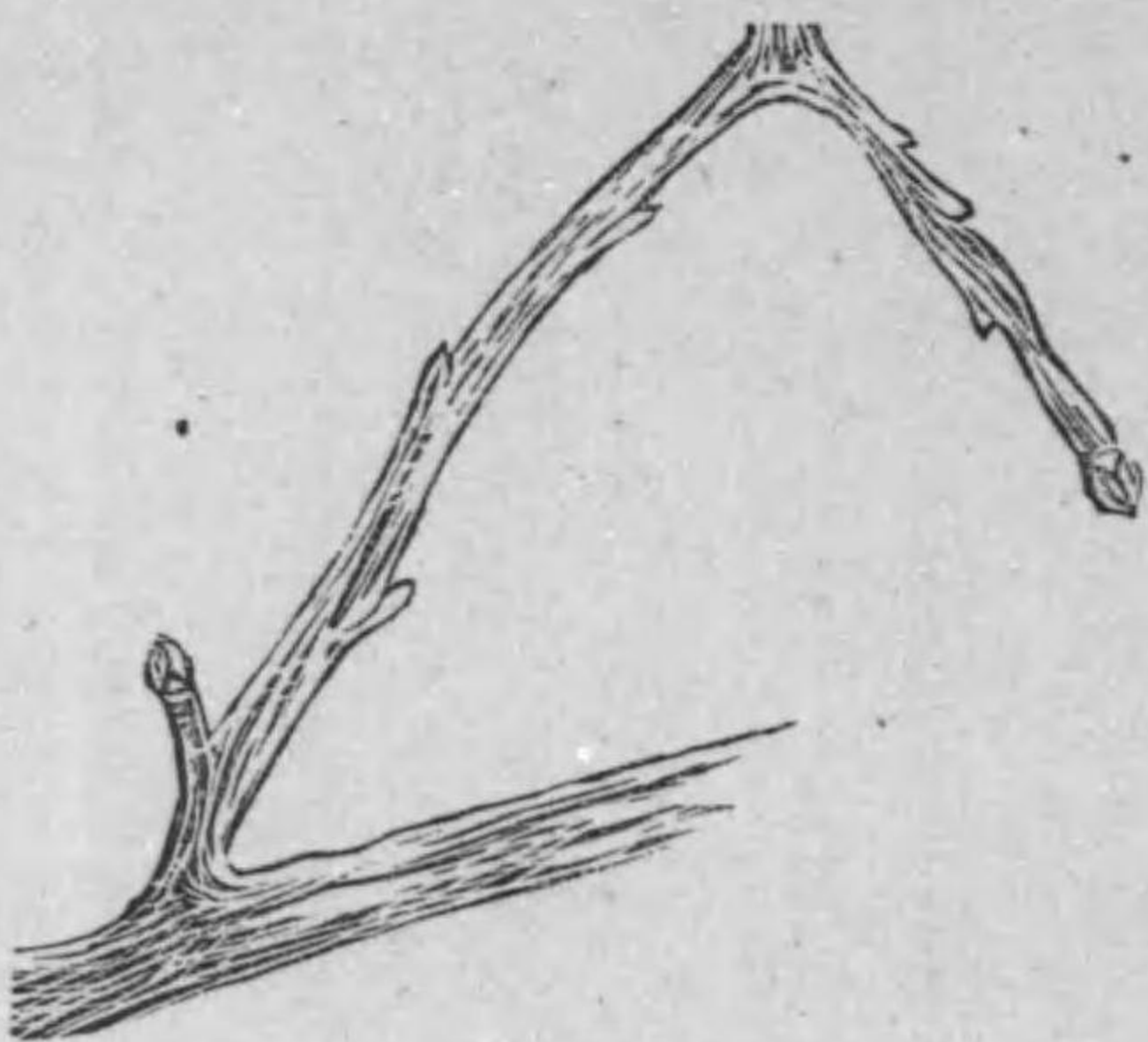
- 三、日光空氣の流通を圖るを要す。
  - 四、更新せしむべき果枝は成る可く主枝に接近したるものなるを要す。
- 更に圖を以つて之を示さんDは何れも果痕にして、Bは新生果枝而して、N點線は剪定すべき位置を示したるなり。

### 第二 夏季剪定

夏季剪定は冬季剪定と少しく其趣を異にし、専ら梨樹の生長期中に行ふべきものにして、其方法には種々ありと雖も、何れも旺盛なる枝梢の生長を抑制して、果芽の生成を促進するを以つて目的とす。故に風土の撰擇其當を得、梨樹の生長其度に叶ひ、果芽の着生し易き處にありては敢て夏季剪定を實行する必要少なきも、若し之れに反して發育旺盛なるところに於ては、必ずや嚴格なる夏季剪定を施行せざるべからず。

一、摘斷法 夏季剪定中最も主要なる作業にして、之が適否は大に花芽の生成を左右するものなれば、常に新梢の勢力如何に注目し、決して忽になすべからず。摘斷を行ふべき適當なる時期は即ち爪を以つて施行し得らるゝ時なりと雖も、晩きに過ぎんよりは寧ろ早きに失するを可とす。何んとなれば早きにありては勢ひ主枝に近く果枝を生ぜしむるの便あればなり。又摘斷すべき程度は即ち新梢の強弱によりて行ふべきは勿論なりと雖も、然かも一般の場合にありては五六葉を残して行ふを要す。或一二の種類は摘斷するや、直ちに其先端に花芽を生ずると雖も概ね最上部の芽は伸長するを常とし、其以下の芽は次第に發達して遂には花芽たり、又果枝たるを得るに至るべし而して摘斷せられたる新梢の勢力旺盛なるものによりては伸長は單に先端の一枝のみに止まらずして、更に二枝も三枝も生ずる場合なきにあらず。斯かる場合には各枝何れも再び二三葉を残して第二回の摘斷を行ふを要す。摘斷する上に於て當業者の大に注意を要すべき件は、其強枝を長く、且つ遅く、弱枝を短かく、且つ早く行ふこと即ち之なり、若しこれを前後し、彼の冬季剪定の如く強枝を短切せんか樹液の供給

法 傷 折 圖 五 十 三 第



盛んなるが爲め愈々生長盛んとなり、再三再四摘斷せざるべからざるに至るのみならず、目的芽までも徒長せしむるに至るべし。之れに反し弱枝を長く摘斷するか肝要なる下部の芽は養分缺乏の爲め到底完全なる發達を遂ぐべからざるなり。世人往々にして此消息に通ぜず夏季摘斷に冬季剪定の理を以つてす亦説れりと云ふべし。

二、折傷法 此法は前法と同一目的同一理論により普通六月より八月頃の間に圖の如く所謂折傷するものなり。圖は折傷の結果花芽の着生したるを示したるなり。要するに折傷は摘斷の後に於て施行すべき方法とす。

三、綠枝剪定 梨樹は栽植當時にありては他果樹の如く甚だしく綠枝剪定の必要を認めざるも、既に三四年を経過するに至らば盛んに此法を實行せざるべ



からず。

緑枝剪定の主要なる目的は貴重なる養料の浪費者たる無益の側枝を剪截して風光透通の便を圖り、然して果實の生長を助くるにあるを以つてかゝる無益なる側枝は容赦なく剪除すべきなり。

葉は果樹の生理作用を營む樞要の機關なりと雖も、然かも其密生して果面を被ふに至りては果實の發育を妨げ、品質をして不良ならしむるに至る。されば緑枝剪定の際之等綠葉の剪除も亦必要なる事なりとす。

### 第三 根部剪定

果樹枝條の生長盛んなるは、結局根より多量の養料を供給するが爲めにして、上部の發育と下部の發達とは常に相一致するものなり。故に根部の剪定は枝梢の生長を抑制する根本的の最良法にして、上部發育の盛んより來る結果の不良を救済する實際的の最良策と謂ふべし。

而して其効果の最も著大なるは夏間の生育期中にして、秋季之れに次ぐ。春季

に剪根(斷根)するは甚だ効なきのみならず、寧ろ細根の發生を促し、却つて枝條の生長を助くるに過ぎざるのみ誤れりと云ふべし。茲を以つて根部の剪定をなさんと欲せば、先づ施すすべき時期に注意し、次に樹勢の強度に應じて寛嚴其度を失せざるを要す。

若し夫れ誤つて甚だしき剪根を行はんか、果樹をして偶、病態に陥らしむること之れなきを保すべからず。要するに此方法は梨樹を過沃の土地に植ゑ、生長頗る旺盛を極め、肥培の法に加減を加へ、樹枝の剪定に注意するも尙且つ及ばざる場合に用ふる所謂非常手段たるに外ならざるを以つて、浪りに用ふるは不可なりとす。

### 第十四章 整枝

#### 一、ピラミッド Pyramid

元來此整枝法は概ね幹身を一尺内外となし、下部の樹枝は廣くこれを開展せしめ、上部に至るに従ひ、漸次細尖となすものにして、一般果樹に應用せられ、美觀と實とを兼ねたる良法なり。而してこれが得點とするところは次の如し。

- A. 矮性にして下部廣く、上部狭きが爲め、暴風雨より來る損害を軽減することを得。
- B. 樹幹は日光の直射を蒙らざるが故に自然壽命を長く保つを得べし。
- C. 矮性なるを以つて果實の誤つて落下することあるも、これが爲め傷害を被ること少し。
- D. 果實の保護採收并に剪定整枝等凡ての管理上に非常に便利なり。
- E. 地積を要すること比較的少なきのみならず、日光及空氣の流通佳良なるを以つて樹の生長良好なり。

F. 花芽の着生容易にして且つ結果をして促進せしむ。

ピラミッド整枝法の利益とするところは、大要以上の如しと雖ども、梨樹種類の多様なる到底皆然りと云ふべからず、中には本法を應用するも結果不良なるあり、又樹枝の習性上自ら適不適あるを以つて豫めこれが品種を撰定するは最も肝要なることなりとす。一般に樹枝の生長一様にしてこれが分岐規則正しく、然かも垂下する性を有せざる種類は、其最も適種なりと云ふべし。左に其適種と不適種とを示して、當業者の參考に資せん。

#### ピラミッド整枝に適する種類

- デュッセス、ダングレーム Duches d'Angouleme
- フレミッシュユ、ビユチー Flemish Beauty
- シェルドン Sheldon
- バートレット Bartlett
- ルイ、ボン、デゼルシー Louise Bone DeJersy
- シトロン、デス、カームス Citron des Carnes

- クラツプス、フエウレット Clapps Favorite
- デニロンドー Durondeau
- ジョセフィン、ドマリソ Josephine Demaline
- プリンセス Princes
- ウルバニスト Urbanist
- イイスタ、ポレノ Easter Beurre
- ピラミッド整枝に不適當なる種類
- ウインタ、ネリス Winter Nells
- ローレンス Lawrence
- ボイレ、ダマンリス Beurre D'amant
- ピーバリー P. Parly

此整枝法を施さんとせば先づ眞直にして接木部に近く多數の健芽を有する一年生の苗木を撰び栽植するものにして果園若し、比較的肥沃なる場合には勢ひ温梓砧の苗木を用ひ、瘠薄なる時は實生砧の苗木を用ふべし。否らざれば果樹

第三十六圖



發育の關係上樹形の整正に尠なからぬ不便と困難とを與ふるものなれば、是れ亦大に注意すべきなり。

ピラトツミ整枝

發育の關係上樹形の整正に尠なからぬ不便と困難とを與ふるものなれば、是れ亦大に注意すべきなり。普通一間乃至一間半四方に植ゆ、而してこれが樹姿作成の要領とするところは即ち圖に示したるが如く、最初幹身をば地上を去る約一尺乃至一尺五寸位のところより切りて六枝を生ぜしめ、先端の一枝は之を中央主枝として他く迄も垂直ならん事を

圖り他の五枝はこれを地平線に沿ひて生長開展せしむ。今便宜上此枝を横主枝と名づく、而して横主枝開展の度は横主枝が本幹となす角四十五度なるを要す。故に豫め細竹の如きものを以つて支柱となし、其位置をして固定せしむるは最も肝要なる作業なり。

斯の如くにして夏間は専ら各主枝發育の平均を圖り、其年の冬季若しくは翌春に至り始めて各枝の發育に従ひ、位置に應じて適宜一尺五寸乃至二尺の長さに剪定するを法とするも、上方の枝は下方のものに比してより短かく、弱枝は強枝よりより長く、剪截するの心懸なかるべからず。こは横主枝の場合にして此際に於ける中央主枝は最上部の横主枝を去る八寸乃至一尺の部分に健全なる芽六個を残し、其芽の發芽伸長するや初年に於ける場合と同じく先端の一枝はこれを眞直とし、其他は悉く適當に配置するものなり。爾後毎年同様の方法を繰返して年々一段宛形成し、四五年の後に完成するものなり。以下本整枝を行ふに當り特に注意すべき要點を擧ぐべし。

A. 中央なる主枝は必ず一本にして然かも垂直なるを貴ぶ。

主枝剪定の際能く芽の方向に鑑み、毎年同側にある芽のみを残して剪定することなく、必ず前年と反對側の良芽を残して剪定すべきなり。

B. 横主枝の開展は本幹となす角四十五度を標準となし、各段の距離は八寸より狭からざるを可とす。

若し夫れ開展の度を四十五度より強きに過ぐるも、弱きに失するも常に外觀の美を損ふ各段の距離亦かくの如き傾向ありと雖とも、不幸にも所要の部分に健全なきか、又弱芽なる場合には多少斟酌するも妨げず。

C. 各主枝の剪定は其年生長したる長さの三分の二乃至四分の二を切除するを標準とすべし。

是れ固より一つの標準に過ぎず、凡て果樹は假令同一の種類と雖ども、土地と氣候とによりて其生長を異にするを以つて、果して幾何の長さを以つて剪定すべきかは栽培家各自の實驗に依るの外なし。

D. 贅芽はなるべく早く剪除すべし。

贅芽はやがて内部の鬱閉を來し、風光の透過を害するを以つて力めて早く基部

より除去するを要す。

E. 所要の芽の弱き場合には芽の直上部に又芽の發育強盛に過ぐるものは下部に芽傷を加ふべし。

芽傷は芽を去る約五六分の部分に於て深さ木質に達せしむるものなりと雖も其傷にして余り大なる時は往々にして芽の乾燥を來すことあり、深く注意するを要す。

F. 夏間發育盛んなる枝はこれを下方に屈指、弱き枝は之を直立せしむべし、勢力強盛なるものを壓下し、勢力纖弱なるものを直立せしむれば能く生長を調和し、各枝の均一なる發育を期するを得べし。

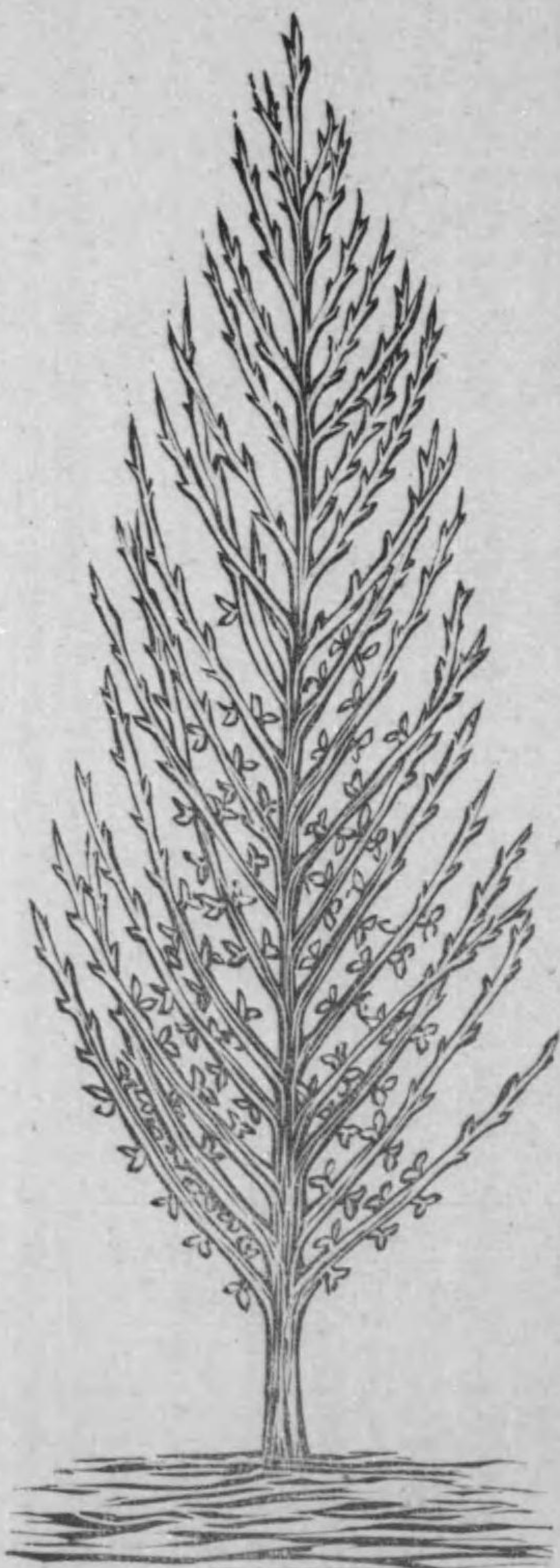
G. 樹株の高さは普通基部直徑の三倍とす。

高さは無論栽培者の任意なれども、余りに高きは栽培管理の上に少なからぬ不便を感ずるものと知るべし。

### ニ ヒュゾー Fusso

此整枝法は一名圓筒形整枝法とも稱し、其方法至極簡單にして只中央の主幹を

第三十七圖



して直立せしめ、枝の配置の如きは殆んど自然に任じ日光空氣の透通を害せざる様剪定するに過ぎざれば第一勞力を要すること少なく、第二地積の經濟となり。第三他法に比して産額甚だ多きの利あり。故に現今此方法を應用する

ヒュゾー

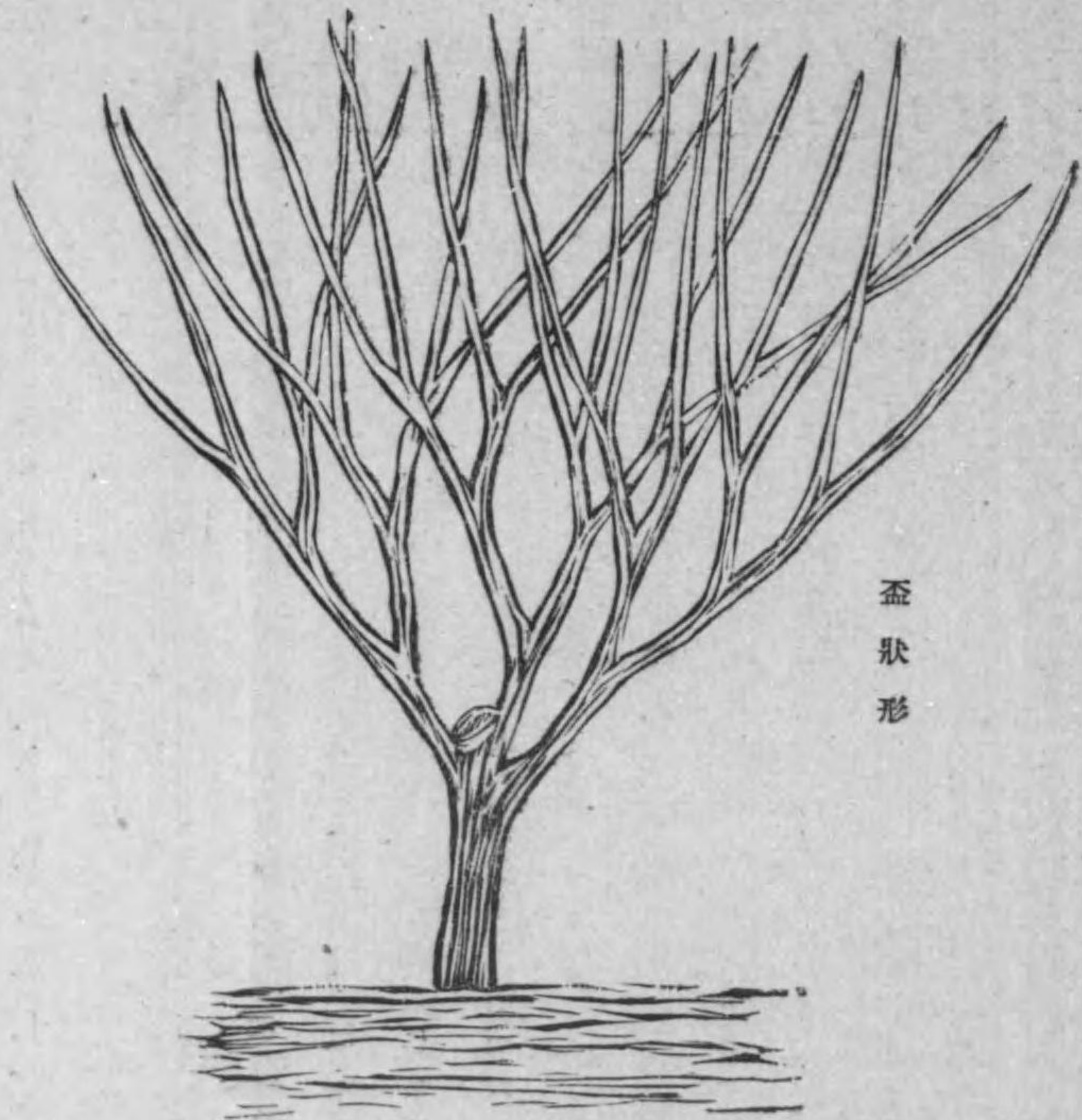
各地に多數なるを見るに至れり。

樹形は圖に示したるが如くにして洋梨の多くは概ね應用し得べきも、ピルバーリー・ウインター・ネリスの如く枝條細長屈曲垂下する習性あるものはこれが整

枝容易ならず其法先づ五尺平方に一本の割合を以つて栽植し初年は地上より一尺五寸乃至二尺位の所にて剪定を行ひ、本幹を一尺内外となし是より上部の芽は悉く發芽生長せしめ、先端の一枝はこれを中央主枝として垂直に誘引し、其他の枝は中央主幹と三十五度位の角度を標準として適宜に配置すべきなり。第二年目に至らば中央主枝を一尺五寸位のところより切りて各枝を發生せしむべし。而して横主枝の剪定はピラミッド整枝の場合と同じく年々一尺五寸乃至二尺の長さに將に延長主枝たるべき良芽を残して剪截し、第三年目以後に至らば最も嚴密に摘芽法を行ひて日光の透通空氣の流通を圖ることに力め、九尺乃至一丈の高さに至りて止むべし。其他の注意事項はピラミッドの場合に習ふて可なり。

III 盃狀形 Bowl-shape

所謂樹枝を盃狀に仕立つるものにして獨り梨のみならず、一般の果樹に應用せらる。其樹枝分岐の法則は成可く、中心を空虚となし、主枝及側枝は専ら外方に向つて生ぜしむるが故に、日光空氣の流通佳良にして果實の品質頗る優等なる



盃狀形

るのみならず其産額も亦尠なからず。且つこれが作業は比較的容易なるを以つて最も實際的經濟的の良法なり。苗は一年生の良好なるものを選びこれを一間半乃至二間四方に栽へ、地上を去る一尺五寸乃至二尺のところより健芽三個を残して剪定を行ひ、其發育伸長するに至らば支柱を

與へて幹身となす、角四十五度乃至五十度に開展せしむ。其後は主として三主枝の平等なる生長を圖り、次年に至りて之等の主枝は其勢力に應じ各一尺五寸乃至二尺を標準として剪截するを要す。此際能く芽の位置に注意し必ず左右兩側に良好なる芽を残して切り、之れより主枝を二本に分岐せしむ。斯の如くにして、毎年主枝を分岐せしむるを以つて主枝の數は常に位數を以つて増加するものなり。されど當業者の意見によりては必ずしも倍數を以つて進むべきにあらず、適當の高さより主枝を各一本宛となすも可なるなり。完成は普通四年後なりとす。

四 カンデラール Canderavel

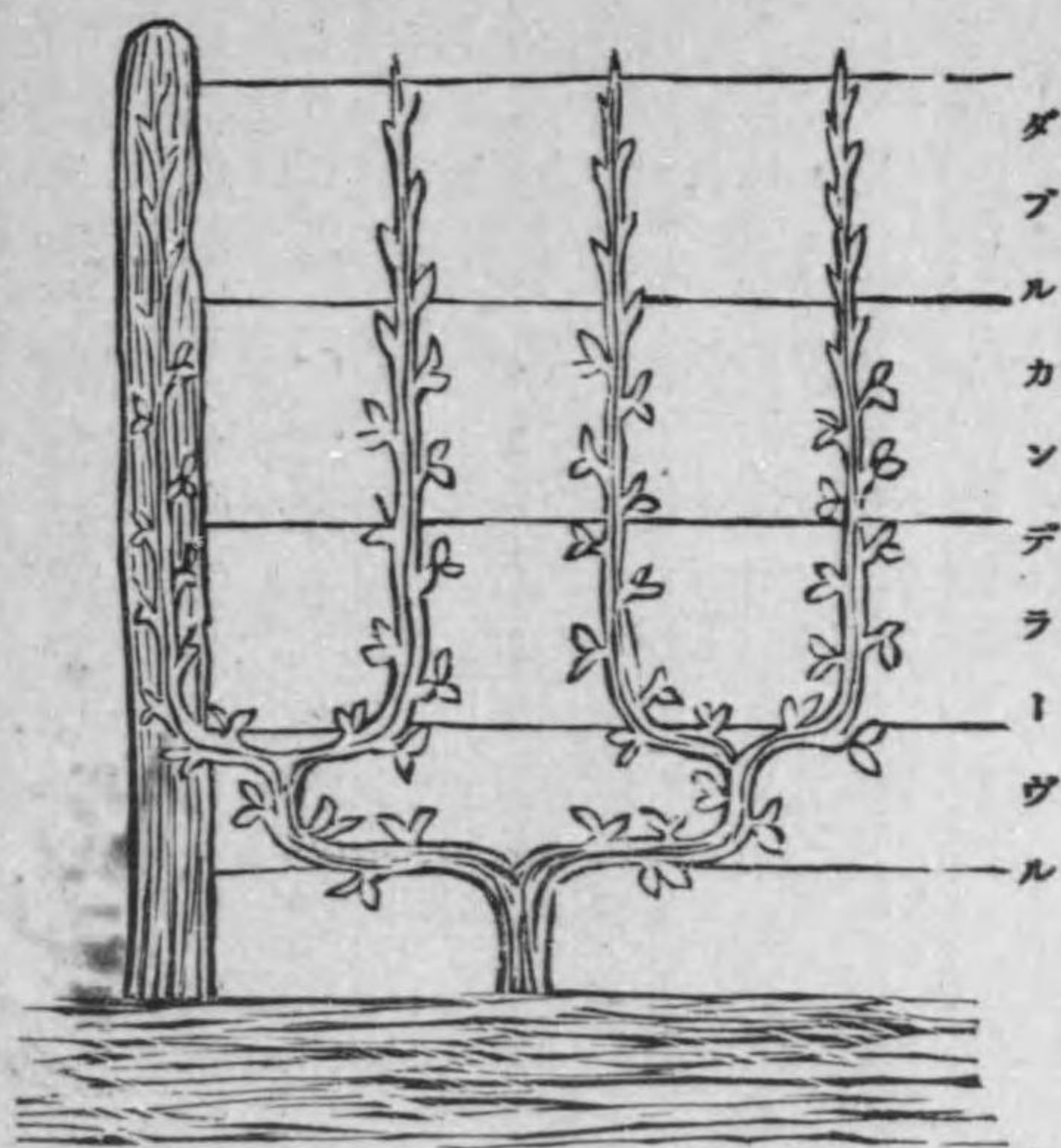
垣根作りとして最も美觀なる方式にしてこれに依りて得たる果實は一般に品質優等産額亦少なからずと雖も、風害に對する抵抗の弱きは蓋し本法の欠點とす。而して此方法には二本式即ちシグラルカンデラールと、四本式ダブルカンドラールとの別あるも、其整形法に至りては實に大同小異なり。今此整枝法を説かんが爲め第一順序として垣根の作り方より述べん。

元來此法は歐米にありて溫度及陽光の不足を補はんが爲め南面に墻壁を設け、或は垣根を作りて整枝栽培したるに起因するより考ふるに、垣根は成可く日當りよき場所を擇ばざるべからず。

垣根を作るには先づ三寸角九尺位の木杭を二間置きに立て、是れに十二番の針金を横架せしむべし。而して針金と針金との距離は普通二尺なりと雖も、最下部は本幹の高さに從ひて横架せしむべく、又四本式カンデラールにありては其上更に五寸の距離を隔て、架設するを要し、尙又縦には細竹を以つて一尺置に立て、後來主枝の誘引に便するを要す。斯して垣根の作成終らば茲に苗を栽植するものなり。栽ゆべき距離は二本式にありては畦巾五尺、株間二尺四本式にありては五尺に四尺を與ふべし。

從來の栽培家は其栽植するに當りては苗を垣根に接して直立に栽へ、依つて以つて完成の美觀を豫期するものの如し。是れ誤れるの方法にして必ずや垣根を去る四五寸のところより斜に栽植すべきなり。斯する時は栽植當時は一見醜しきものゝ如きも、次第に生長するに從ひ、幹心は漸次直立の位置に歸り、益々

第三十九圖(乙)



第三十九圖(甲)



第十四章 整枝

美觀たらしむるを得るものなり  
斯く注意して苗を栽植するや、直  
ちに地上を去る一尺乃至一尺五  
寸の長さには健全なる芽二個を左  
右兩側に残して剪定するを要す。  
而して次第に嫩芽の生長するに  
従ひ、これを左右水平に誘引し、二  
本式にありては左右各五寸四本  
式にありては各一尺の部分より  
直立に曲ぐるものにして、爾後二  
本式は年々均一なる主枝の發育  
を圖るを以つて、足れりと雖も、四  
本式にありては更に兩主枝を各  
五寸の高さに於て前同様健全な

二芽を残して剪定を行ひ、主枝をして四本に分岐するものなり。主枝の剪定は  
敢て他法と異るところなしと雖も、いつも其先端前面に於ける部分に良好なる  
芽を残して剪定を行ひ、決して切斷面を前方に現すことなき様注意せざるべか  
らず。又此整枝法にありては主枝の左右に花芽及果枝を排列するものなるが  
故に、何時も此心懸を以つて綠枝剪定を行ひ、主枝の前後に於ける芽は特別なる  
事情のあらざる限り、摘芽するを要す。而して本整枝の完成するは一般に四年  
乃至五年とす。

五 コルドン Cordon.

コルドン整枝とは所謂主枝の單一なるものを意味するものにして、其方法頗る  
簡單なるに似たるも尙初心者にありて其完成を期するは亦甚だ困難の事に屬  
す。コルドン整枝には次の如き三種あり。

コルドンホリゾントアル Cordon Horizontal

コルドンヴァーティカル Cordon vertical

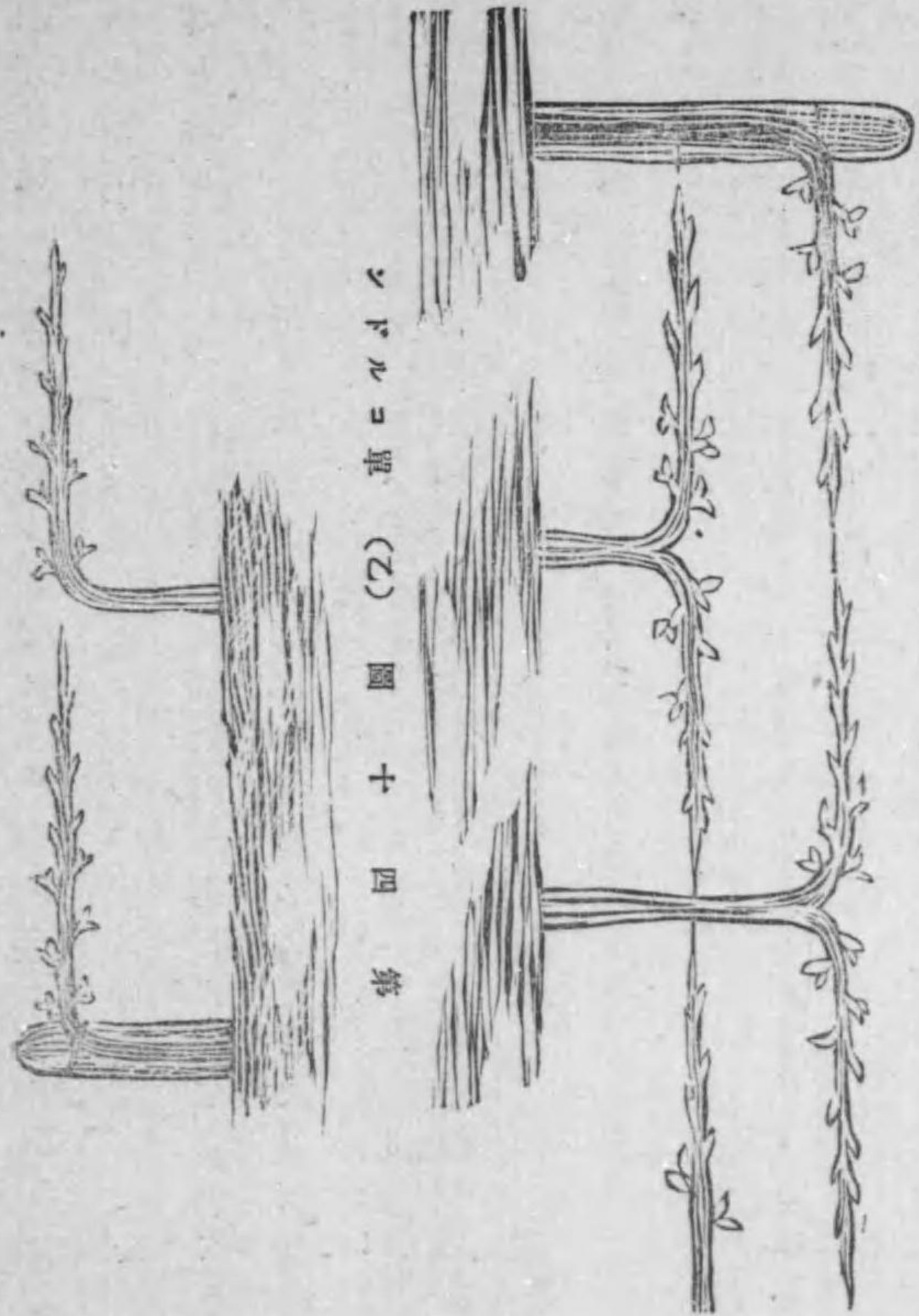
コルドンオブリキユイー Cordon oblique

第十四章 整枝



今之等の方法に就き其大要を述べし。

コルドンホリゾンタール



コルドンホリゾンタールには主枝を一方にのみ誘引するものと、左右に誘引するものとの二種あり。前者は普通単コルドンと稱し、後者は複コルドンと稱す、此二者を交互二段に作る時は一層美觀なり。栽植距離は單コルドン

ドンにありては六尺、複コルドンにありては一丈二尺となす。其法先づ地上を去る一尺—一尺五寸位の部分より單コルドンは一芽複コルドンは左右に二芽を残して剪定を行ひ、前者は一方に後者は左右水平に誘引し翌年よりは是等の主枝を年々一尺五六寸の長さに切り、漸次果枝及び花芽を形成しつゝ進行するものなり。

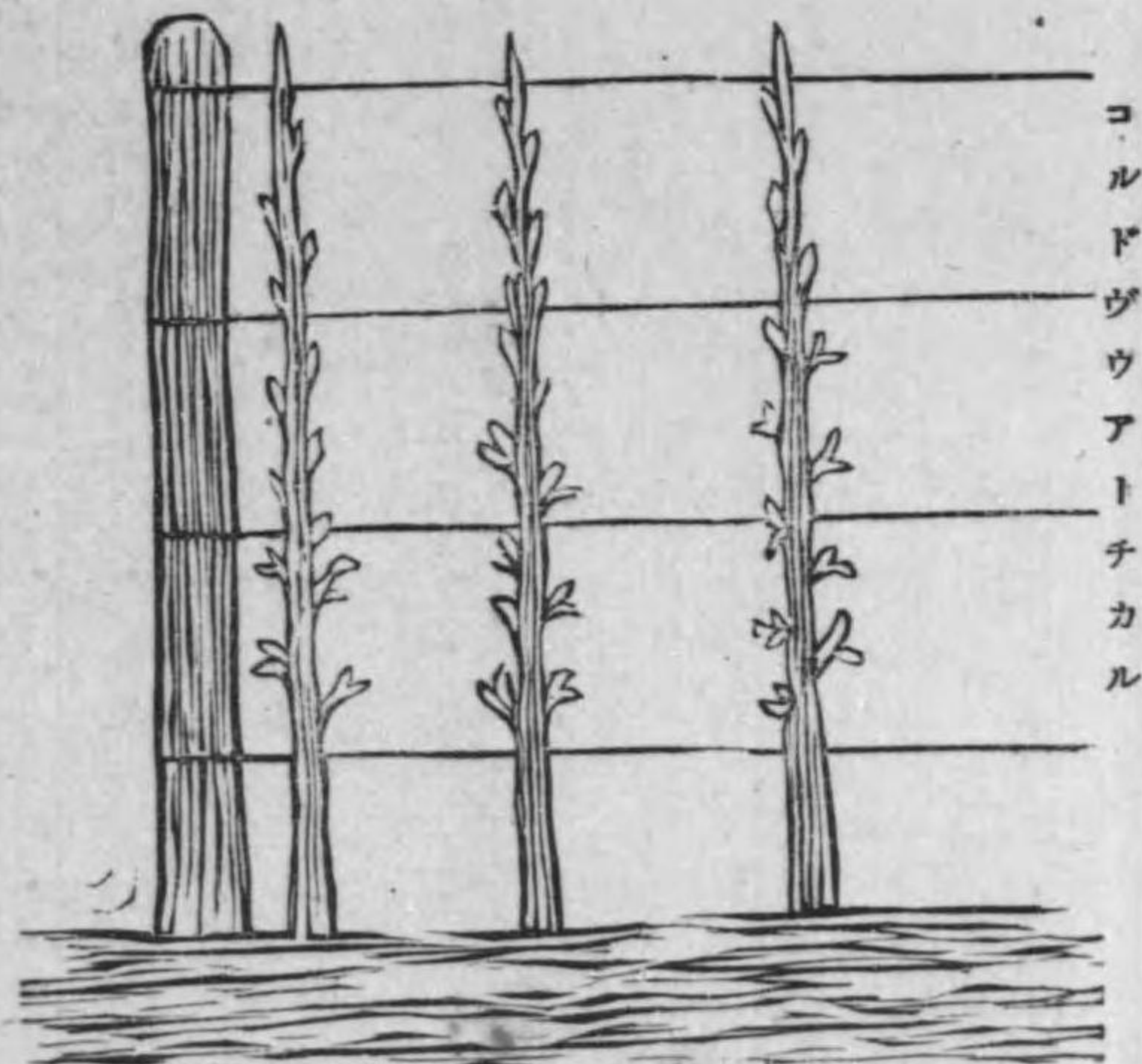
コルドンヴァーチカル及ヴコルドンオブリキユ

此整枝は二尺の距離を以つて栽植を行ひ、地上を去る一尺五寸乃至二尺位の部分に於て接木したる反對の側面に於ける健芽の上部より剪定し、發芽するや先端の一枝をヴァーチカルにありては直立に、オブリキユにありては斜に誘引すること圖に示したるが如し。高さは栽培者の意見もありて一概に論じ能はざるも、一丈は既に其限度なるべく六七尺を以て普通とす。

六 パルメツトボリゾンタール *Palmette Horizontal*

此方式は熱帶植物なるパルメトリの葉脈に似たるを以つて此名あるが如し。完成後は頗る壯觀にして甚だ風致に富む良法と云ふべし。

圖 一 十 四 第



第十四章 整 枝

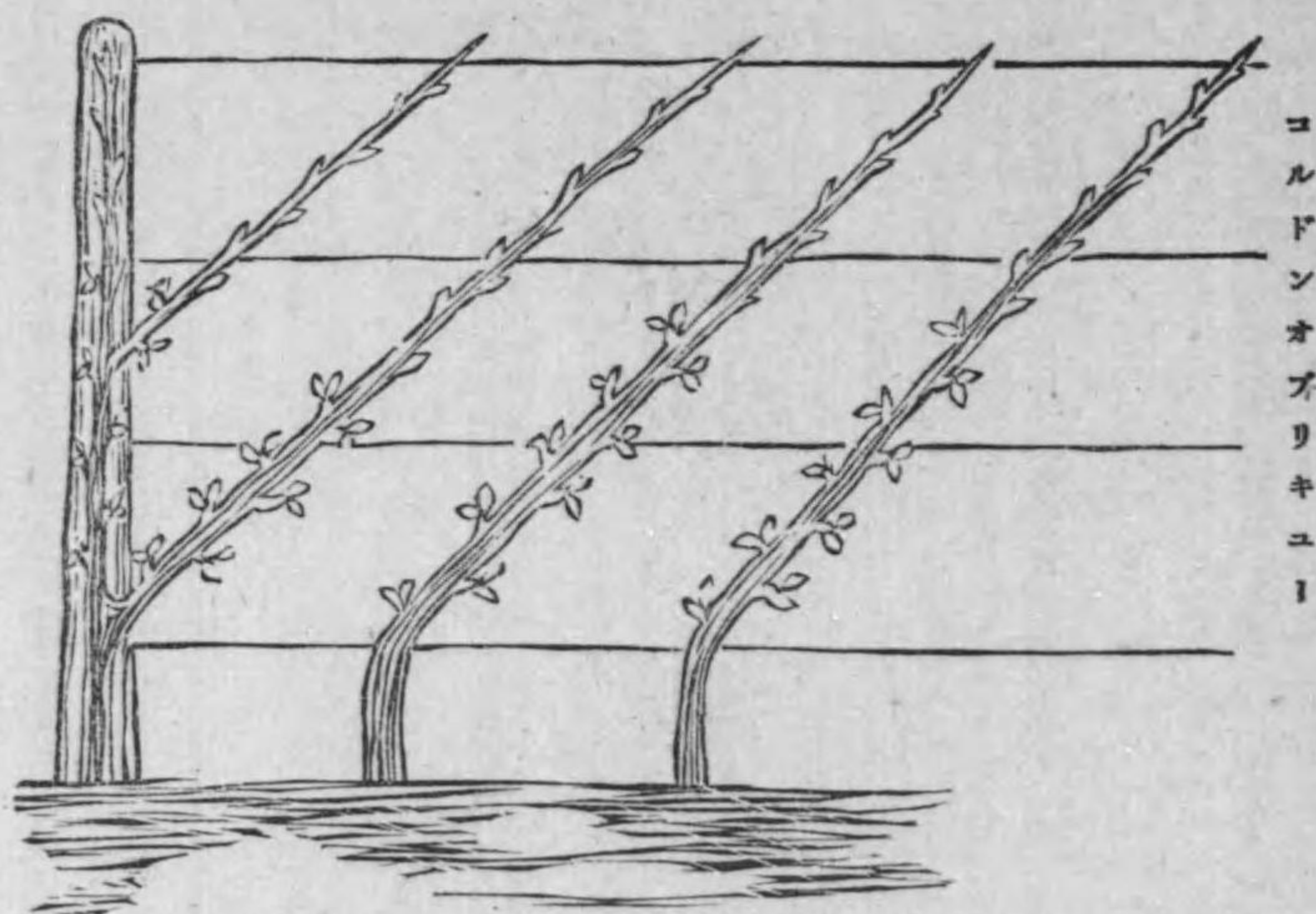
一七二

栽植の距離は實生砧の苗にありては一丈八尺を與ふべきも、楯砧にありては一丈二尺位を適當となす。是れ蓋し後者は前者に比し勢力微弱なるが故なり。

斯して先づ初年には地上を去る一尺一尺四五寸の部分より前面に一芽、其直下左右に二芽、都合三個の健芽を擇んで剪截するを要す。而して發芽生長するに至るや、中央の一芽は直立に、左右の二芽は水平に誘致するものにして、一年一段作るを法となすが故に、四段にありては四ヶ年、五段にありては五ヶ年を要する割合なり。

世の未熟なる實地家は動もすれば果樹の生理を度外に置き、最初より立派に整枝せんと考へたらんか、其芽の辛ふじて數寸に生長するや、直ちに之れを水平

圖 二 十 四 第

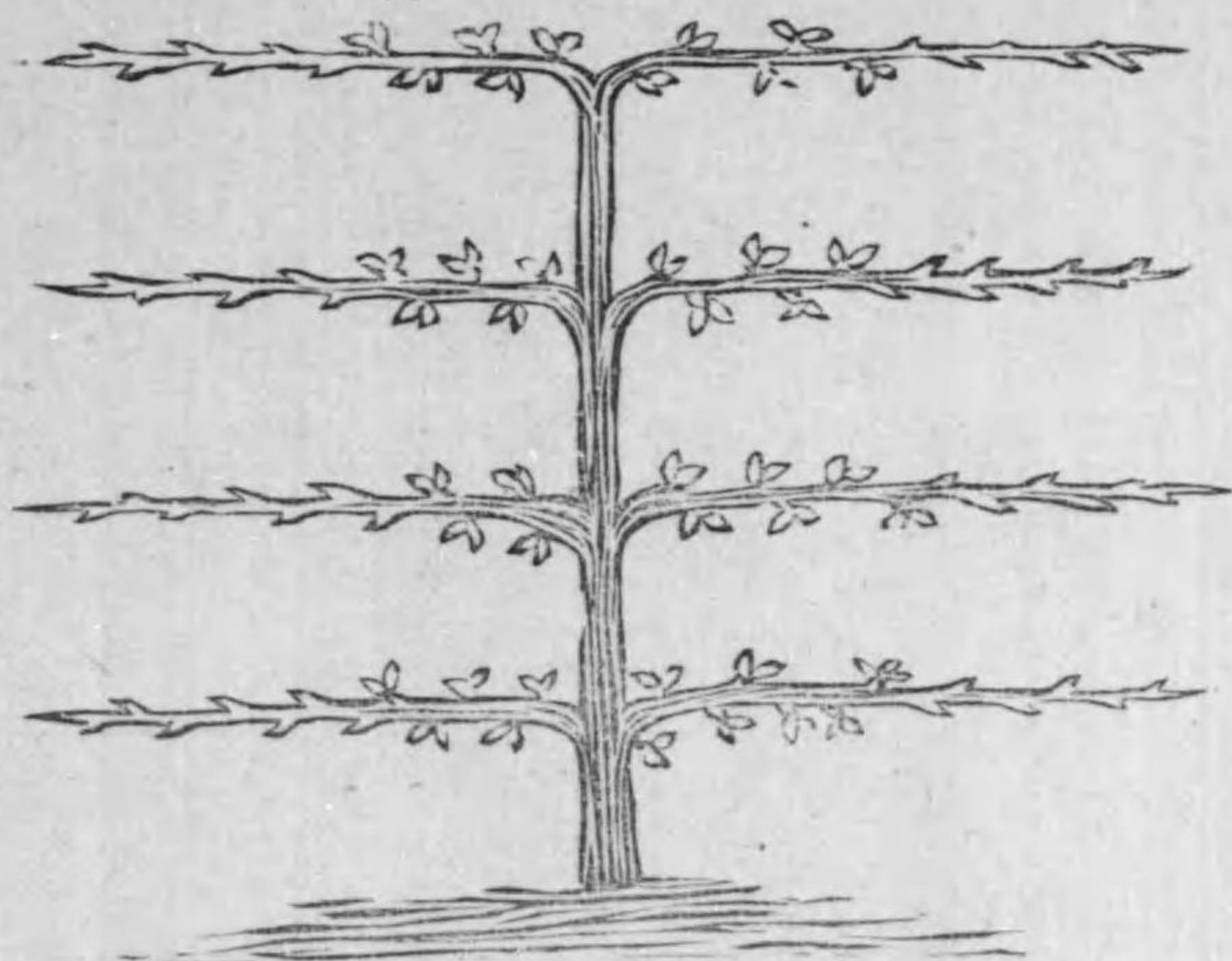


第十四章 整 枝

一七三

に誘引するもの多きを知ると共に吾人は亦彼等の常に失敗に終るを認む。凡そ枝芽の生長たるや其本幹となす角度の強弱に比例して消長するものなり。即ち角度の大なるに従ひ、愈々これが生長力を減じ、角度の小なるに従ひ、益々これが生長力を盛んならしむ。彼の熟練家が常に樹枝の平等なる發育を圖らんが爲め弱枝を直立せしめ、強枝を垂下、屈曲せしむるは畢竟此理の應用に外ならず。茲に於てか最初は殆んど其生育を自然に任じ、専ら各枝の生長をして均一となし、順次に角度を緩め、遂に目的とする水

第十四章 整枝 第三十四圖



第十四章 整枝  
バルメットホリゾンタール

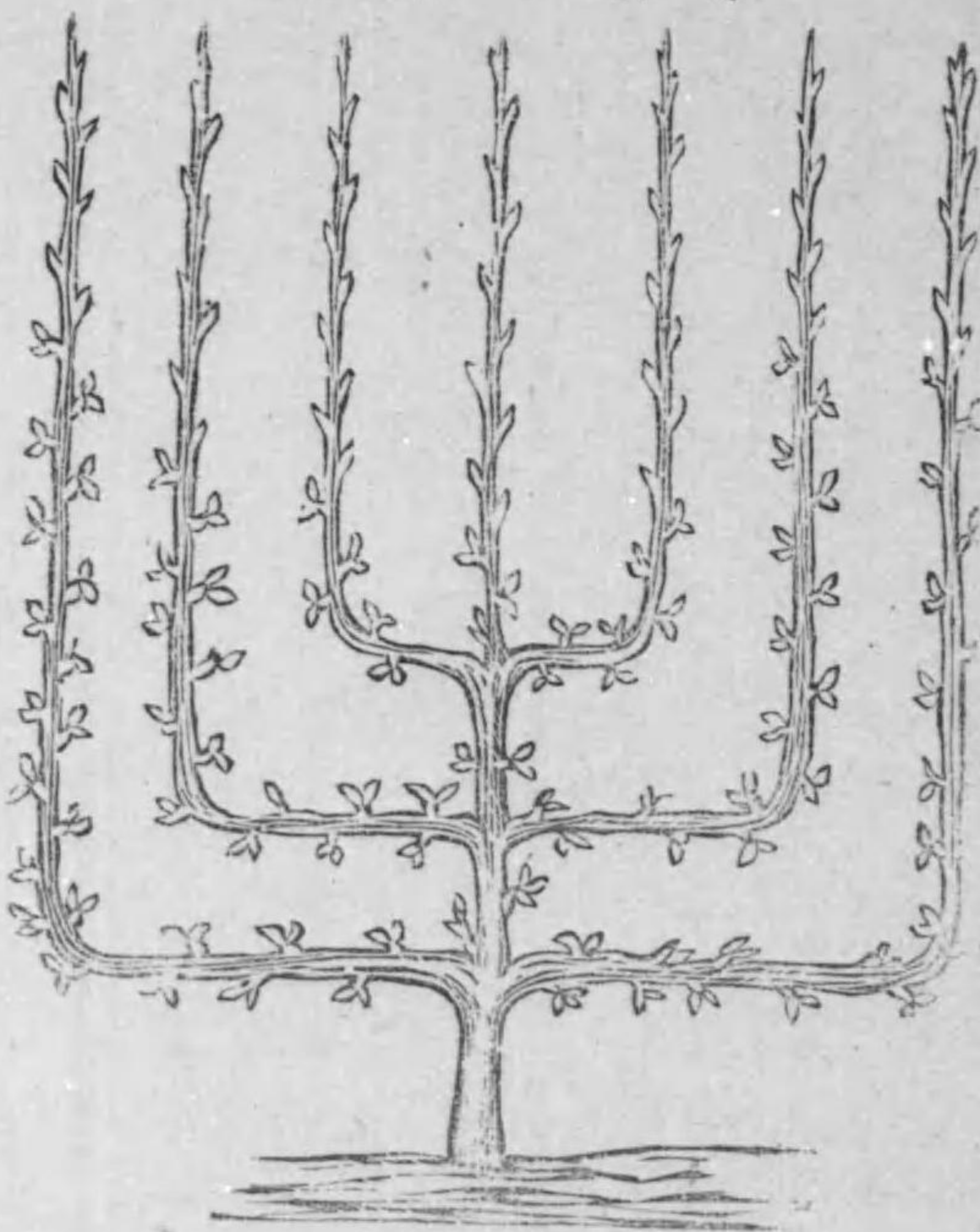
一七四

平の位置に持ち来らざるべからず。然らざれば中央主枝のみ獨り充分なる養料の供給を仰ぎて甚だしく生長するも、これに反し左右の主枝は養料の供給不足を感じて細纖となり。其差著しきに至りては一年に一段作ること能はざるに至るを以つて大に注意せざるべからず。

又中央主枝は其剪定するに當り、毎年一尺五寸位の處より初年に於けるが如く三芽を残し、横主枝は同じく何れも先端の上部に健芽を残して剪定するは亦忘るべからざる緊要なることなりとす。

而して若し剪定すべく三分岐點に於て

第十四章 整枝 第四十四圖



バルメットベリニ

第十四章 整枝

A  
バルメットの如きカンデラーゲルの如きは暴風の爲め果實の墜落枝梢の折傷樹幹の倒覆等により、不慮の損害と被ること多きも、棚作りにより

七棚作

前面に良芽を見出さるる場合には必ず下部より誘引するを宜しとす。

棚作りは古來より我梨樹栽培家の常に應用する所にして嘗て外國に見ざる本邦固有の整枝法なり、今棚作の利害得失を示せば左の如し。

一 棚作の有利なる點

一七五

ては是れが憂極めて少なし。

E 棚作りは枝梢の屈曲遙かに多きが故に、自然果芽及果枝の生成を良好ならしめ、驚くべき多額の収穫あり。

C 樹幹は日光の直射少なきを以つて、日射病の憂なく、且つ果樹が受くる日光に不平均なきを以つて益々結果状態をして佳良ならしむ。

二 棚作りの不利益なる點

A 棚作りは他法に比して棚の作成上多額の經費を要す

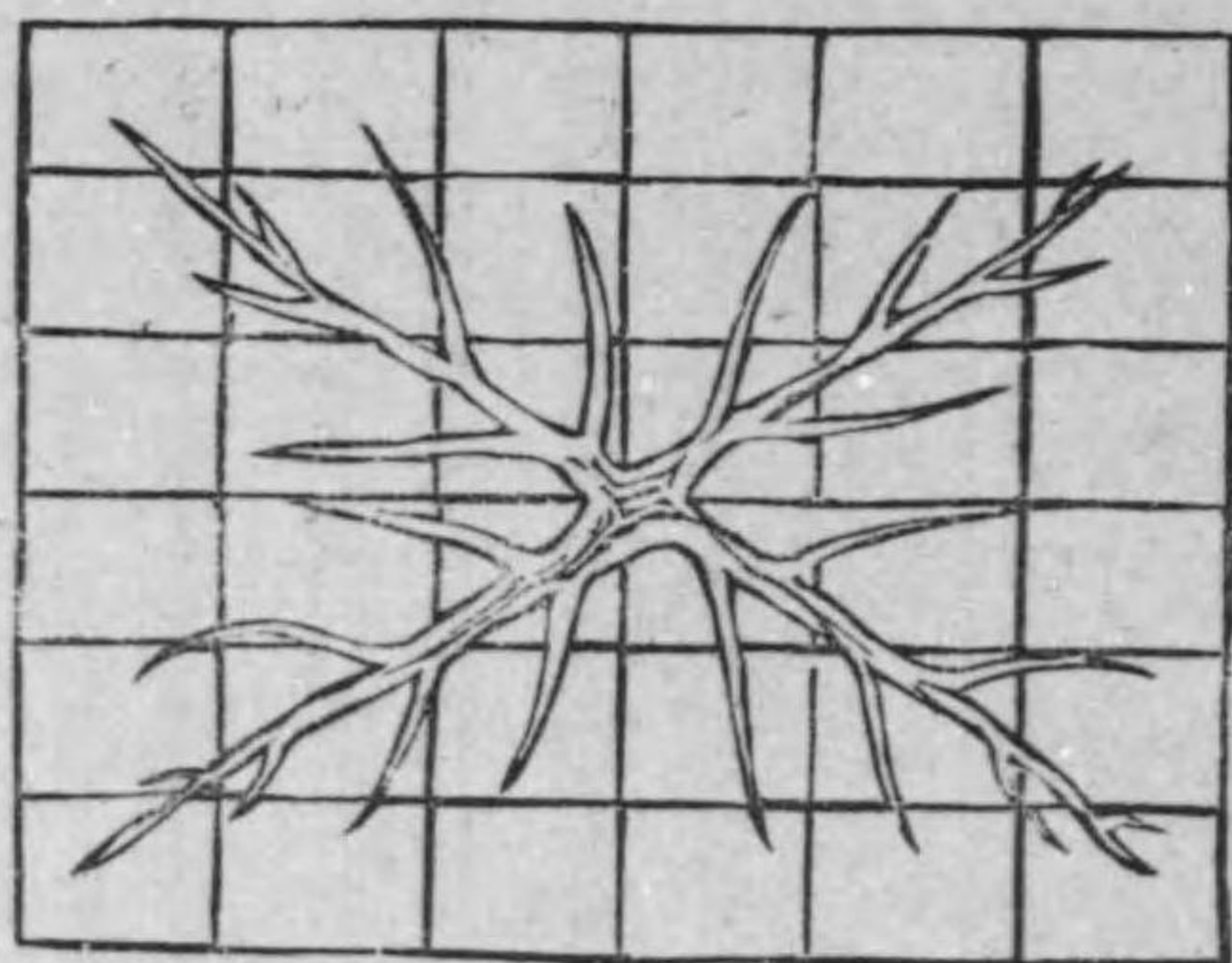
B 棚作りは剪定整枝及病虫害の驅除豫防等凡て作業上に不便多し。

C 果實の品質一般劣り樹姿は他方に比して美觀ならず。

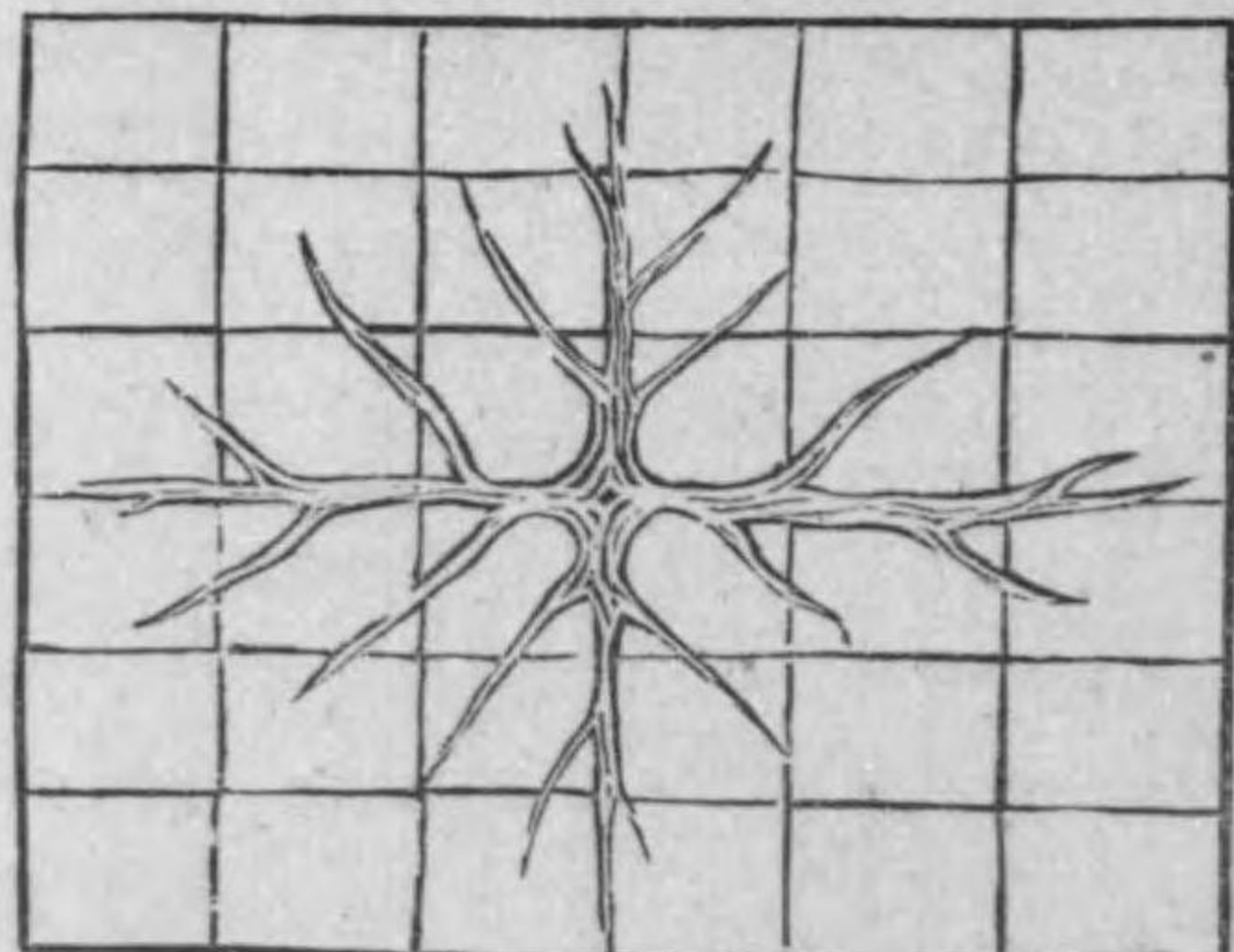
斯の如く一利一害は數の免れざるところにして、棚作に關しては今後大に研究を要すべきことなりとす。

思ふに從來の棚作は専ら樹の生育を自然に任じ、棚の高さは置いて問はず、剪定は棄て、顧みず只々架上空地なからしむるを以つて其主眼となすが如し。これ誤れるの甚だしきものにして、必ずや適當なる剪定を行ふと同時に樹枝の配

第五十四圖



對角線配置



直角線配置法

置をして整然たらしむるを要す。抑々棚作りを行はんとせば先づ健全なる苗木を撰びて之を二間四方一反歩七十五本の割合を以て栽植するを常とするも、

土地余りに肥沃なる

時はこれより栽植距

離を遠からしめ、瘠薄

なる時は近からしむ。

而して定植し終らば

五尺二寸の高さに四

芽を残して剪定を行

ひ、既に發芽生長して

約一尺五寸位に及べ

ば他日棚上に屈曲誘

引するに便ならしめんが爲め、これ等の嫩梢に曲げるところの癖を付けるべく、凡そ一二月間支柱を立つるは甚だ肝要なる作業なり。